

土岐市男女共同参画に関する
アンケート調査
【調査結果報告書】

令和5年3月

土 岐 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	2
3	報告書の見方	3
II	市民調査結果	5
1	回答者の属性	6
2	家庭生活について	13
3	地域生活について	29
4	就労・働き方について	43
5	DV（ドメスティック・バイオレンス）、ハラスメントについて	58
6	性の多様性について	72
7	困難を抱える女性への支援について	74
8	男女共同参画全般について	75
III	事業所調査結果	77
1	回答事業所の概要	78
2	事業所の男女共同参画状況について	83
3	育児や介護に関する制度について	87
4	ワーク・ライフ・バランスについて	94
5	女性の活躍について	96
6	ハラスメントについて	102
7	男女共同参画の形成について	104
IV	小中学生調査結果	105
1	回答者の属性	106
2	家庭について	106
3	経験や考え方について	112
4	将来のことなどについて	116
5	男女共同参画全般について	121

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態等を調査し、類似の意識調査と比較・検証することにより、男女共同参画社会の実現に向けての施策展開の基礎とするとともに「第3次土岐市男女共同参画プラン」策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の実施概要

■調査に関する事項

区 分	内 容
調査対象	市民 : 18歳以上の男女2,000人を無作為抽出 事業所 : 市内事業者200社を無作為抽出 小中学生 : 市内の小学校8校から5年生499人、市内の中学校6校から2年生462人をそれぞれ抽出
調査票の配布・回収	市民 : 郵送配布・郵送回収またはWEB回答 事業所 : 郵送配布・郵送回収 小中学生 : 各学校を通じたタブレット端末によるWEB回答
調査基準日	令和4年9月1日
調査期間	市民 : 令和4年9月12日～9月26日 事業所 : 令和4年9月12日～9月26日 小中学生 : 令和4年9月12日～9月22日

■配布・回収に関する事項

調査区分	市民	事業所	小学生	中学生
配布数(A)	2,000	200	499	462
回収件数(B)	706	89	385	207
紙面回答	528	89	—	—
WEB回答	178	—	385	207
回収率(B/A)	35.3%	44.5%	77.2%	44.8%

3 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。なお、クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数の合計と全体の回答者総数は合致しません。

●「n」について

グラフ中の「n」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

●「不明・無回答」について

図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

●「単数回答」「複数回答」について

図表のタイトルにある「単数回答」は、選択肢の中から1つだけを選ぶもの、「複数回答」は選択肢の中から2つ以上を選ぶものを表します。

●表について

表中の網掛けは、「不明・無回答」を除き、**最も割合の高い項目**と**二番目に割合の高い項目**を表しています。

●全国調査及び岐阜県調査との比較分析について

比較分析において使用したデータの調査名は次のとおりです。なお、国の全国調査において、「無回答」は除外して集計されています。

■引用資料の概要

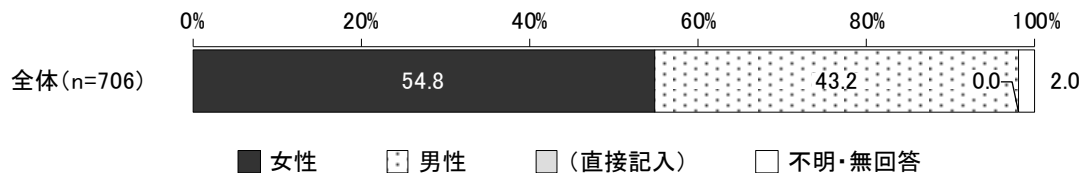
調査実施機関	対象調査	有効回収数			
		全体	女性	男性	その他無回答
国	男女共同参画社会に関する世論調査 (令和元年9月調査、内閣府)	2,645	1,238	1,407	-
	男女共同参画社会に関する世論調査 (令和4年11月調査、内閣府)	2,847	1,534	1,313	-
岐阜県	男女共同参画に関するアンケート調査結果 (令和4年8月調査、岐阜県)	877	496	369	12

II 市民調查結果

1 回答者の属性

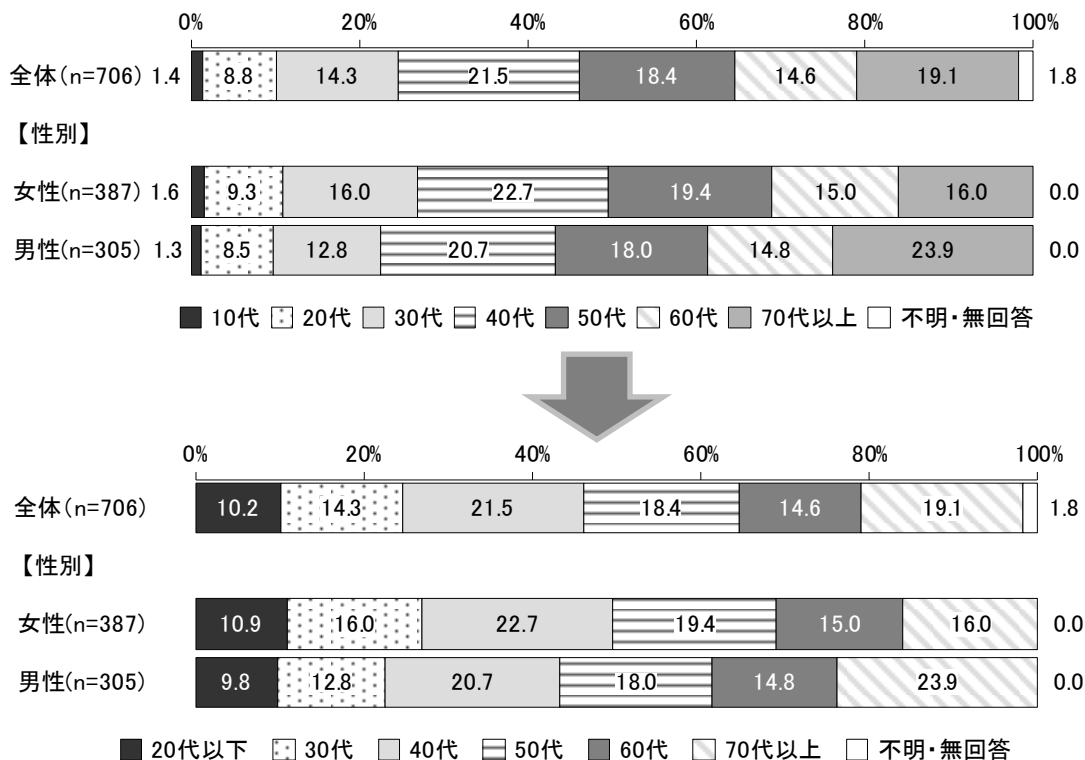
問1 性別（単数回答） ※ご自身が認識する性

回答者の性別は、全体で「女性」が54.8%、「男性」が43.2%となっています。



問2 年齢（単数回答）

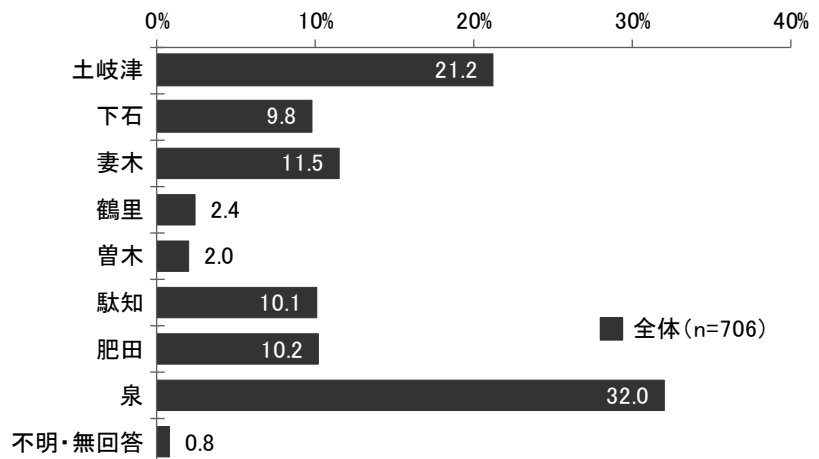
回答者の年齢は、全体で「40代」が21.5%と最も高く、次いで「70代以上」が19.1%となっています。性別では、女性で「40代」が22.7%、男性で「70代以上」が23.9%とそれぞれ最も高くなっています。



※10代の回答者が女性で6名、男性で4名であったため、「20代以下」としてまとめました。以降、年代別のクロスは10代と20代をまとめた区分「20代以下」で表記します。

問3 居住地区（単数回答）

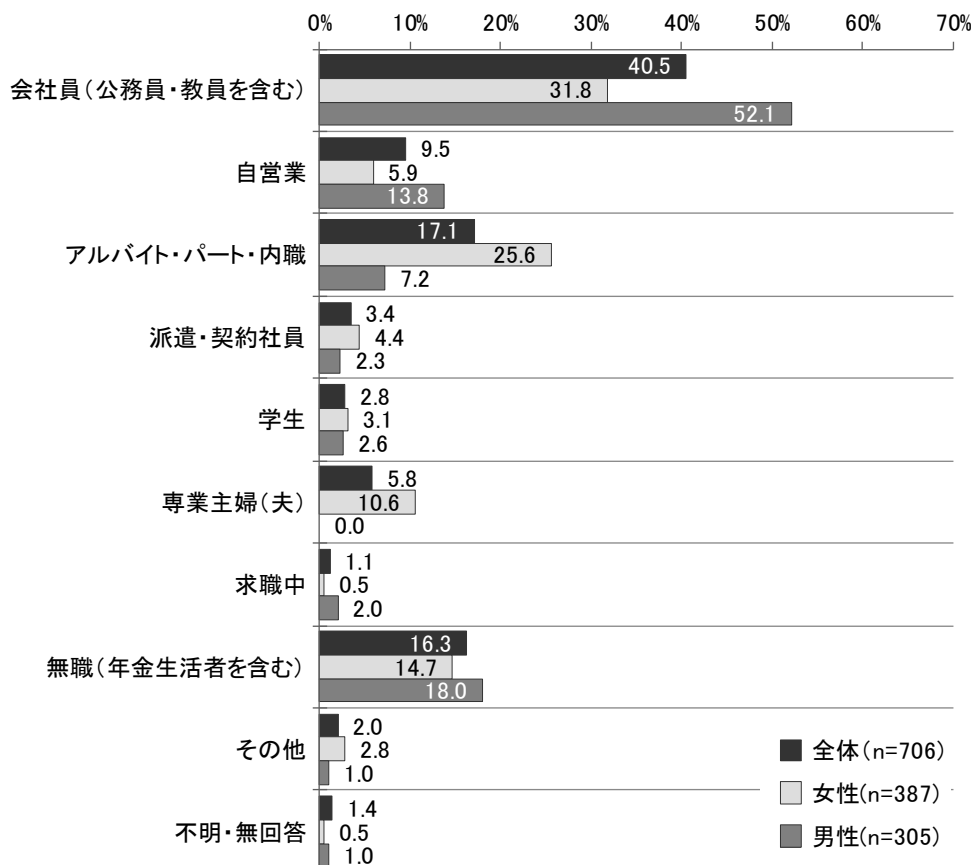
回答者の居住地区は、全体で「泉」が32.0%と最も高く、次いで「土岐津」が21.2%となっています。



問4 主な仕事（単数回答）

回答者の職業は全体で「会社員（公務員・教員を含む）」が40.5%と最も高く、次いで「アルバイト・パート・内職」が17.1%となっています。

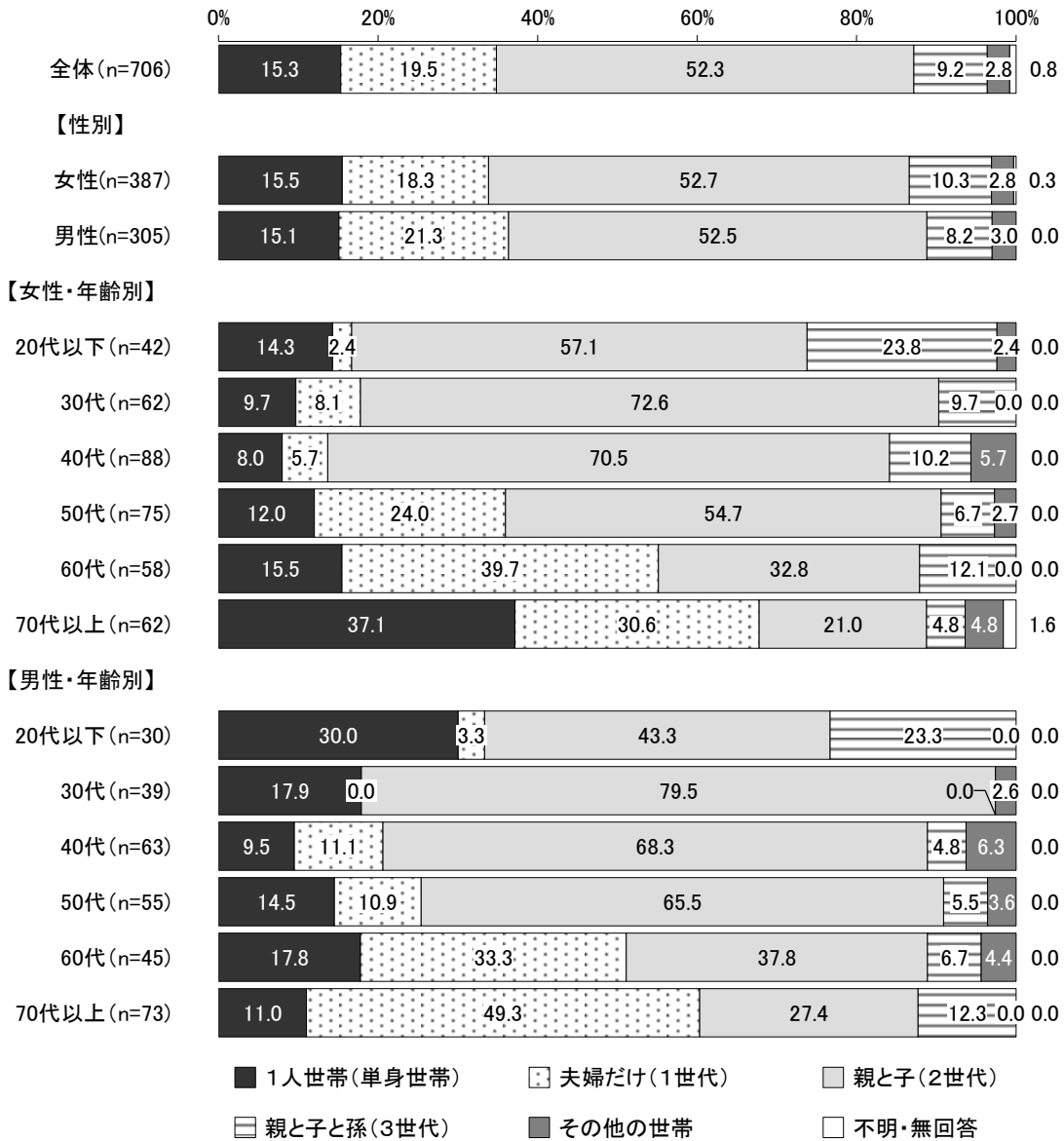
性別では、女性で「アルバイト・パート・内職」が25.6%と、男性と比べて18.4ポイント高くなっています。また、男性は「会社員（公務員・教員を含む）」が52.1%と最も高く、女性と比べて20.3ポイント高くなっています。



問5 家族構成（同居している家族）（単数回答）

回答者の家族構成は、全体で「親と子（2世代）」が52.3%と最も高く、次いで「夫婦だけ（1世代）」が19.5%となっています。

性別・年齢別では「1人世帯（単身世帯）」が、女性の70代以上で37.1%と男性と比べて26.1ポイント、男性の20代以下で30.0%と女性と比べて15.7ポイント、それぞれ高くなっています。

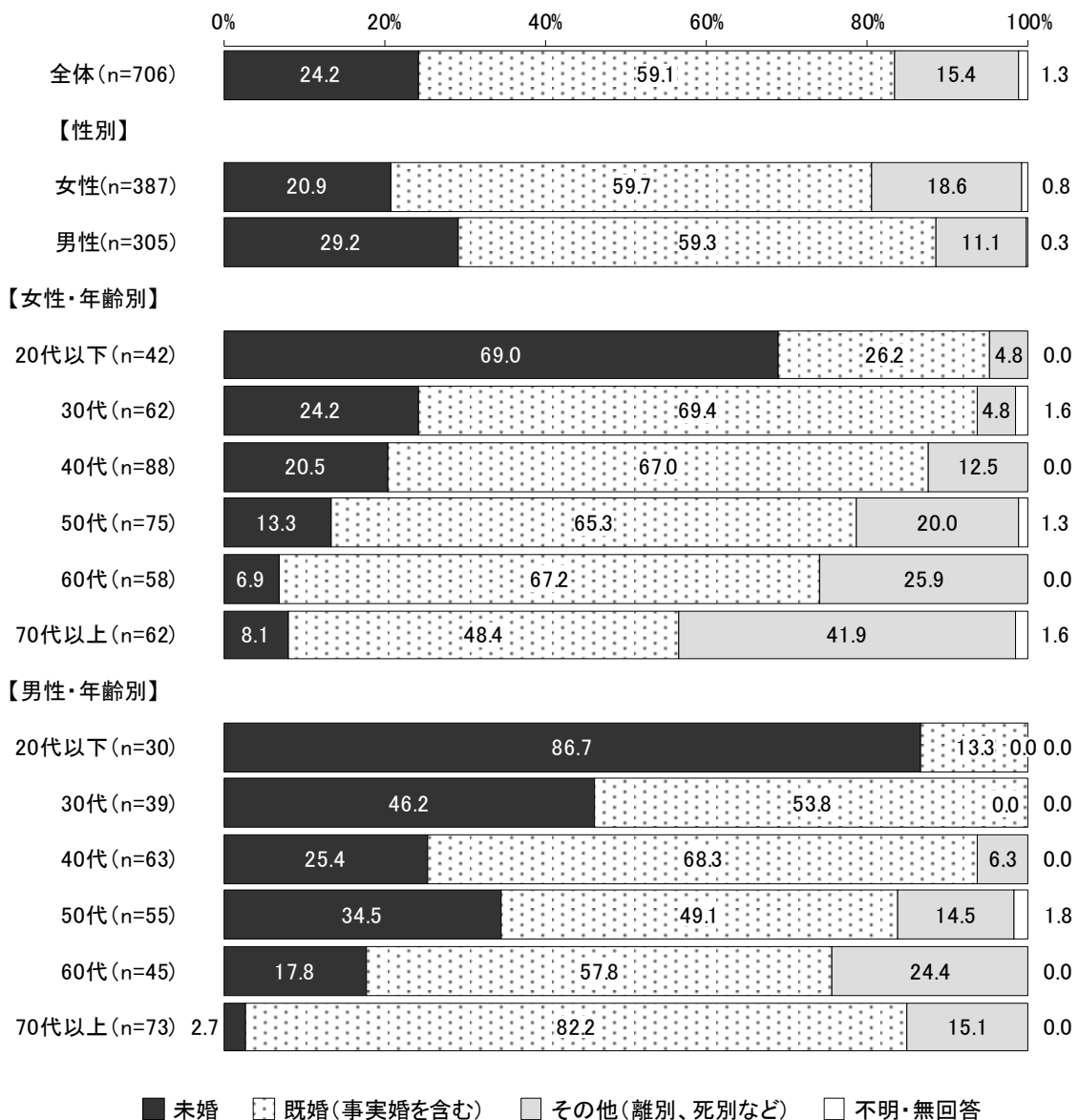


問6 婚姻状況（単数回答）

回答者の婚姻状況は、全体で「未婚」が24.2%、「既婚（事実婚を含む）」が59.1%、「その他（離別、死別など）」が15.4%となっています。

性別では、「既婚（事実婚を含む）」が女性・男性ともに約6割となっています。なお、「未婚」は男性で29.2%と、女性と比べて8.3ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、「既婚（事実婚を含む）」が女性の20代以下で26.2%、男性の20代以下で13.3%と、他の年代と比べて低くなっています。また、男性の50代で49.1%と、同性の他の年代と比べて低くなっています。

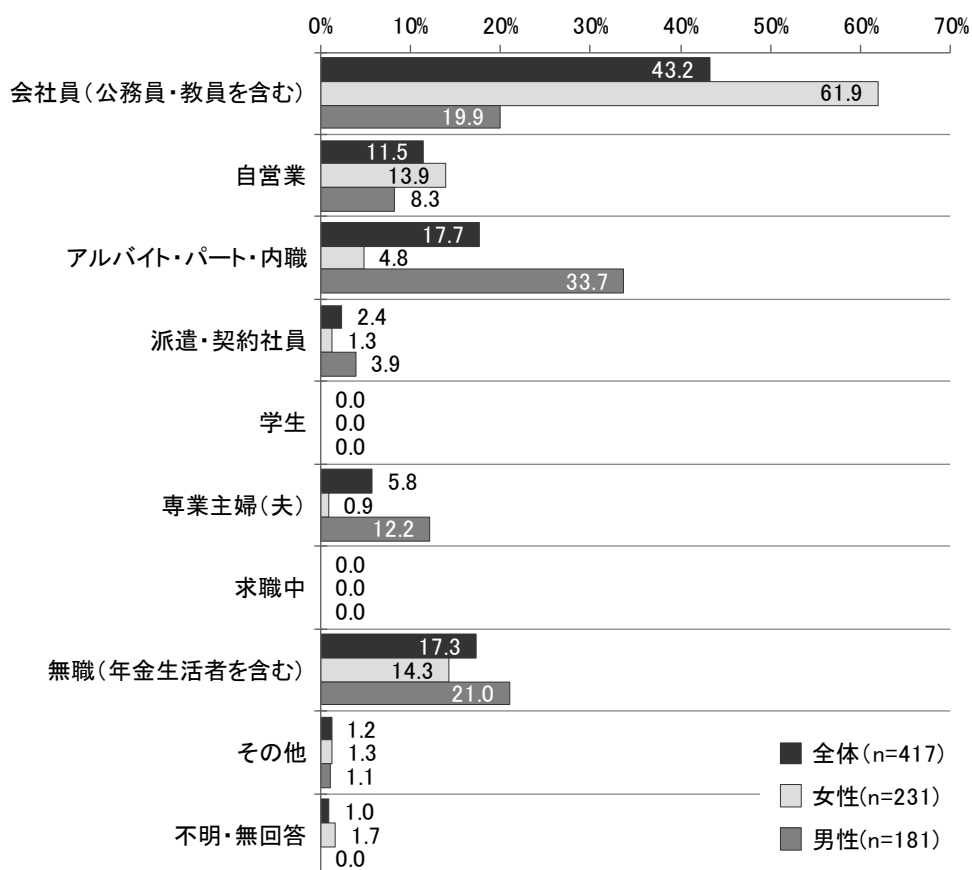


問6で「1.既婚（事実婚を含む）」と回答した方のみ

問7 配偶者・パートナーの職業（単数回答）

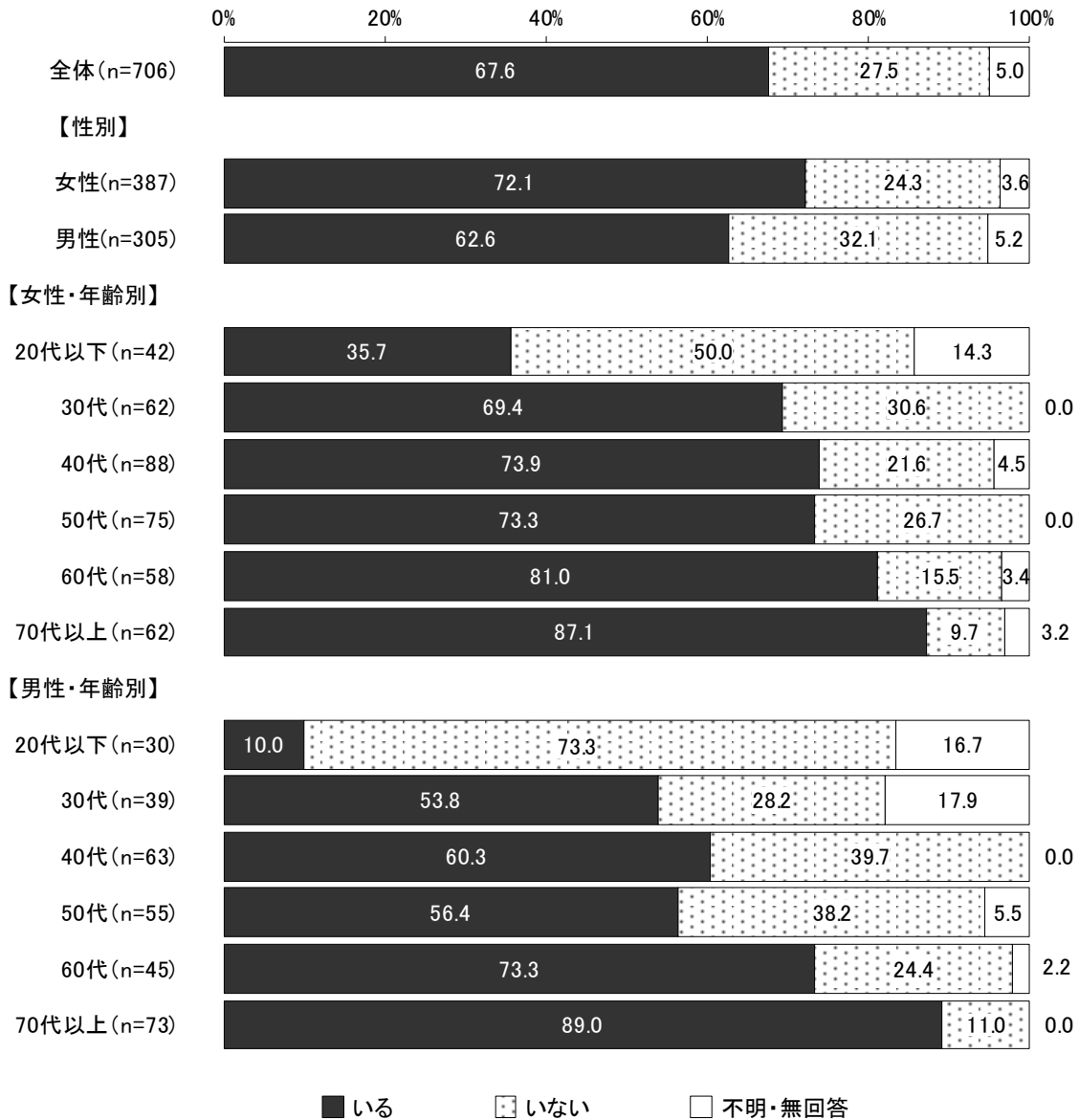
回答者の配偶者・パートナーの職業は、全体で「会社員（公務員・教員を含む）」が43.2%と最も高く、次いで「アルバイト・パート・内職」が17.7%となっています。

性別では、女性回答者の配偶者・パートナーは「会社員（公務員・教員を含む）」が61.9%、男性回答者の配偶者・パートナーは「アルバイト・パート・内職」が33.7%と、それぞれ最も高くなっています。



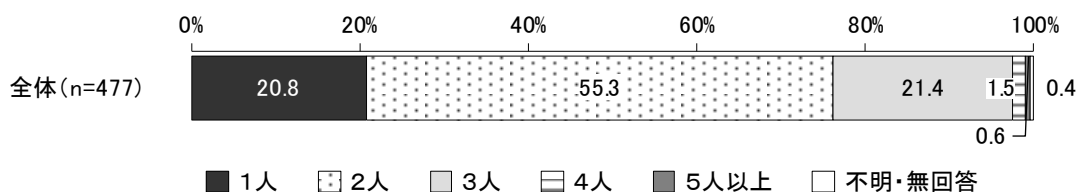
問8 子どもの有無（単数回答）／子どもの人数（数量回答）

回答者の子どもの有無は、全体で「いる」が67.6%、「いない」が27.5%となっています。なお、「いる」と回答した方の子どもの人数は「2人」が55.3%と最も高く、3人以上は23.5%となっています。性別では、「いる」が女性で72.1%、男性で62.6%となっています。性別・年齢別では、「いる」が女性の30代以上で約7割を超えています。



問8で「1. いる」と回答した方のみ

子どもの人数（数量回答）

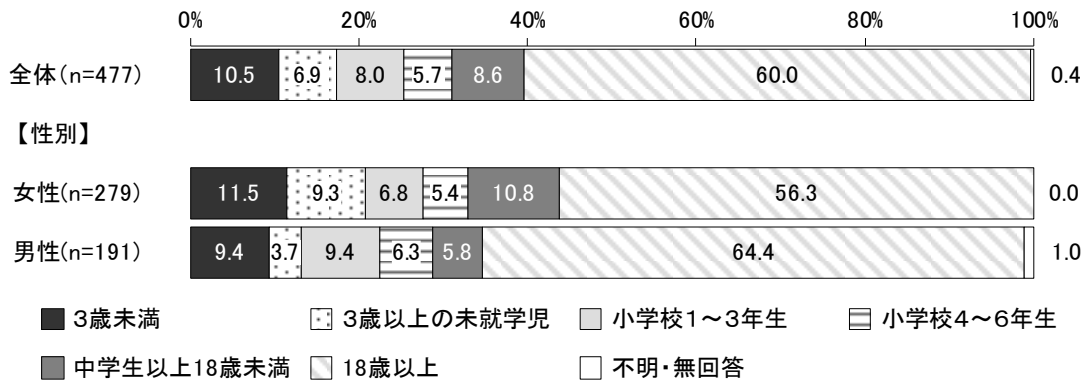


問8で「1. いる」と回答した方のみ

問9 一番下の子どもの年齢・学年等 (単数回答)

子どもがいる方のうち、一番下の子どもの年齢・学年等は、全体で「18歳以上」が60.0%と最も高く、次いで「3歳未満」が10.5%となっています。

性別では、未就学児の子どもがいる方は女性で20.8%、男性で13.1%となっています。



2 家庭生活について

現在、配偶者・パートナー（事実婚を含む）と同居している方のみ（問6で「2. 既婚（事実婚を含む）」と回答した方のみ）

問10 あなたのご家庭では、次にあげる家庭での役割を、主にどなたが担っていますか。
（単数回答）

■A 家事（炊事、洗濯、掃除等）

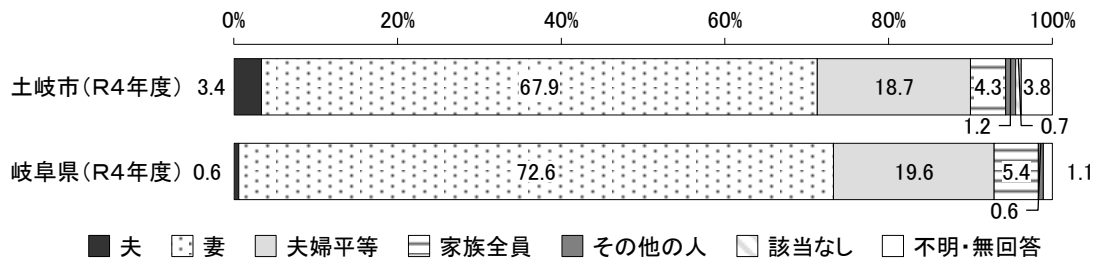
家事（炊事、洗濯、掃除等）を主にする家族は、全体で「妻」が67.9%と最も高く、次いで「夫婦平等」が18.7%となっています。

性別・年齢別では、女性の60代で「妻」が84.6%と高くなっています。



岐阜県調査との比較

岐阜県調査との比較では、土岐市で「夫婦平等」の割合がやや低くなっています。

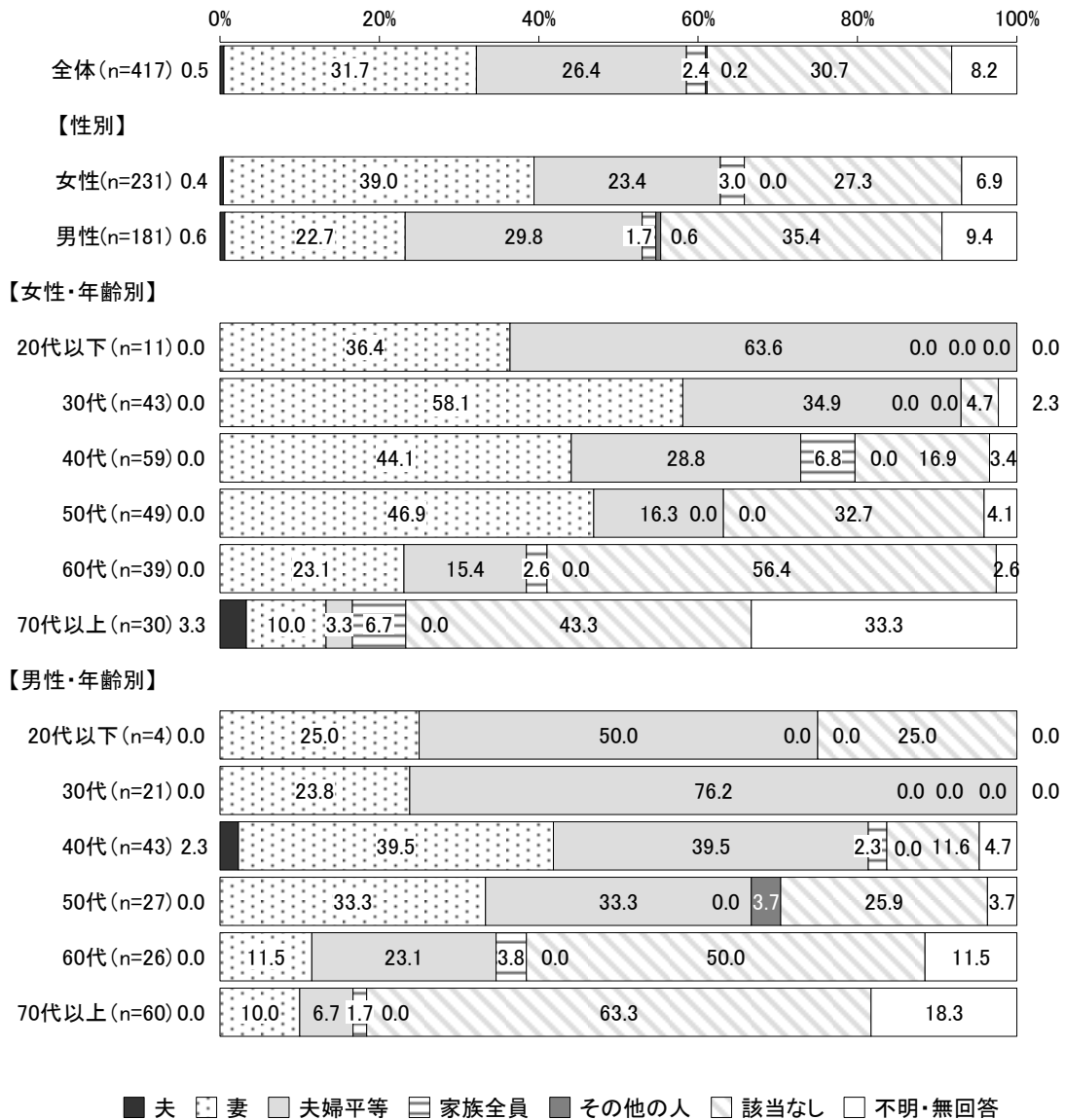


■B 育児（子どもの世話、教育・しつけ等）

育児（子どもの世話、教育・しつけ等）を主にする家族は、全体で「妻」が31.7%と最も高く、次いで「該当なし」が30.7%となっています。なお、「夫婦平等」は26.4%となっています。

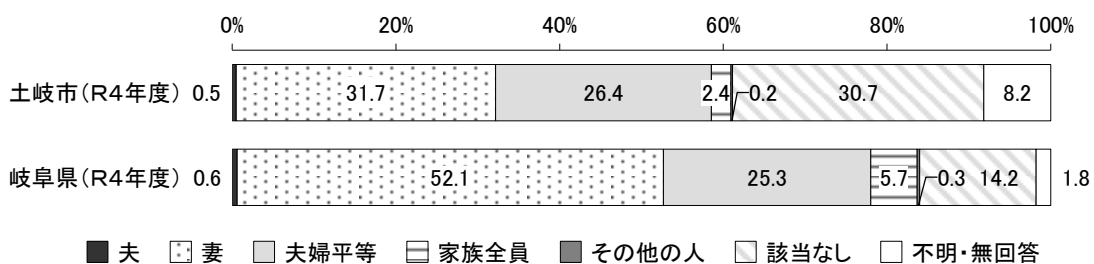
性別では、女性で「妻」が39.0%と、男性と比べて16.3ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、30代で「夫婦平等」が女性で34.9%、男性で76.2%となっています。



岐阜県調査との比較

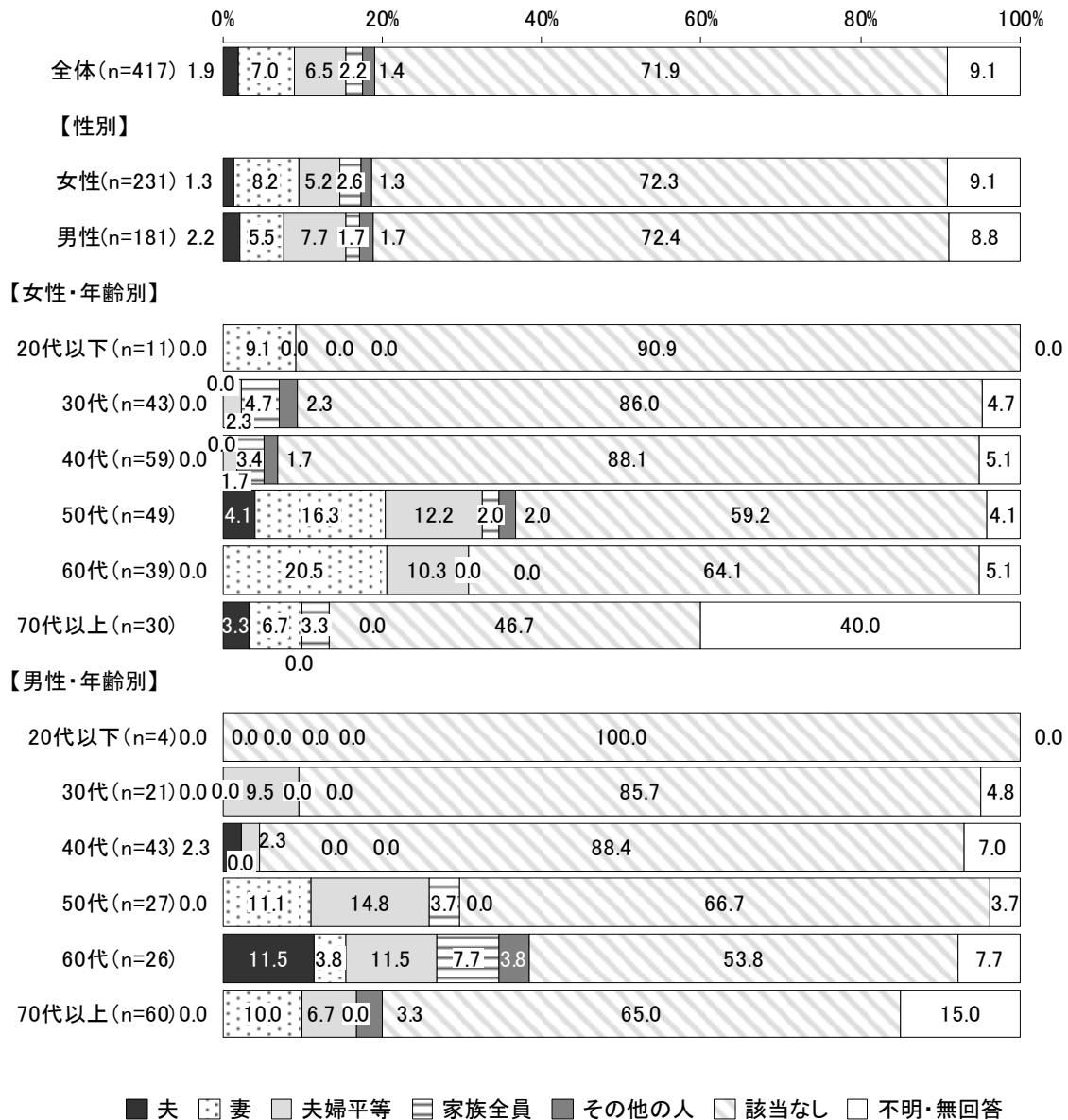
岐阜県調査との比較では、土岐市で「夫婦平等」の割合がやや高くなっています。



■C 高齢者等への介護

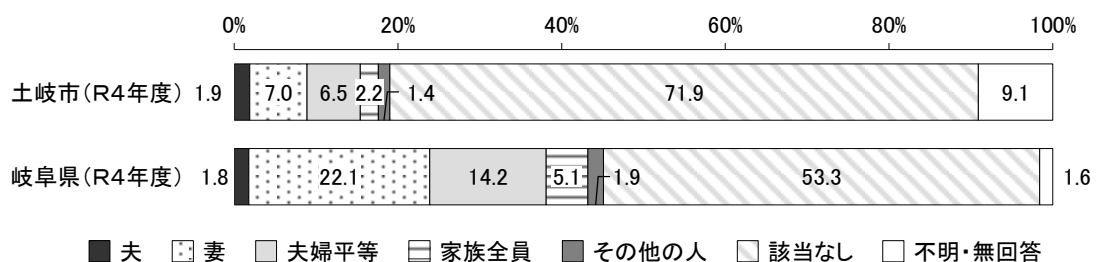
高齢者等への介護を主にする家族は、全体で「該当なし」が71.9%と最も高く、次いで「妻」が7.0%となっています。なお、「夫婦平等」は6.5%となっています。

性別・年齢別では、女性の50代及び60代で「妻」が、男性の60代で「夫」が、それぞれ他の性別・年代と比べて高くなっています。



岐阜県調査との比較

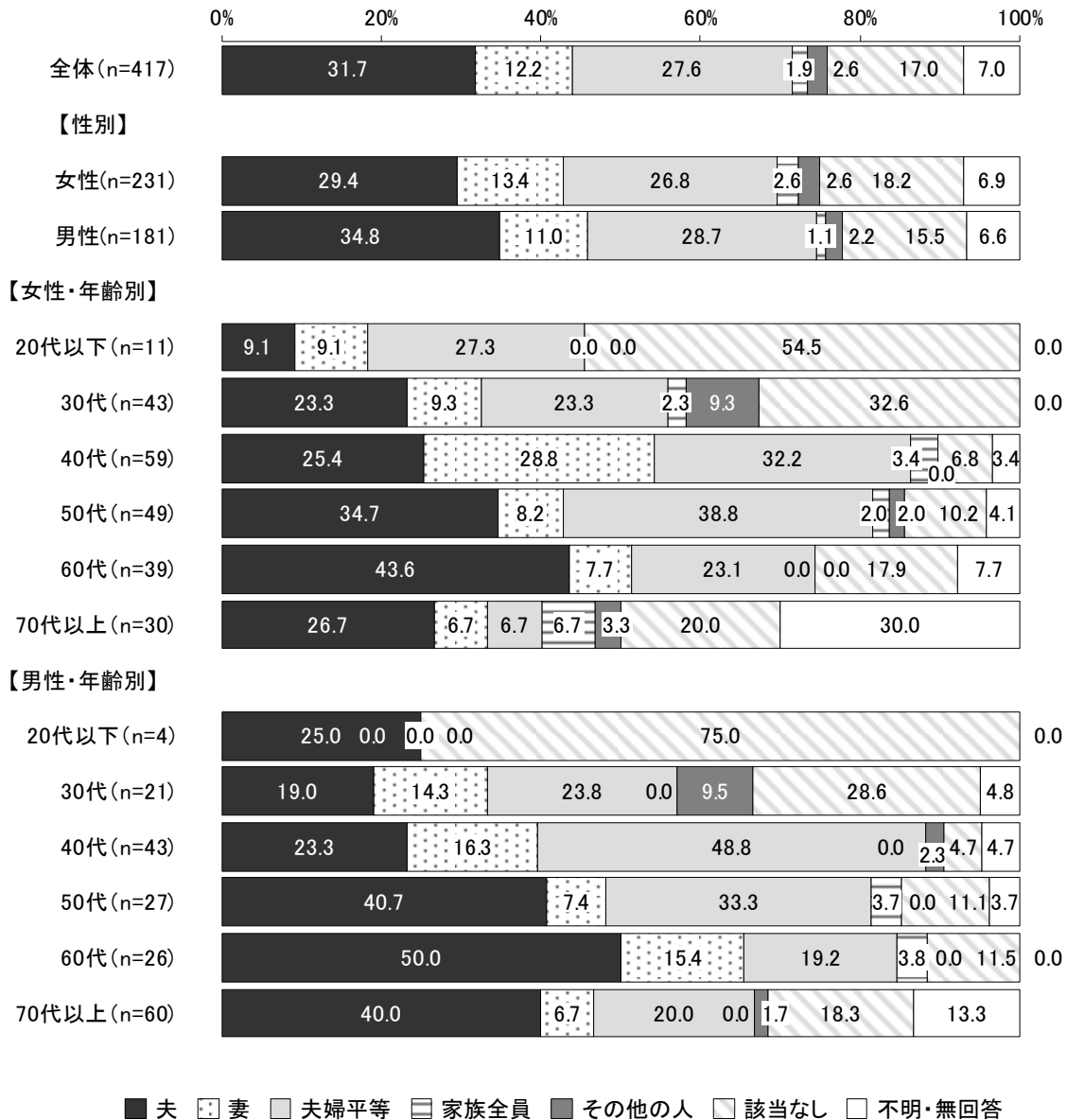
岐阜県調査との比較では、土岐市で「夫婦平等」の割合がやや低くなっています。



■D 地域活動（自治会、PTA活動等）

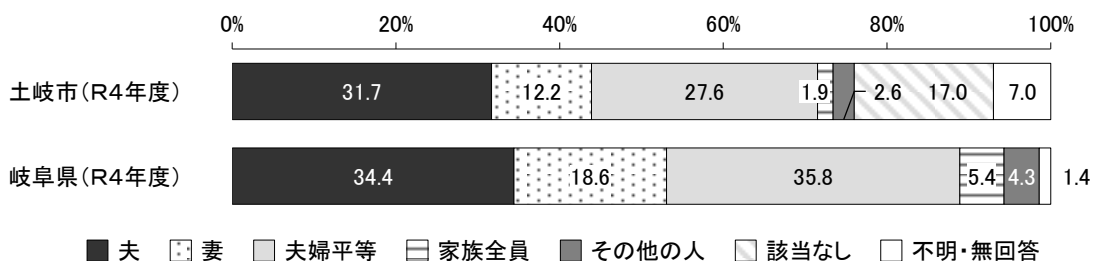
地域活動（自治会、PTA活動等）を主にする家族は、全体で「夫」が31.7%と最も高く、次いで「夫婦平等」が27.6%となっています。

性別・年齢別では、女性の40代で「妻」が、男性の40代で「夫婦平等」が、それぞれ他の性別・年代と比べて高くなっています。



岐阜県調査との比較

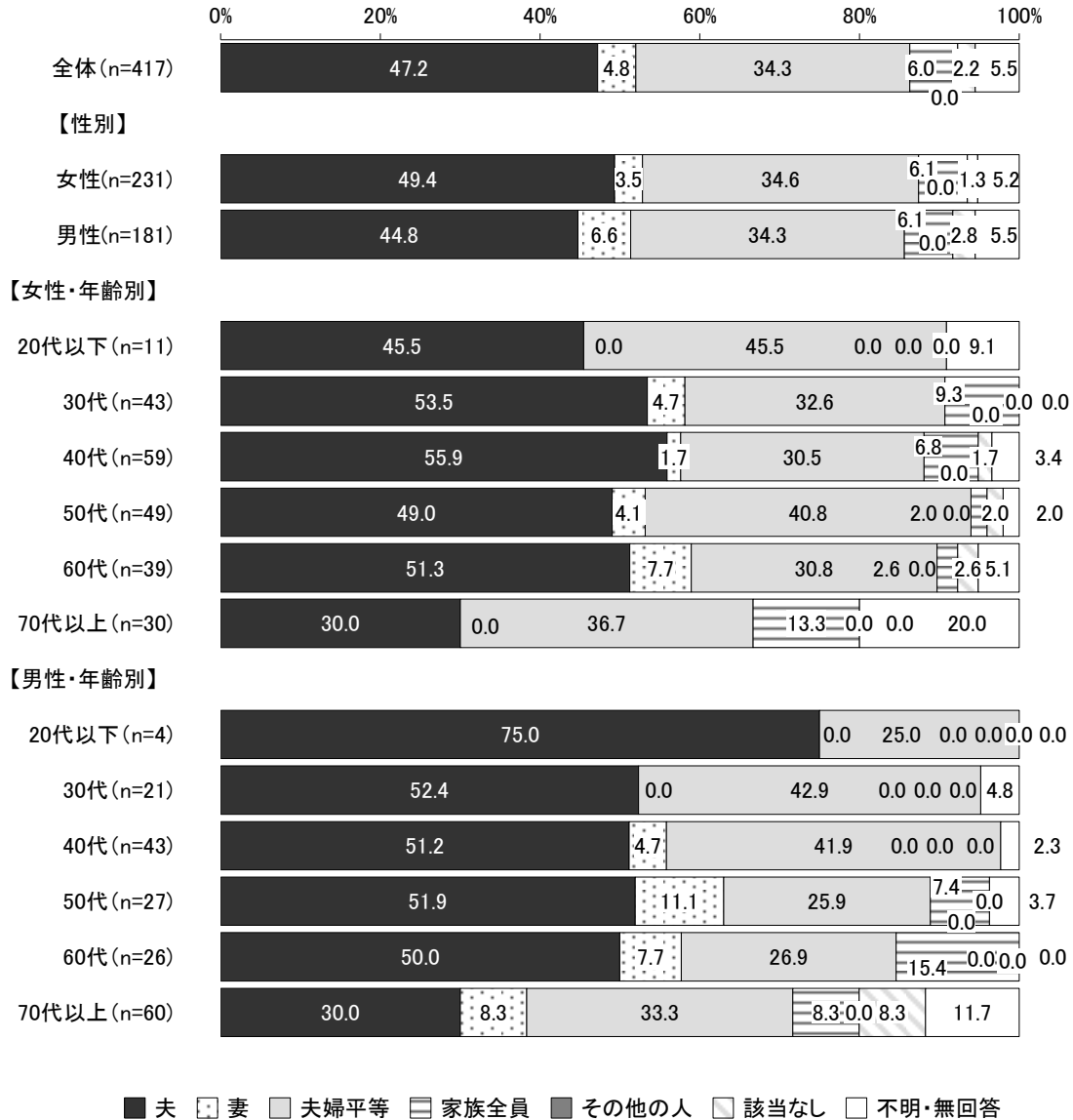
岐阜県調査との比較では、土岐市で「夫婦平等」の割合が低くなっています。



■ E 生活費の確保

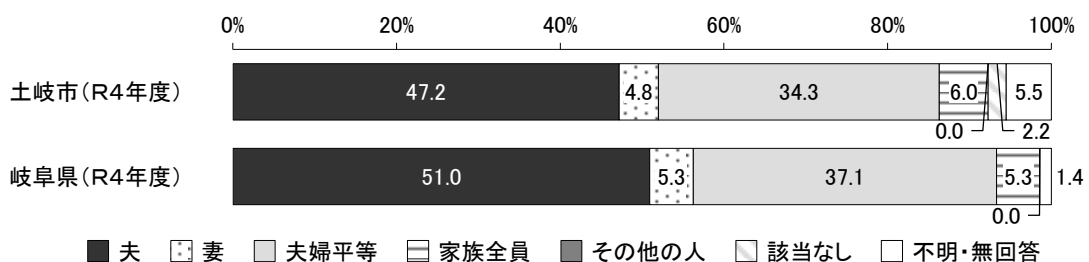
生活費の確保を主にする家族は、全体で「夫」が47.2%と最も高く、次いで「夫婦平等」が34.3%となっています。

性別・年齢別では、男性の50代及び60代で「夫婦平等」が、他の性別・年代と比べてやや低くなっています。



岐阜県調査との比較

岐阜県調査との比較では、土岐市で「夫婦平等」の割合がやや低くなっています。



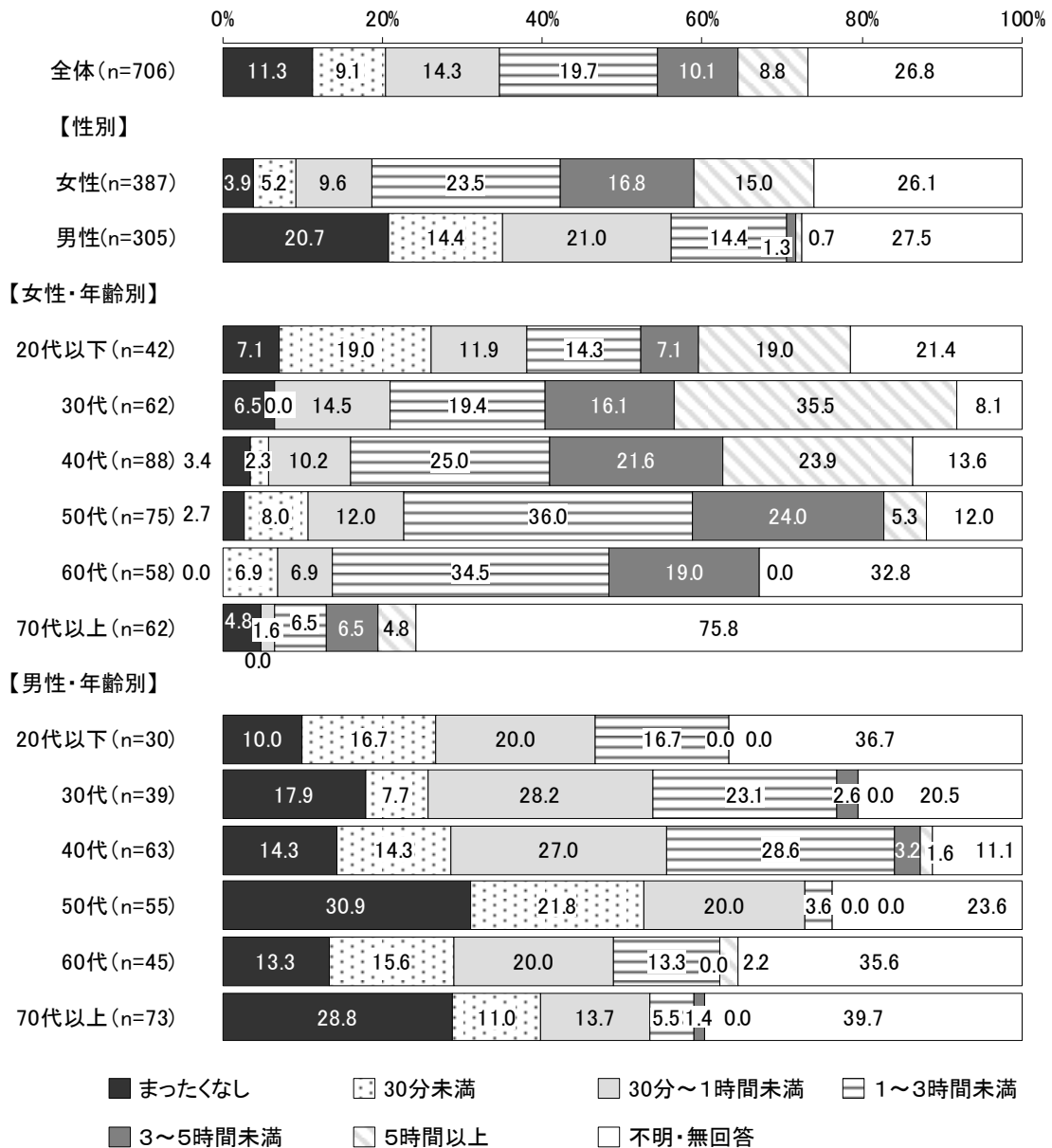
問11 あなたが家事・育児・介護に関わる時間は、1日あたりどれくらいですか。(単数回答)

■A 勤務日

勤務日に家事・育児・介護に関わる時間は、全体で「1～3時間未満」が19.7%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」が14.3%となっています。

性別では、「まったくなし」が男性で20.7%と、女性と比べて16.8ポイント高くなっています。

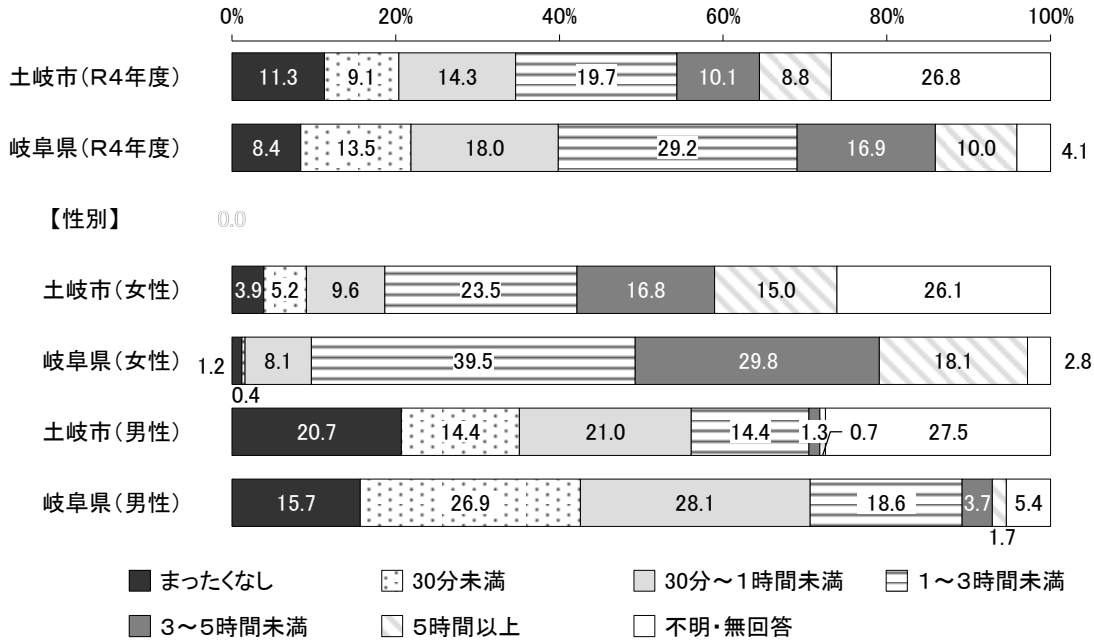
性別・年齢別では、女性の30代で「5時間以上」が35.5%と突出して高くなっており、同様に40代及び20代以下においてもそれぞれ2割前後と高くなっています。女性の30代及び40代の3時間以上はそれぞれ約5割と、他の性別・年代と比べて高くなっています。また、男性の50代及び70代以上で「まったくなし」が3割前後と高く、男性のその他の年代においても1～2割程度みられます。



岐阜県調査との比較

岐阜県調査との比較では、土岐市で「まったくなし」を除き、割合が低くなっています。

性別では、土岐市の女性で「まったくなし」と1時間未満を除き、岐阜県調査と比べて割合が低くなっています。一方、土岐市の男性では「まったくなし」を除き、岐阜県調査と比べて割合が低くなっています。

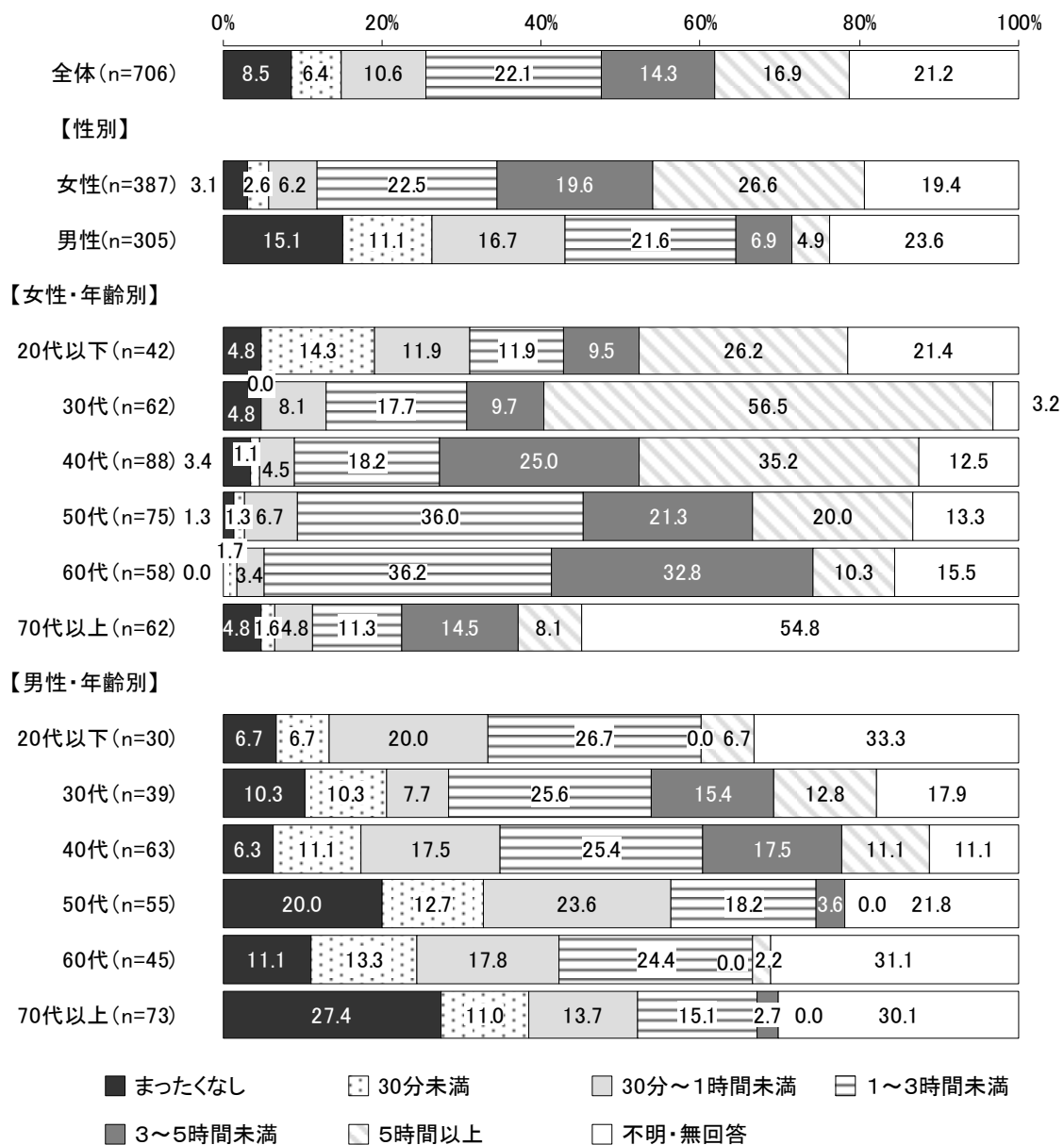


■B 勤務日以外の日

勤務日以外の日に家事・育児・介護に関わる時間は、全体で「1～3時間未満」が22.1%と最も高く、次いで「3～5時間以上」が16.9%となっています。

性別では、男性で「まったくなし」が、女性で「3～5時間未満」「5時間以上」がそれぞれ10ポイント以上高くなっています。

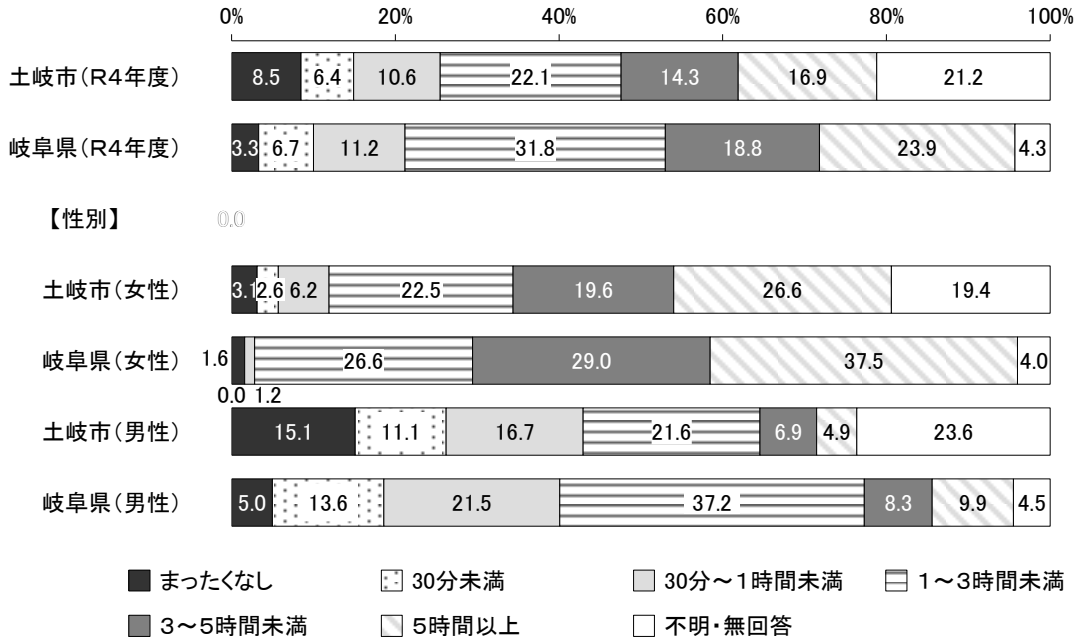
性別・年齢別では、女性の30代で「5時間以上」が56.5%と突出して高くなっており、同様に40代及び20代以下においてもそれぞれ3割前後と高くなっています。女性の30代及び40代の3時間以上はそれぞれ6割以上と、他の性別・年代と比べても高くなっています。また、男性の50代及び70代以上で「まったくなし」が2割以上と高く、男性のその他の年代においても1割程度みられます。なお、男性の30代及び40代で、『勤務日』と比べて3時間以上の割合が高くなっています。



岐阜県調査との比較

岐阜県調査との比較では、土岐市で「まったくなし」を除き、割合が低くなっています。

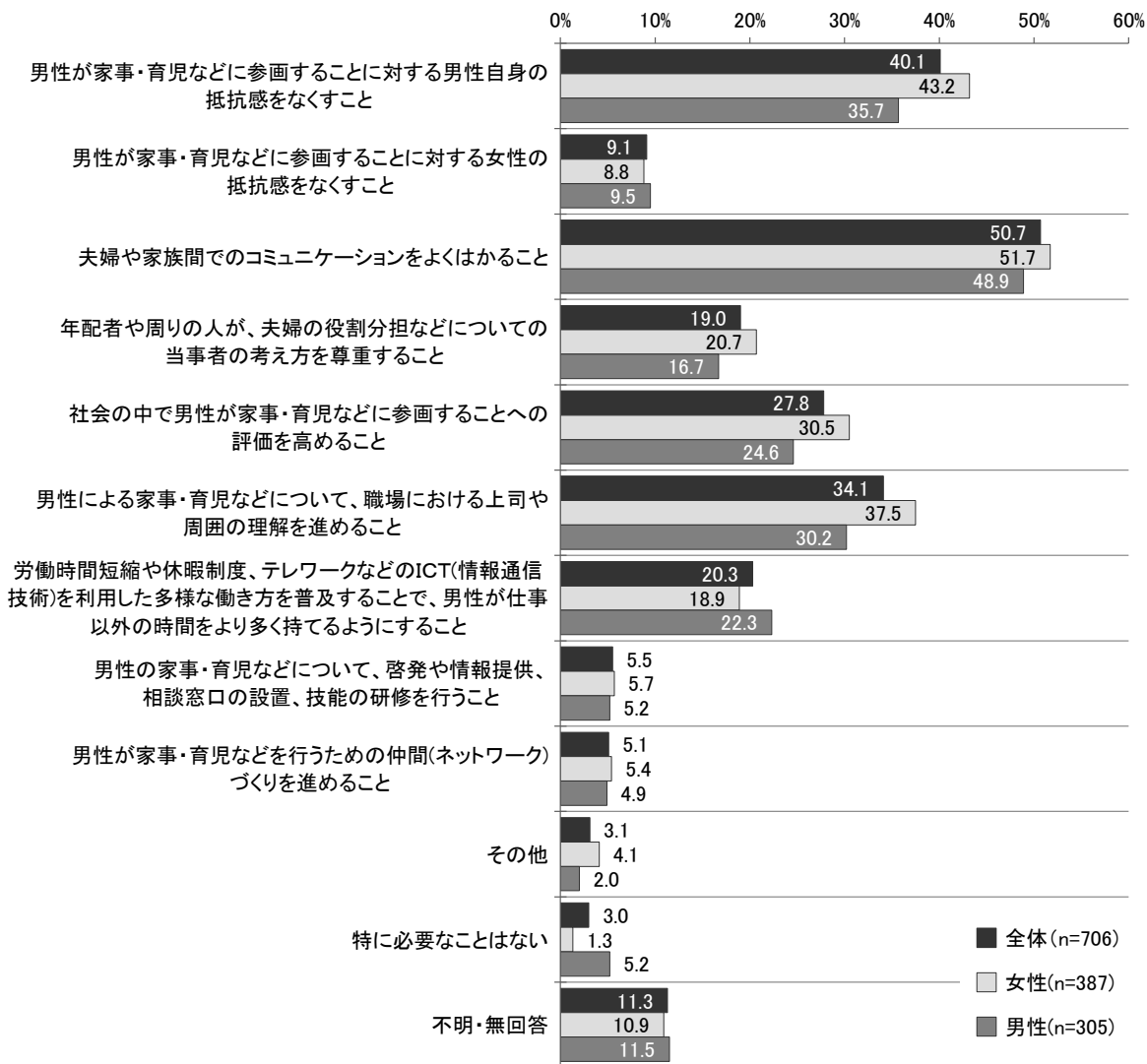
性別では、土岐市の女性で「まったくなし」と1時間未満を除き、岐阜県調査と比べて割合が低くなっています。一方、土岐市の男性では「まったくなし」を除き、岐阜県調査と比べて割合が低くなっています。



問12 あなたは、現在、女性が分担する機会が多い家事・育児・介護等に男性が積極的に参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(複数回答)

女性が分担する機会が多い家事・育児・介護等に男性が積極的に参画していくために重要だと思うことは、全体で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が50.7%と最も高く、次いで「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が40.1%となっています。

性別では、女性で「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が男性と比べて、それぞれ7ポイント程度高くなっています。



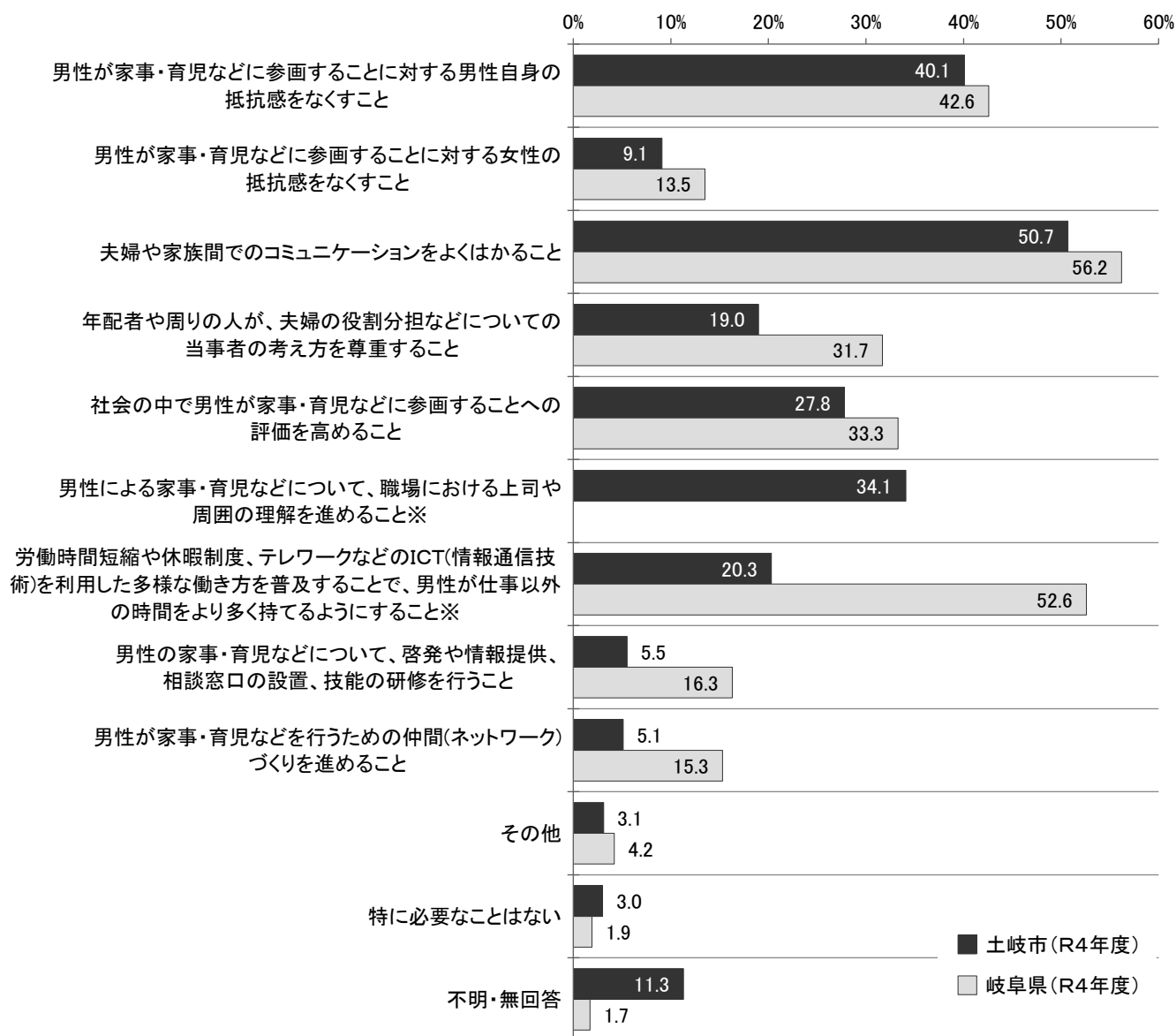
性別・年齢別では、女性の30代以下で「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が5割以上と、他の性別・年代と比べて高くなっています。なお、同項目について男性の40代以下でそれぞれ4割以上と高くなっています。また、女性の40代～60代及び男性の40代～60代で「社会の中で男性が家事・育児などに参画することへの評価を高めること」が、男性の30代～50代で「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及することで、男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が、それぞれ3割前後と高くなっています。

(単位:%)		男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事・育児などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で男性が家事・育児などに参画することへの評価を高めること	男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及することで、男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための仲間(ネットワーク)づくりを進めること	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
	n=												
女性・年齢別													
20代以下	42	38.1	2.4	50.0	21.4	31.0	50.0	26.2	7.1	2.4	2.4	0.0	11.9
30代	62	46.8	3.2	58.1	21.0	25.8	62.9	22.6	8.1	4.8	3.2	1.6	1.6
40代	88	40.9	6.8	45.5	25.0	34.1	38.6	21.6	3.4	8.0	5.7	1.1	9.1
50代	75	49.3	10.7	53.3	21.3	30.7	33.3	14.7	5.3	8.0	8.0	1.3	5.3
60代	58	50.0	15.5	60.3	20.7	34.5	24.1	17.2	3.4	0.0	1.7	1.7	10.3
70代以上	62	32.3	12.9	45.2	12.9	25.8	19.4	12.9	8.1	6.5	1.6	1.6	29.0
男性・年齢別													
20代以下	30	36.7	23.3	33.3	10.0	23.3	40.0	16.7	0.0	6.7	0.0	0.0	26.7
30代	39	25.6	10.3	51.3	12.8	17.9	43.6	33.3	7.7	0.0	0.0	2.6	12.8
40代	63	31.7	11.1	54.0	9.5	31.7	44.4	28.6	1.6	3.2	3.2	6.3	1.6
50代	55	38.2	9.1	47.3	16.4	25.5	23.6	25.5	7.3	5.5	1.8	7.3	7.3
60代	45	44.4	8.9	44.4	17.8	31.1	22.2	15.6	11.1	6.7	2.2	4.4	11.1
70代以上	73	37.0	2.7	53.4	27.4	17.8	16.4	15.1	4.1	6.8	2.7	6.8	16.4

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

岐阜県調査との比較（全体）

岐阜県調査との比較では、土岐市はいずれの項目においても割合が低くなっています。特に、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及することで、男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が岐阜県調査では約5割となっているものの、土岐市では20.3%にとどまっています。



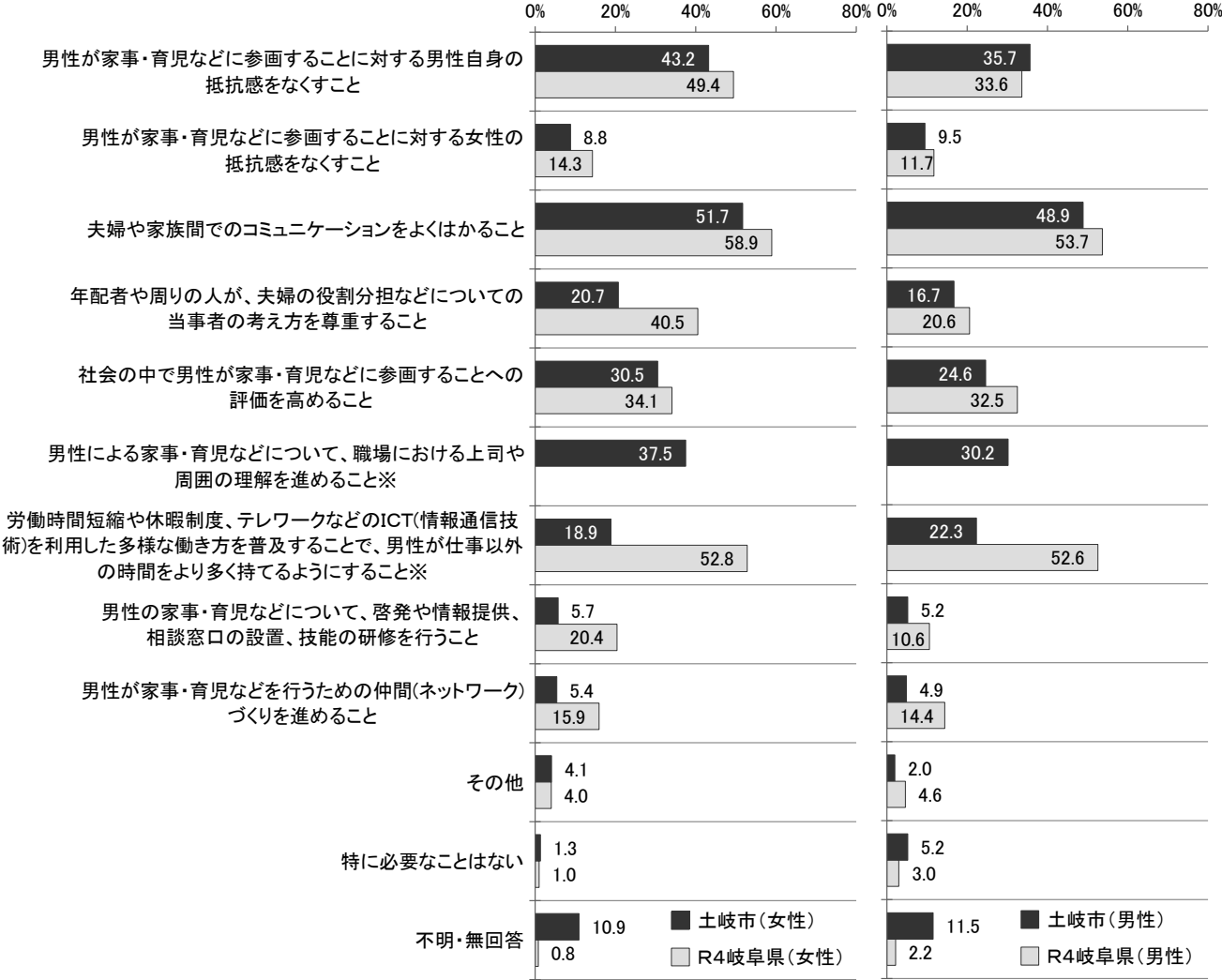
※選択肢「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及することで、男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」について、岐阜県(R4年度)調査では「労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」となっています。

※上記の項目の結果のほか、岐阜県(R4年度)調査では「テレワークやフレックスタイム制度など、多様で柔軟な働き方が可能になること」(34.7%)があります。

※選択肢「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」は、土岐市独自の項目です。

岐阜県調査との比較（性別）

岐阜県調査との性別での比較では、土岐市の女性で「その他」「特に必要なことはない」を除き、割合が低くなっています。一方、土岐市の男性では、「男性が家事・育児などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「特に必要なことはない」を除き、割合が低くなっています。



※選択肢「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICT(情報通信技術)を利用した多様な働き方を普及することで、男性が仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」について、岐阜県(R4年度)調査では「労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境の整備」、岐阜県(R4年度)調査では「労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」となっています。

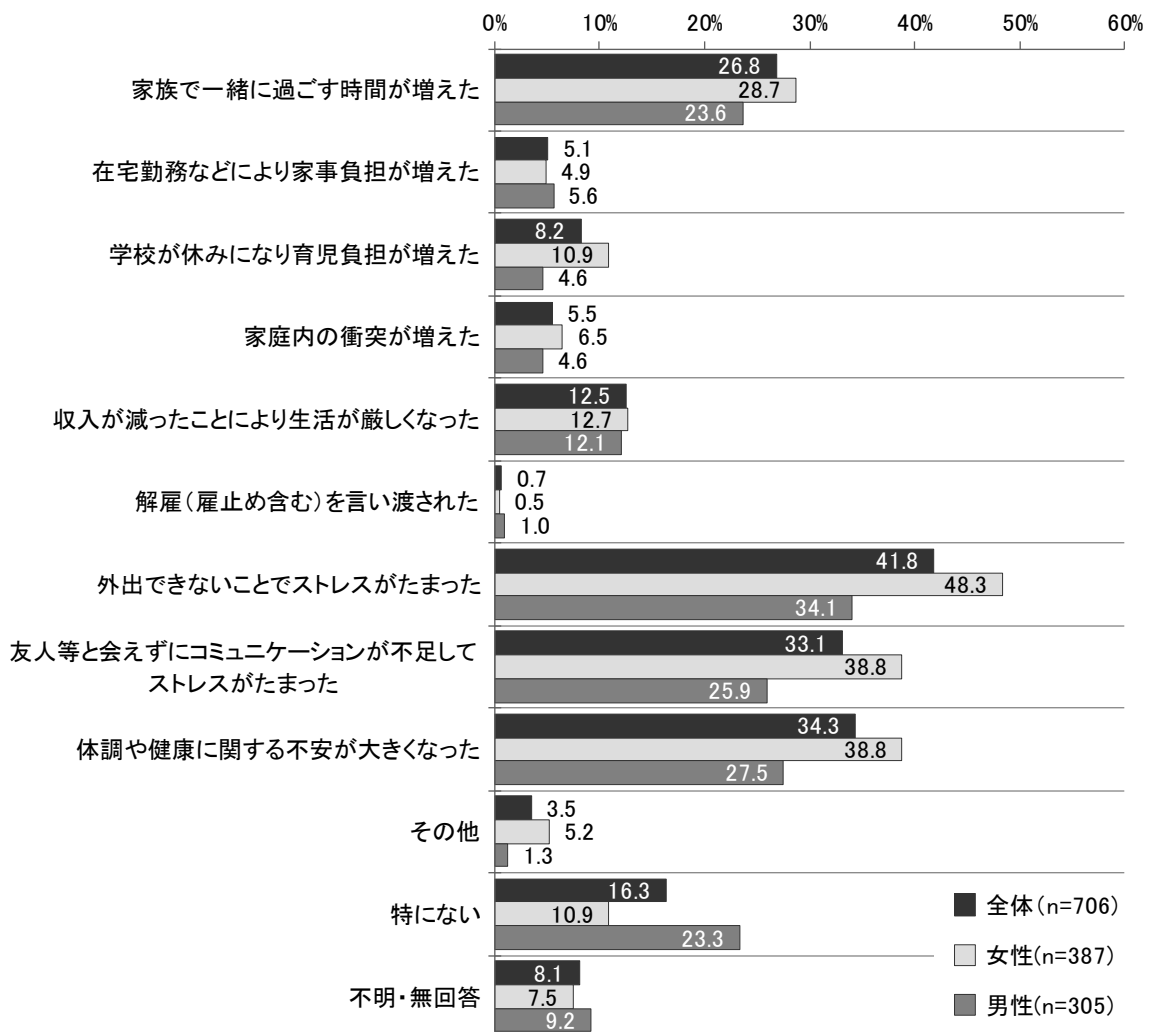
※上記の項目の結果のほか、岐阜県(R4年度)調査では「柔軟な働き方」(女性37.9%・男性29.5%)があります。

※選択肢「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」は、土岐市独自の項目です。

問13 あなた自身の状況について、新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間などにおいて、次のような変化がありましたか。(複数回答)

自分自身の状況について、新型コロナウイルス感染症拡大による自粛期間などにおける変化等は、全体で「外出できないことでストレスがたまった」が41.8%と最も高く、次いで「体調や健康に関する不安が大きくなった」が34.3%となっています。

性別では、女性で「外出できないことでストレスがたまった」「体調や健康に関する不安が大きくなった」「友人等と会えずにコミュニケーションが不足してストレスがたまった」が、男性と比べてそれぞれ10ポイント以上高くなっています。



性別・年齢別では、女性・男性ともに30代及び40代で「学校が休みになり育児負担が増えた」がそれぞれ他の性別・年代と比べて高く、特に女性の40代では26.1%と高くなっています。また、女性の30代～50代で「外出できないことでストレスがたまった」がそれぞれ5割を超えて高くなっており、30代では61.3%となっています。さらに、女性の30代では「体調や健康に関する不安が大きくなった」が56.5%と、他の性別・年代と比べて高くなっています。

(単位: %)	n=	家族で一緒に過ごす時間が増えた	在宅勤務などにより家事負担が増えた	学校が休みになり育児負担が増えた	家庭内の衝突が増えた	収入が減ったことにより生活が厳しくなった	解雇(雇止め含む)を言い渡された	外出できないことでストレスがたまった	友人等と会えずにコミュニケーションが不足してストレスがたまった	体調や健康に関する不安が大きくなった	その他	特になし	不明・無回答
女性・年齢別													
20代以下	42	28.6	0.0	9.5	7.1	11.9	0.0	38.1	35.7	28.6	4.8	11.9	11.9
30代	62	43.5	3.2	17.7	4.8	16.1	0.0	61.3	48.4	56.5	0.0	6.5	1.6
40代	88	29.5	4.5	26.1	9.1	13.6	1.1	51.1	34.1	38.6	8.0	10.2	6.8
50代	75	25.3	9.3	2.7	8.0	12.0	0.0	52.0	45.3	36.0	10.7	12.0	2.7
60代	58	29.3	6.9	0.0	1.7	15.5	0.0	43.1	25.9	31.0	3.4	13.8	10.3
70代以上	62	16.1	3.2	3.2	6.5	6.5	1.6	38.7	41.9	38.7	1.6	11.3	14.5
男性・年齢別													
20代以下	30	23.3	6.7	0.0	10.0	3.3	0.0	43.3	43.3	16.7	3.3	13.3	23.3
30代	39	33.3	10.3	15.4	5.1	7.7	2.6	38.5	20.5	30.8	0.0	17.9	10.3
40代	63	30.2	6.3	11.1	4.8	14.3	1.6	38.1	25.4	20.6	0.0	27.0	1.6
50代	55	21.8	9.1	1.8	7.3	12.7	0.0	27.3	18.2	34.5	0.0	20.0	7.3
60代	45	20.0	2.2	0.0	2.2	26.7	0.0	37.8	20.0	26.7	0.0	24.4	8.9
70代以上	73	16.4	1.4	0.0	1.4	6.8	1.4	27.4	31.5	31.5	4.1	28.8	11.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

3 地域生活について

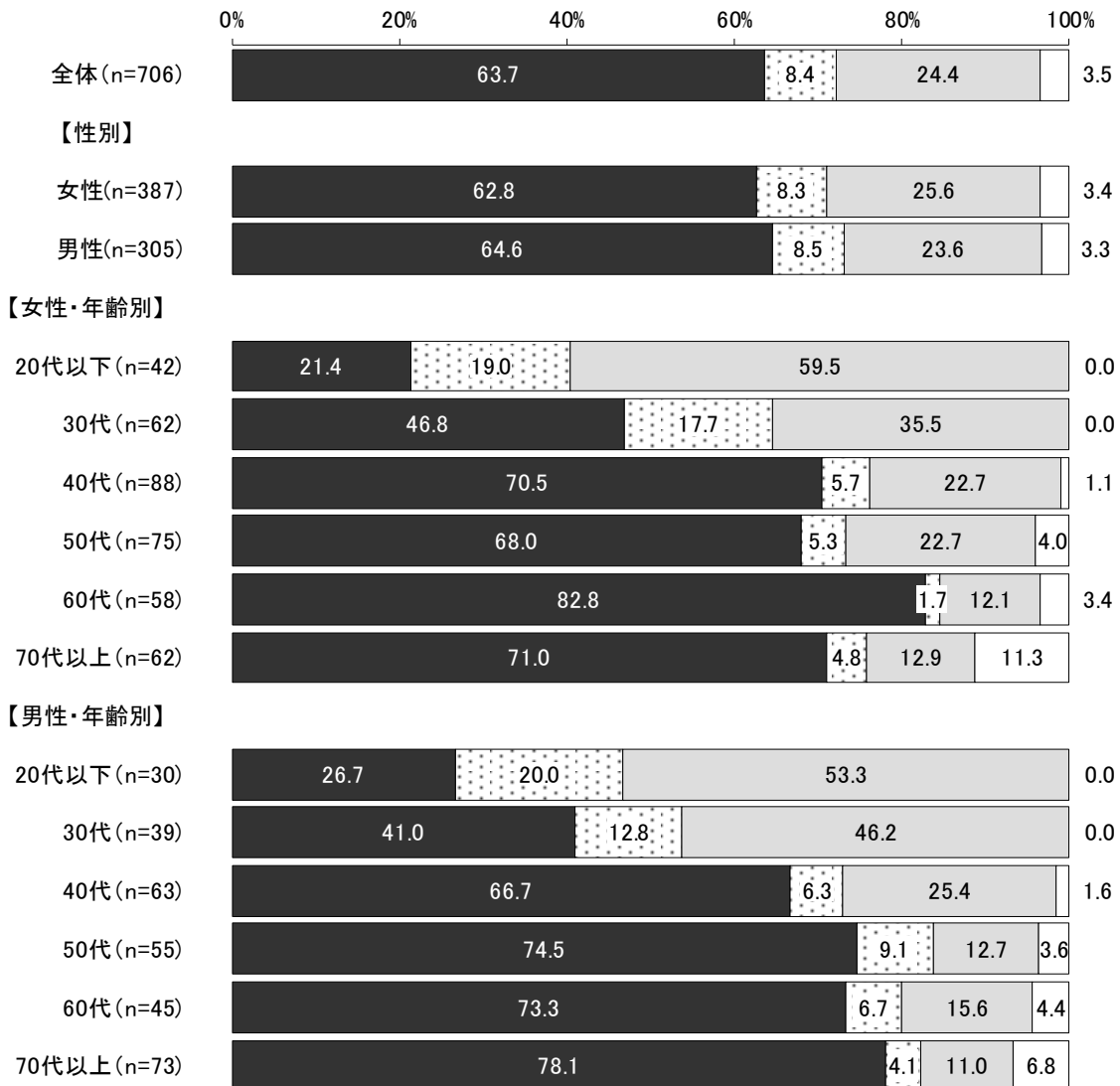
問 14 あなた自身の地域・個人の生活についてお答えください。(単数回答)

■A 町内会や自治会の活動

町内会や自治会の活動は、全体で「現在、参加している、または、参加したことがある」が63.7%、「現在、参加していないが、今後参加したい」が8.4%、「現在、参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が24.4%となっています。

性別では、10ポイントを超える大差はみられません。

性別・年齢別では、「現在、参加していないが、今後参加したい」が女性の30代以下で約2割、男性の20代以下で20.0%と、それぞれ他の性別・年代と比べて高くなっています。なお、20代以下の女性・男性ともに「現在、参加している、または、参加したことがある」は2～3割程度となっています。



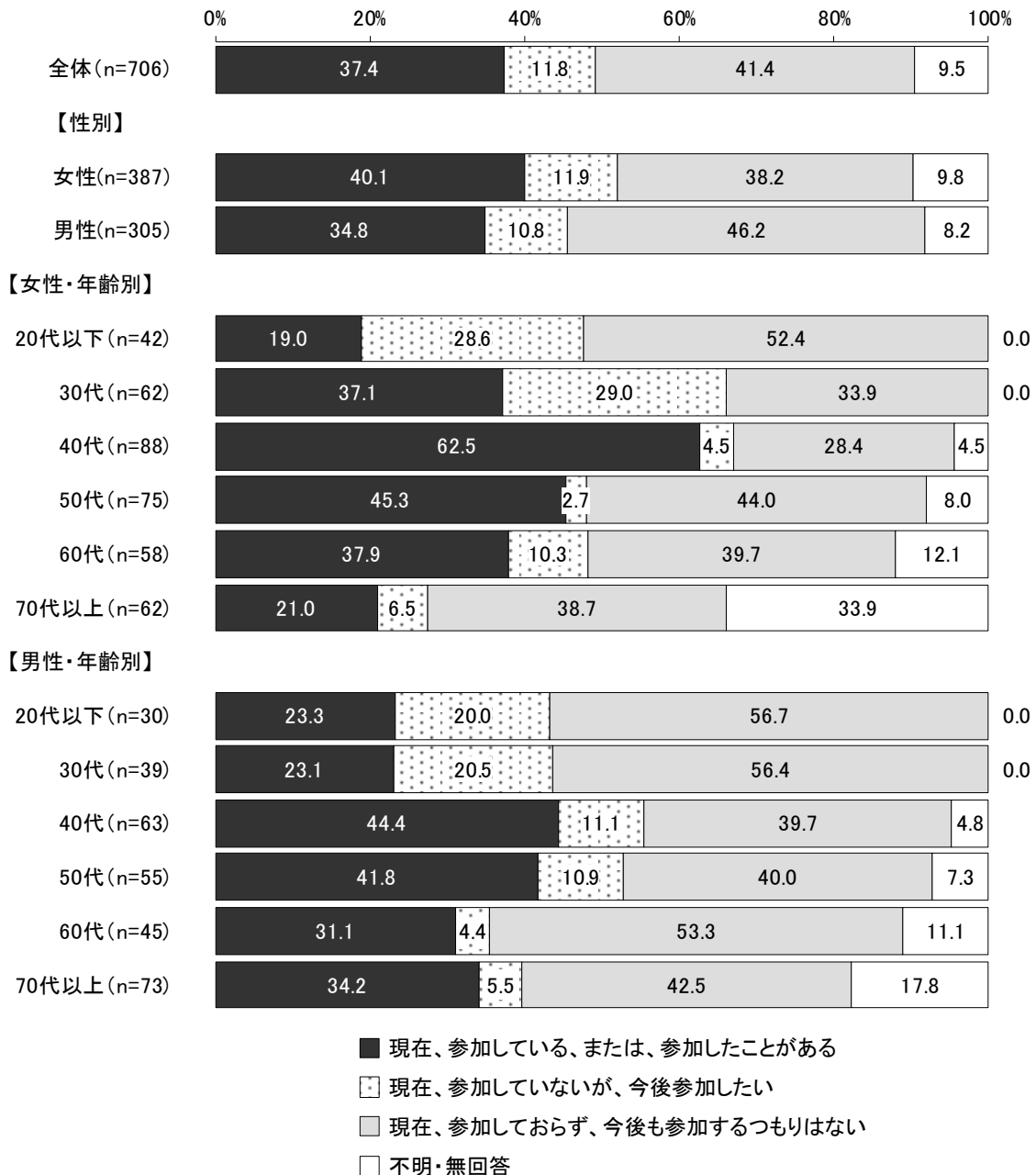
- 現在、参加している、または、参加したことがある
- ▨ 現在、参加していないが、今後参加したい
- 現在、参加しておらず、今後も参加するつもりはない
- 不明・無回答

■B 子ども会やPTAなどの青少年育成活動

子ども会やPTAなどの青少年育成活動は、全体で「現在、参加している、または、参加したことがある」が37.4%、「現在、参加していないが、今後参加したい」が11.8%、「現在、参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が41.4%となっています。

性別では、10ポイントを超える大差はみられません。

性別・年齢別では、「現在、参加していないが、今後参加したい」が女性の30代以下で約3割、男性の30代以下で2割以上と、それぞれ他の性別・年代と比べて高くなっています。

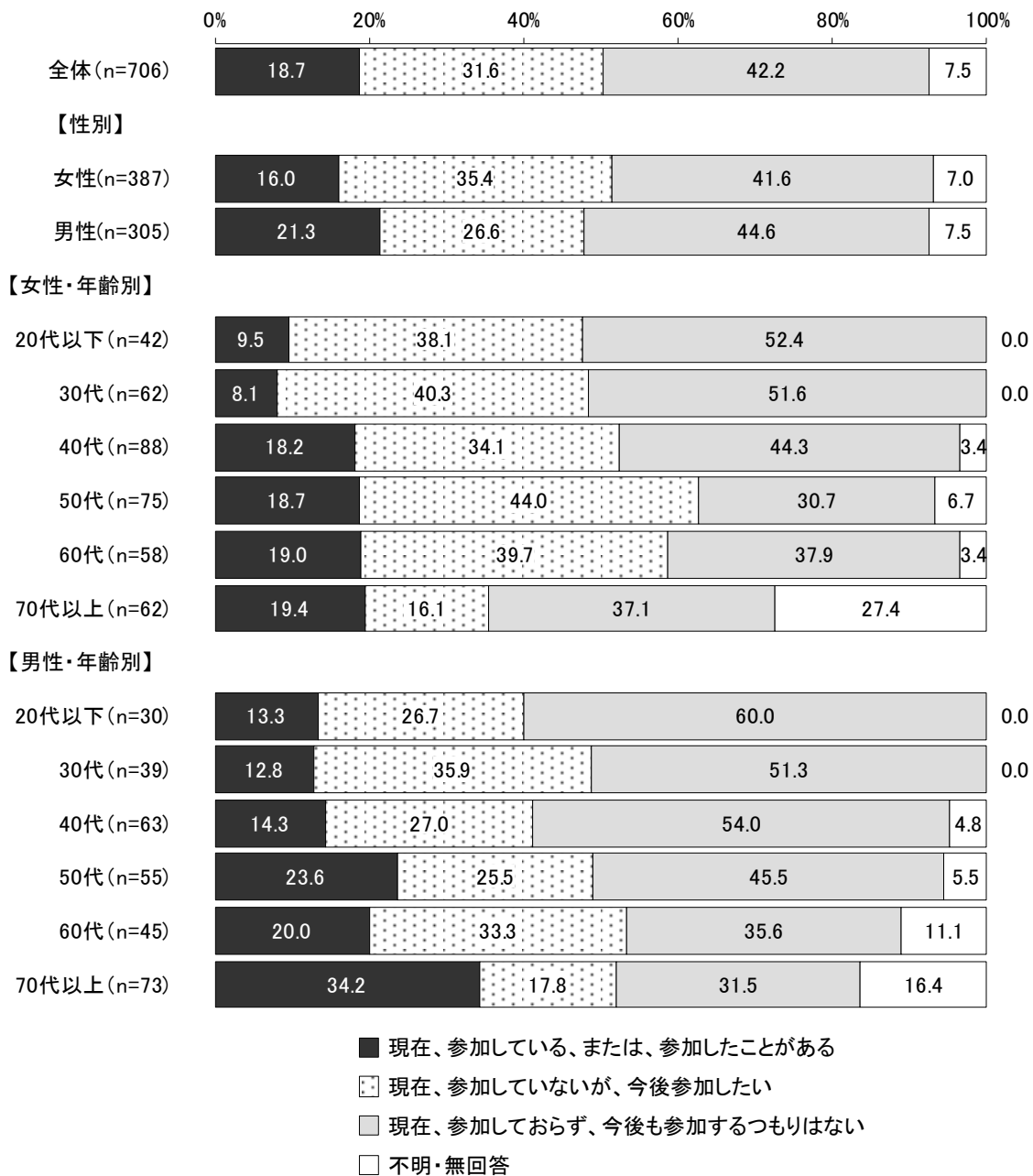


■C ボランティア活動（福祉や環境保全等）

ボランティア活動（福祉や環境保全等）は、全体で「現在、参加している、または、参加したことがある」が18.7%、「現在、参加していないが、今後参加したい」が31.6%、「現在、参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が42.2%となっています。

性別では、10ポイントを超える大差はみられないものの、女性で「現在、参加していないが、今後参加したい」が、男性と比べてやや高くなっています。

性別・年齢別では、「現在、参加していないが、今後参加したい」が女性の60代以下で3～4割程度となっており、男性の同年代と比べて高くなっています。なお、男性の70代以上で「現在、参加している、または、参加したことがある」が34.2%と、他の性別・年代と比べて高くなっています。

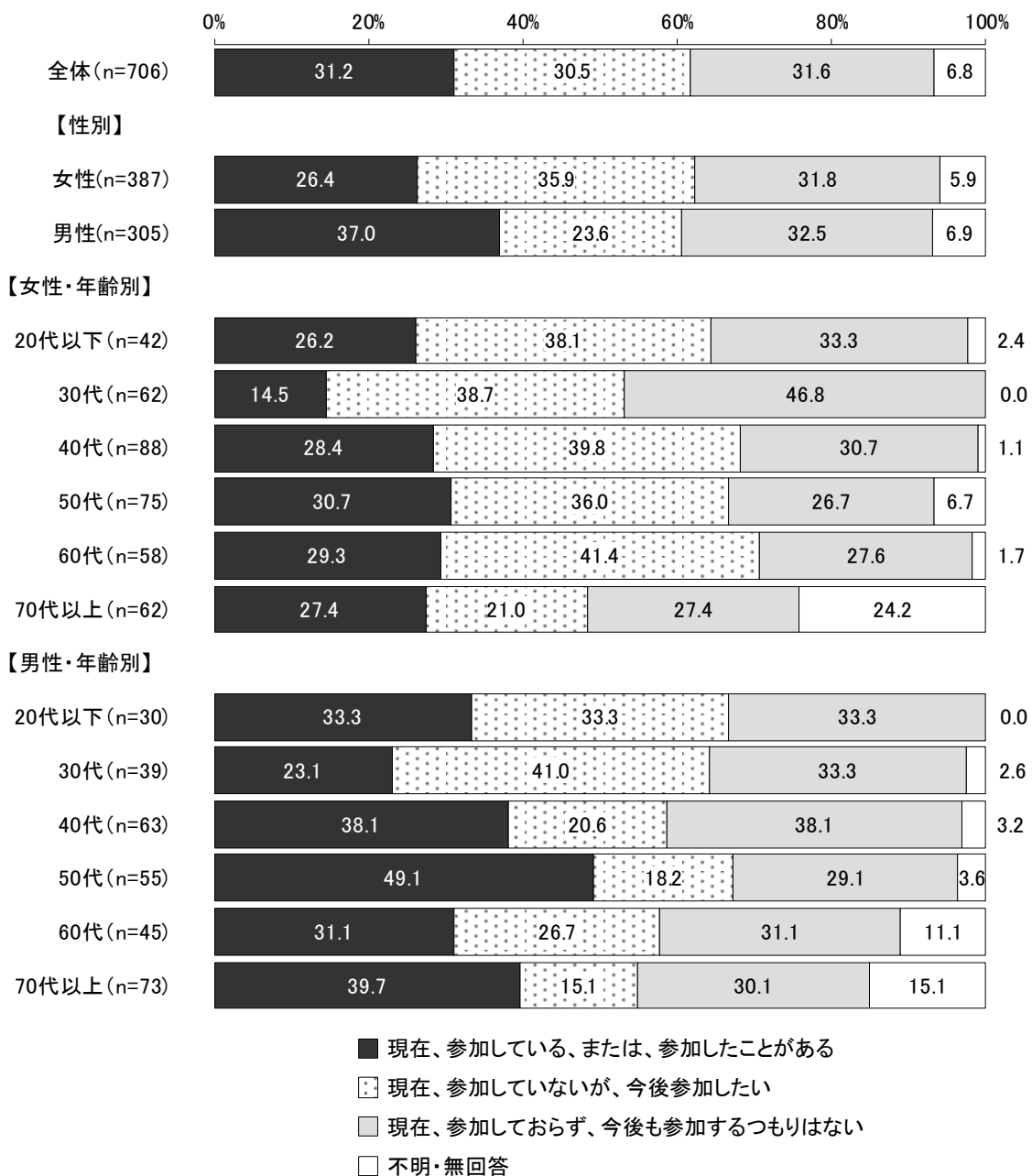


■D 趣味（スポーツ、娯楽等）の活動

趣味（スポーツ、娯楽等）の活動は、全体で「現在、参加している、または、参加したことがある」が31.2%、「現在、参加していないが、今後参加したい」が30.5%、「現在、参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が31.6%となっています。

性別では、「現在、参加している、または、参加したことがある」が男性で37.0%と、女性と比べて10.6ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、「現在、参加していないが、今後参加したい」が女性の60代以下で約4割となっており、同程度の30代を除き、男性の同年代と比べて高くなっています。なお、男性の50代で「現在、参加している、または、参加したことがある」が49.1%と他の性別・年代と比べて高くなっている一方で、女性の30代は14.5%と低くなっています。

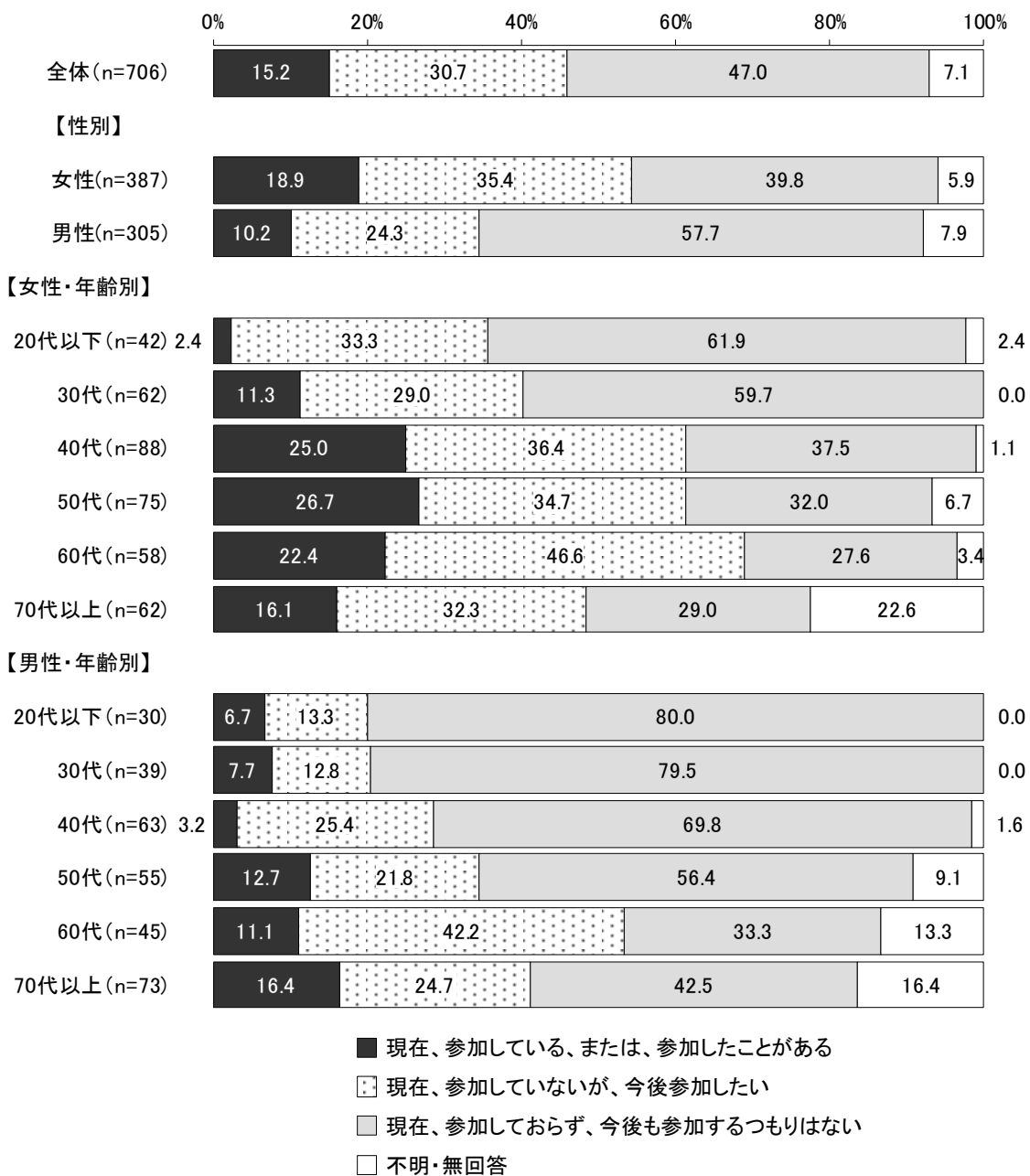


■E 市民講座、教養講座などの受講

市民講座、教養講座などの受講は、全体で「現在、参加している、または、参加したことがある」が15.2%、「現在、参加していないが、今後参加したい」が30.7%、「現在、参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が47.0%となっています。

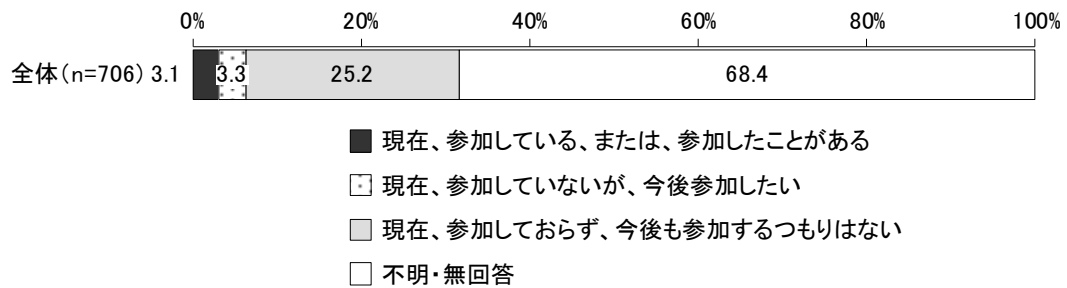
性別では、女性の「現在、参加している、または、参加したことがある」「現在、参加していないが、今後参加したい」が、それぞれ10ポイント前後、男性と比べて高くなっています。

性別・年齢別では、「現在、参加していないが、今後参加したい」が女性の40代～60代で2～3割程度となっており、男性の同年代と比べて高くなっています。なお、男性の60代で「現在、参加していないが、今後参加したい」が42.2%と、他の年代と比べて高くなっています。



■F その他

その他の活動は、全体で「現在、参加している、または、参加したことがある」が3.1%、「現在、参加していないが、今後参加したい」が3.3%、「現在、参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が25.2%となっています。



問 15 あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。
(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

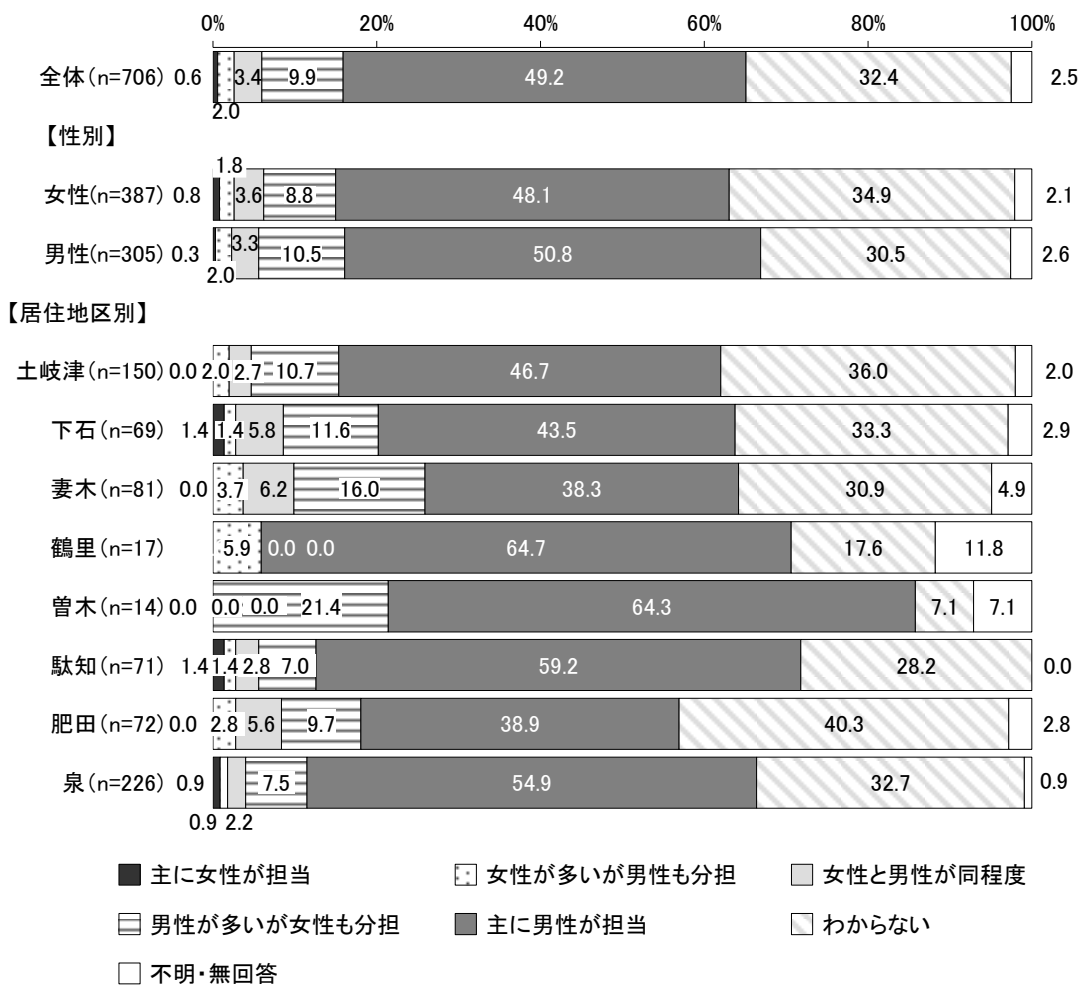
- 『主に女性』 … 「主に女性が担当」と「女性が多いが男性も分担」を合算
『主に男性』 … 「主に男性が担当」と「男性が多いが女性も分担」を合算

■A 会長などの役職

会長などの役職は、『主に女性』が2.6%、「女性と男性が同程度」が3.4%、『主に男性』が59.1%となっています。

性別では、「女性と男性が同程度」が女性で3.6%、男性で3.3%となっています。

居住地区別では、『主に男性』が曾木地区で85.7%と、他の居住地区と比べて高くなっています。

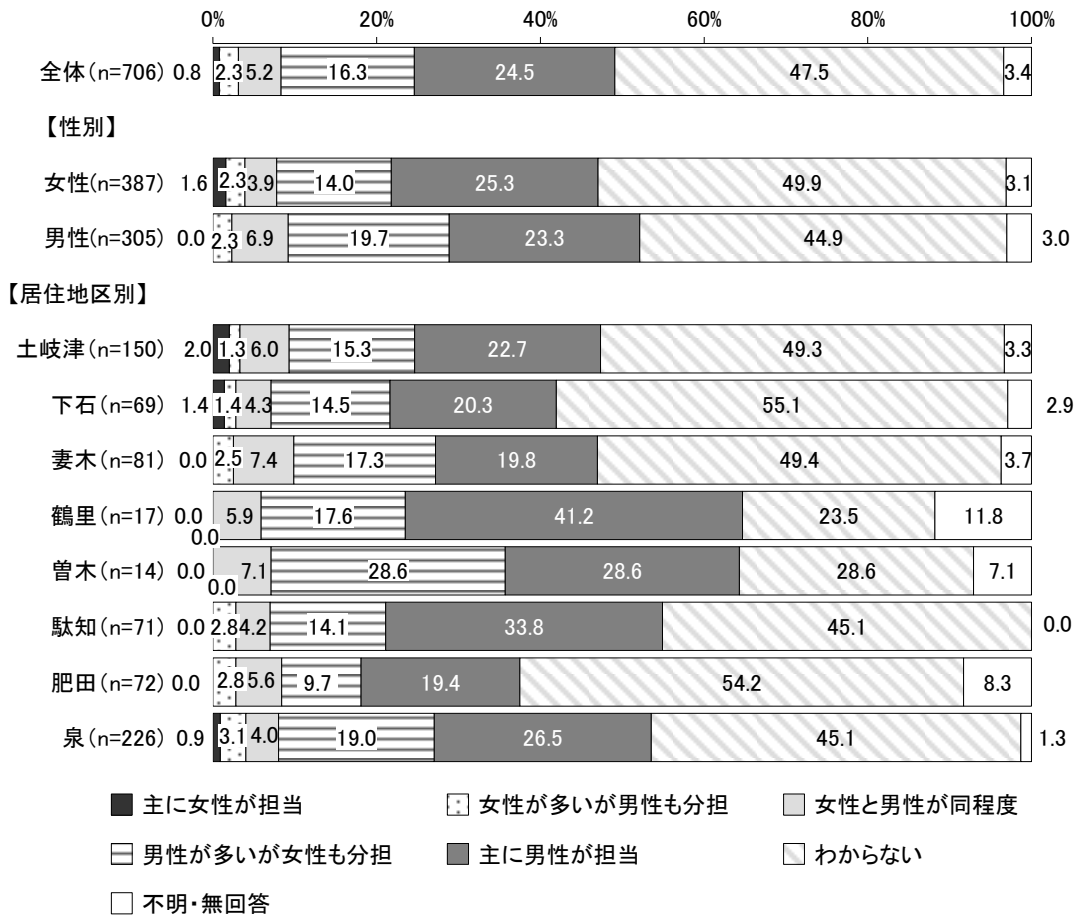


■B 催物の企画・決定

催物の企画・決定は、『主に女性』が3.1%、「女性と男性が同程度」が5.2%、『主に男性』が40.8%となっています。

性別では、「女性と男性が同程度」が女性で3.9%、男性で6.9%となっています。

居住地区別では、『主に男性』が鶴里地区及び曾木地区で5割以上と、他の居住地区と比べて高くなっています。

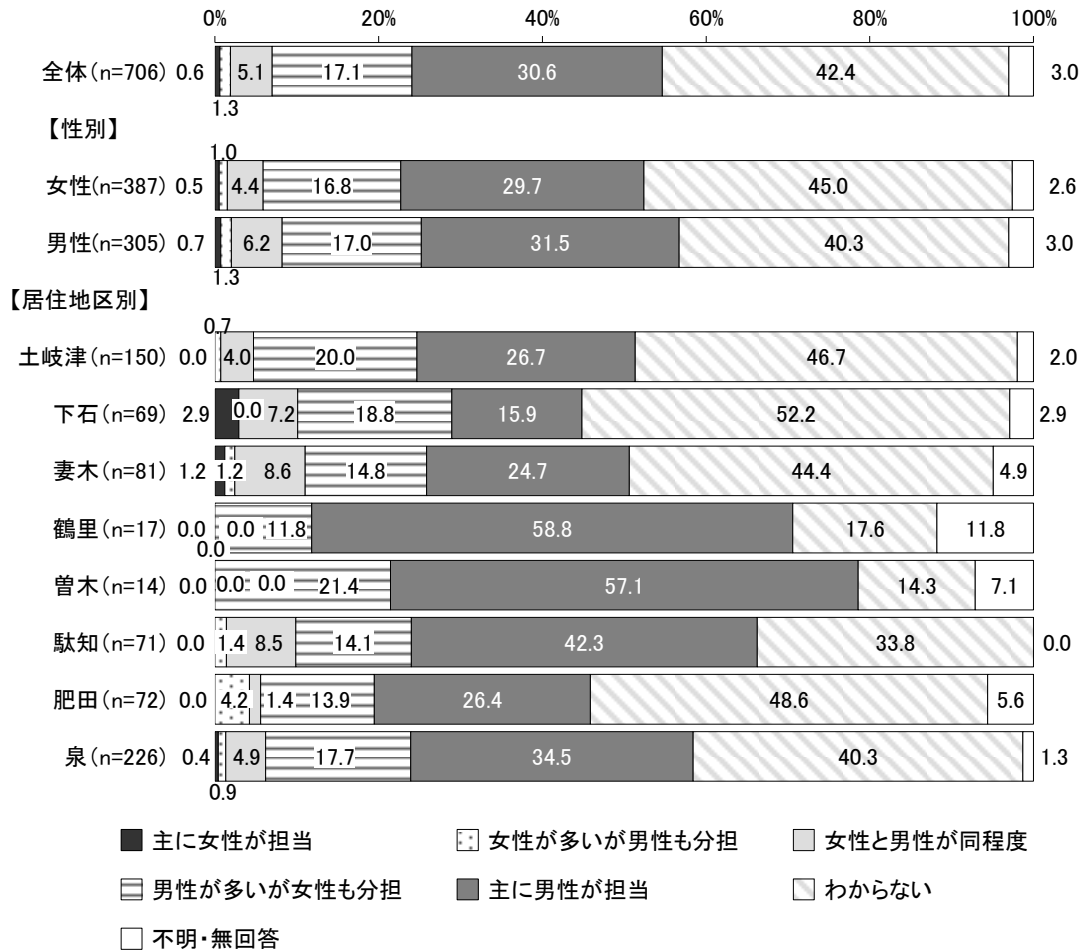


■C 会議・集会などの運営・取仕切り

会議・集会などの運営・取仕切りは、『主に女性』が1.9%、「女性と男性が同程度」が5.1%、『主に男性』が47.7%となっています。

性別では、「女性と男性が同程度」が女性で4.4%、男性で6.2%となっています。

居住地区別では、『主に女性』が肥田地区で4.2%と、他の居住地区と比べてやや高く、『主に男性』が鶴里及び曾木地区で7割以上と他の居住地区と比べて高くなっています。

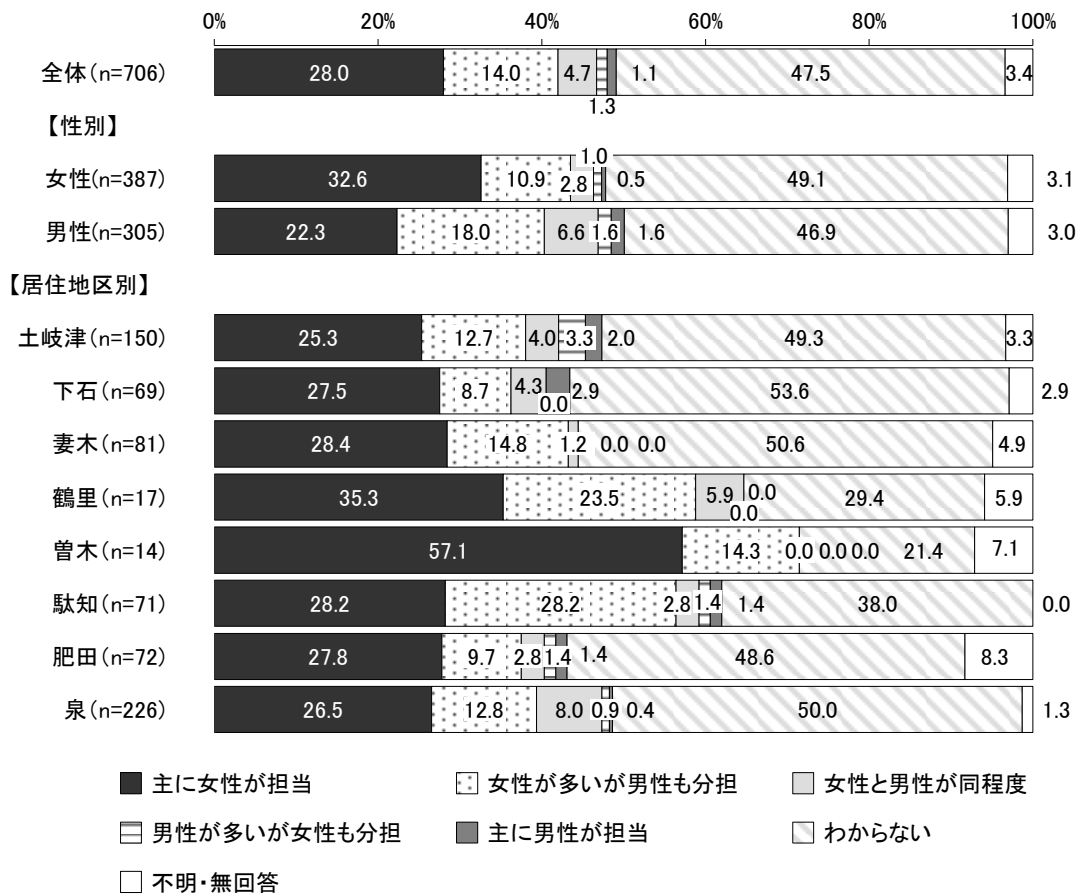


■D 集会などでのお茶くみ・調理

集会などでのお茶くみ・調理は、『主に女性』が42.0%、「女性と男性が同程度」が4.7%、『主に男性』が2.4%となっています。

性別では、「女性と男性が同程度」が女性で2.8%、男性で6.6%となっています。

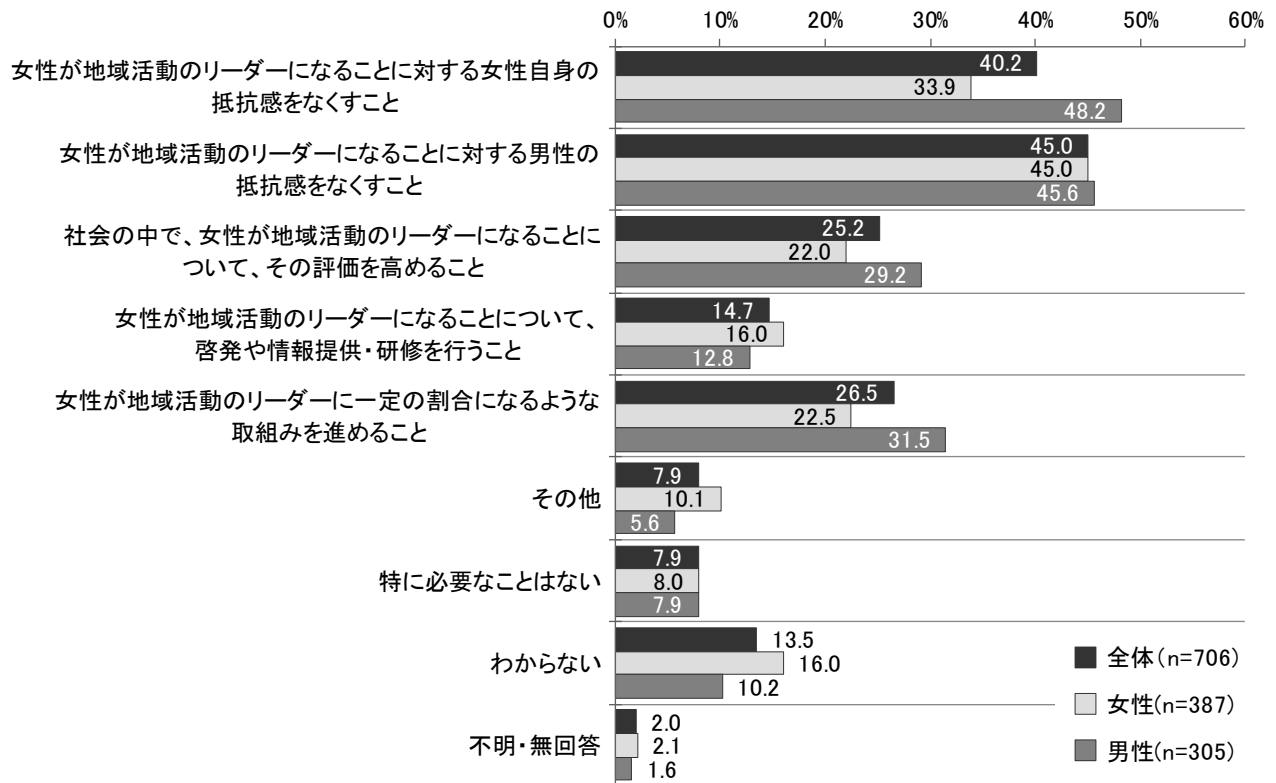
居住地区別では、『主に女性』が曾木地区で71.4%と、他の居住地区と比べて高くなっています。



問 16 あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるために必要だと思うことは、全体で「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が45.0%と最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が40.2%となっています。

性別では、男性で「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が48.2%と、女性と比べて14.3ポイント高くなっています。



性別・年齢別では、女性のすべての年代、男性の20代以下及び60代で「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が、この他の男性の年代では「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が、それぞれ最も高くなっています。

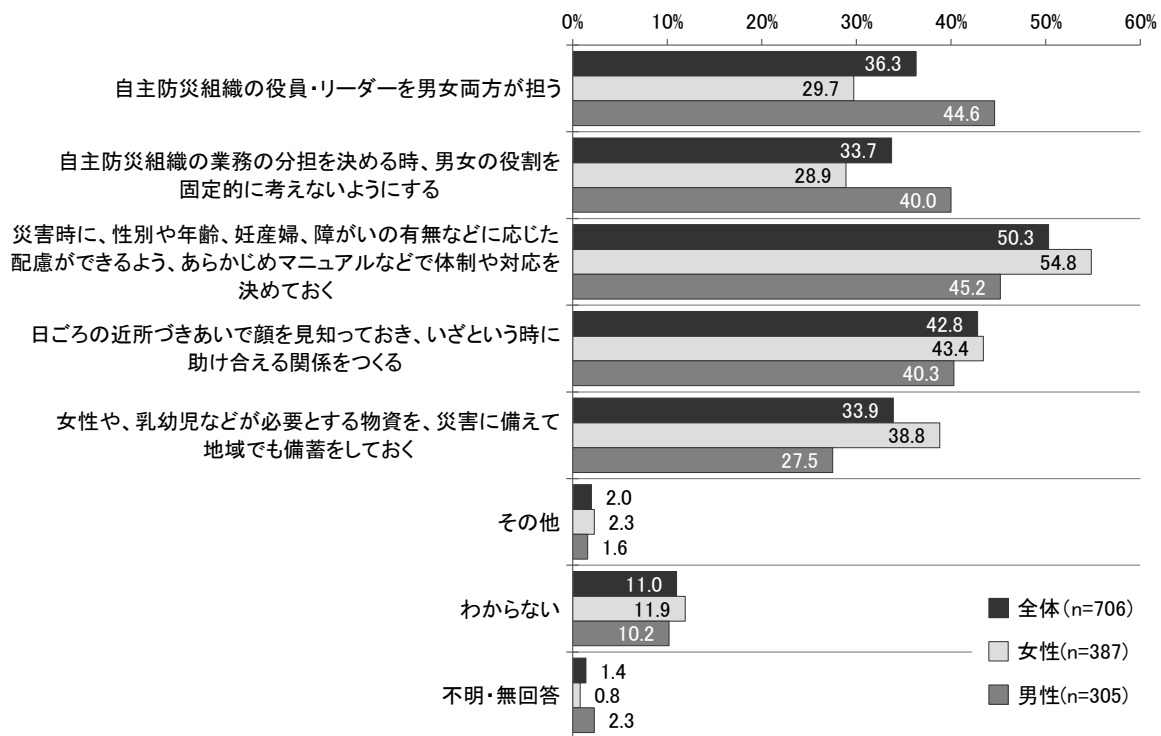
(単位: %)	n=	女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	女性が地域活動のリーダーに一定の割合になるような取組みを進めること	その他	特に必要なことはない	わからない	不明・無回答
女性・年齢別										
20代以下	42	26.2	42.9	26.2	14.3	19.0	4.8	9.5	23.8	0.0
30代	62	33.9	50.0	22.6	8.1	16.1	16.1	4.8	17.7	0.0
40代	88	34.1	38.6	19.3	12.5	26.1	14.8	9.1	15.9	1.1
50代	75	41.3	53.3	20.0	16.0	18.7	10.7	10.7	10.7	2.7
60代	58	37.9	55.2	27.6	17.2	25.9	5.2	3.4	10.3	1.7
70代以上	62	25.8	30.6	19.4	29.0	27.4	4.8	9.7	21.0	6.5
男性・年齢別										
20代以下	30	40.0	46.7	16.7	3.3	26.7	6.7	10.0	16.7	0.0
30代	39	53.8	33.3	35.9	12.8	17.9	5.1	5.1	15.4	0.0
40代	63	46.0	42.9	22.2	6.3	22.2	6.3	12.7	15.9	0.0
50代	55	58.2	47.3	20.0	9.1	36.4	9.1	7.3	3.6	3.6
60代	45	35.6	60.0	46.7	22.2	40.0	2.2	4.4	4.4	0.0
70代以上	73	50.7	43.8	32.9	19.2	39.7	4.1	6.8	8.2	4.1

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 17 あなたは、男性と女性がともに自主防災組織に関わるにはどのようなことが重要だと思いますか。(複数回答)

男性と女性がともに自主防災組織に関わるのに重要だと思うことは、全体で「災害時に、性別や年齢、妊産婦、障がいの有無などに応じた配慮ができるよう、あらかじめマニュアルなどで体制や対応を決めておく」が50.3%と最も高く、次いで「日ごろの近所づきあいで顔を見知っておき、いざという時に助け合える関係をつくる」が42.8%となっています。

性別では、女性で「女性や、乳幼児などが必要とする物資を、災害に備えて地域でも備蓄をしておく」が男性と比べて、男性で「自主防災組織の役員・リーダーを男女両方が担う」「自主防災組織の業務の分担を決める時、男女の役割を固定的に考えないようにする」が女性と比べて、それぞれ10ポイント以上高くなっています。また、女性で「災害時に、性別や年齢、妊産婦、障がいの有無などに応じた配慮ができるよう、あらかじめマニュアルなどで体制や対応を決めておく」が、男性と比べて9.6ポイント高くなっています。



性別・年齢別では、「その他」「わからない」を除き、いずれの項目も上位となっています。

(単位: %)		自主防災組織の役員・リーダーを男女両方が担う	自主防災組織の業務の分担を決める時、男女の役割を固定的に考えないようにする	災害時に、性別や年齢、妊産婦、障がいの有無などに応じた配慮ができるよう、あらかじめマニュアルなどで体制や対応を決めておく	日ごろの近所づきあいで顔を見知っておき、いざという時に助け合える関係をつくる	女性や、乳幼児などが必要とする物資を、災害に備えて地域でも備蓄しておく	その他	わからない	不明・無回答
	n=								
女性・年齢別									
20代以下	42	28.6	21.4	50.0	23.8	33.3	0.0	31.0	0.0
30代	62	25.8	35.5	53.2	27.4	56.5	4.8	14.5	0.0
40代	88	21.6	28.4	61.4	42.0	45.5	3.4	9.1	0.0
50代	75	25.3	29.3	50.7	44.0	41.3	4.0	10.7	2.7
60代	58	36.2	37.9	56.9	58.6	22.4	0.0	5.2	0.0
70代以上	62	45.2	19.4	53.2	59.7	27.4	0.0	8.1	1.6
男性・年齢別									
20代以下	30	33.3	43.3	46.7	30.0	40.0	6.7	10.0	0.0
30代	39	25.6	43.6	46.2	25.6	30.8	5.1	12.8	0.0
40代	63	39.7	34.9	42.9	38.1	28.6	0.0	15.9	1.6
50代	55	54.5	32.7	40.0	36.4	27.3	1.8	10.9	3.6
60代	45	48.9	60.0	60.0	35.6	17.8	0.0	6.7	2.2
70代以上	73	53.4	34.2	41.1	60.3	26.0	0.0	5.5	4.1

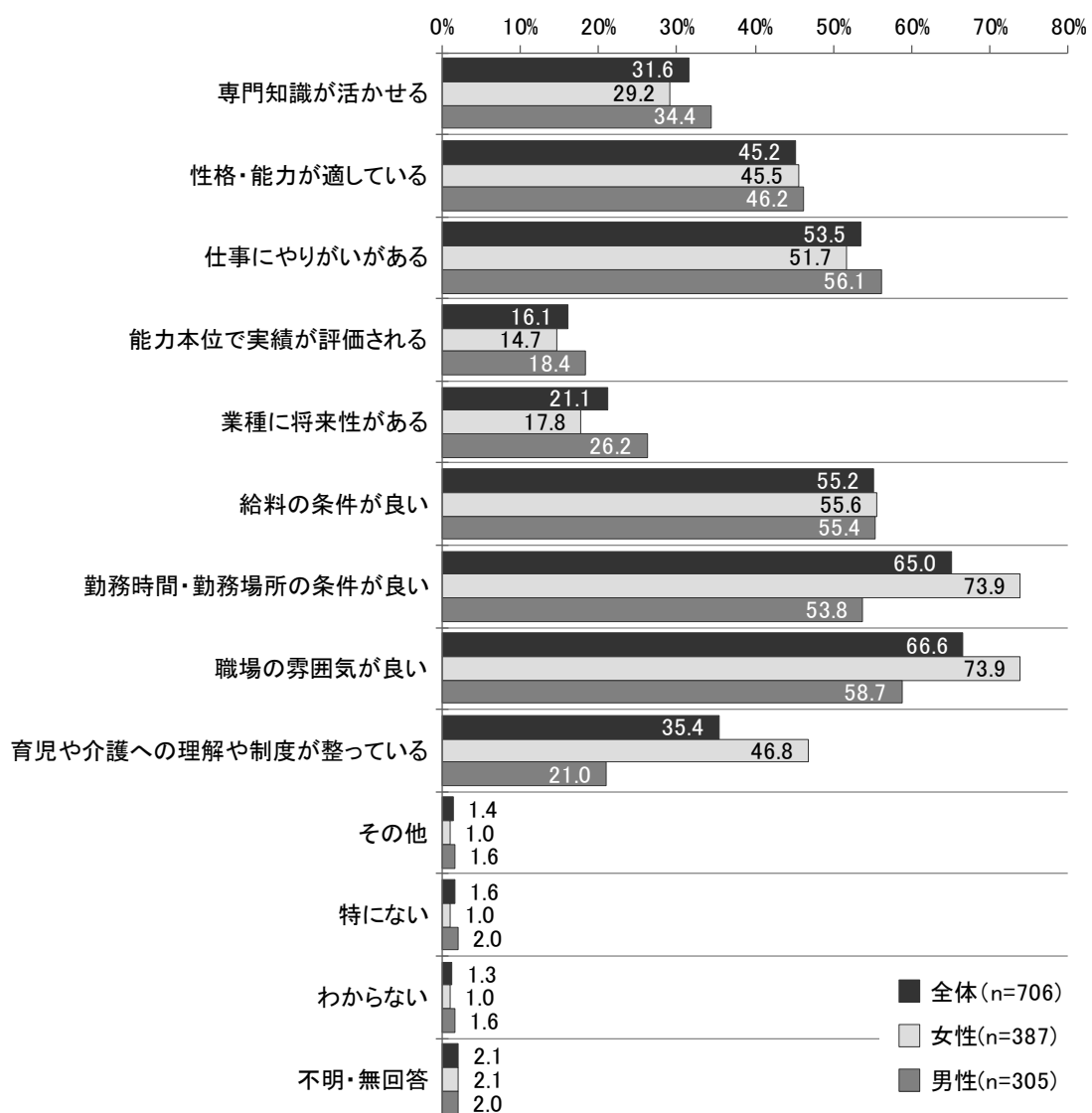
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

4 就労・働き方について

問 18 あなたが仕事を選ぶ際に重視すること、または重視したいことは何ですか。(複数回答) ※仕事をしていない方も、仕事をするとして仮定してお答えください。

仕事を選ぶ際に重視すること、または重視したいことは、全体で「職場の雰囲気が良い」が66.6%と最も高く、次いで「勤務時間・勤務場所の条件が良い」が65.0%となっています。

性別では、女性で「育児や介護への理解や制度が整っている」「勤務時間・勤務場所の条件が良い」がそれぞれ25.8ポイント、20.1ポイント、「職場の雰囲気が良い」についても15.2ポイント、男性と比べてそれぞれ高くなっています。



性別・年齢別では、女性の60代以下で「職場の雰囲気が良い」「勤務時間・勤務場所の条件が良い」がそれぞれ7割以上と、他の性別・年代と比べて高くなっています。また、女性の40代以下で「育児や介護への理解や制度が整っている」が5割以上と、他の性別・年代と比べて高くなっています。

(単位: %)	n=	専門知識が活かせる	性格・能力が適している	仕事にやりがいがある	能力本位で実績が評価される	業種に将来性がある	給料の条件が良い	勤務時間・勤務場所の条件が良い	職場の雰囲気が良い	育児や介護への理解や制度が整っている	その他	特になし
女性・年齢別												
20代以下	42	19.0	50.0	40.5	16.7	16.7	71.4	76.2	78.6	59.5	0.0	0.0
30代	62	30.6	51.6	56.5	6.5	19.4	56.5	79.0	83.9	66.1	3.2	0.0
40代	88	30.7	48.9	52.3	20.5	20.5	56.8	83.0	73.9	58.0	0.0	1.1
50代	75	30.7	53.3	57.3	22.7	22.7	66.7	72.0	76.0	42.7	1.3	0.0
60代	58	27.6	39.7	51.7	10.3	8.6	48.3	70.7	72.4	27.6	1.7	0.0
70代以上	62	32.3	27.4	46.8	8.1	16.1	35.5	59.7	59.7	25.8	0.0	4.8
男性・年齢別												
20代以下	30	30.0	43.3	56.7	26.7	36.7	73.3	56.7	60.0	20.0	0.0	0.0
30代	39	30.8	53.8	53.8	10.3	30.8	64.1	59.0	56.4	17.9	2.6	2.6
40代	63	28.6	55.6	49.2	14.3	31.7	73.0	61.9	55.6	27.0	0.0	1.6
50代	55	40.0	52.7	52.7	16.4	20.0	58.2	60.0	56.4	16.4	5.5	1.8
60代	45	35.6	33.3	53.3	22.2	26.7	35.6	44.4	64.4	20.0	0.0	2.2
70代以上	73	38.4	38.4	67.1	21.9	19.2	38.4	43.8	60.3	21.9	1.4	2.7

(単位: %)	n=	わからない	不明・無回答
女性・年齢別			
20代以下	42	2.4	0.0
30代	62	0.0	1.6
40代	88	0.0	0.0
50代	75	0.0	0.0
60代	58	0.0	3.4
70代以上	62	4.8	8.1
男性・年齢別			
20代以下	30	0.0	0.0
30代	39	5.1	0.0
40代	63	1.6	0.0
50代	55	0.0	3.6
60代	45	0.0	0.0
70代以上	73	2.7	5.5

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問19 あなたは、管理・監督職になりたいと思いますか。(単数回答)

※仕事をしていない方も、仕事をしていると仮定してお答えください。

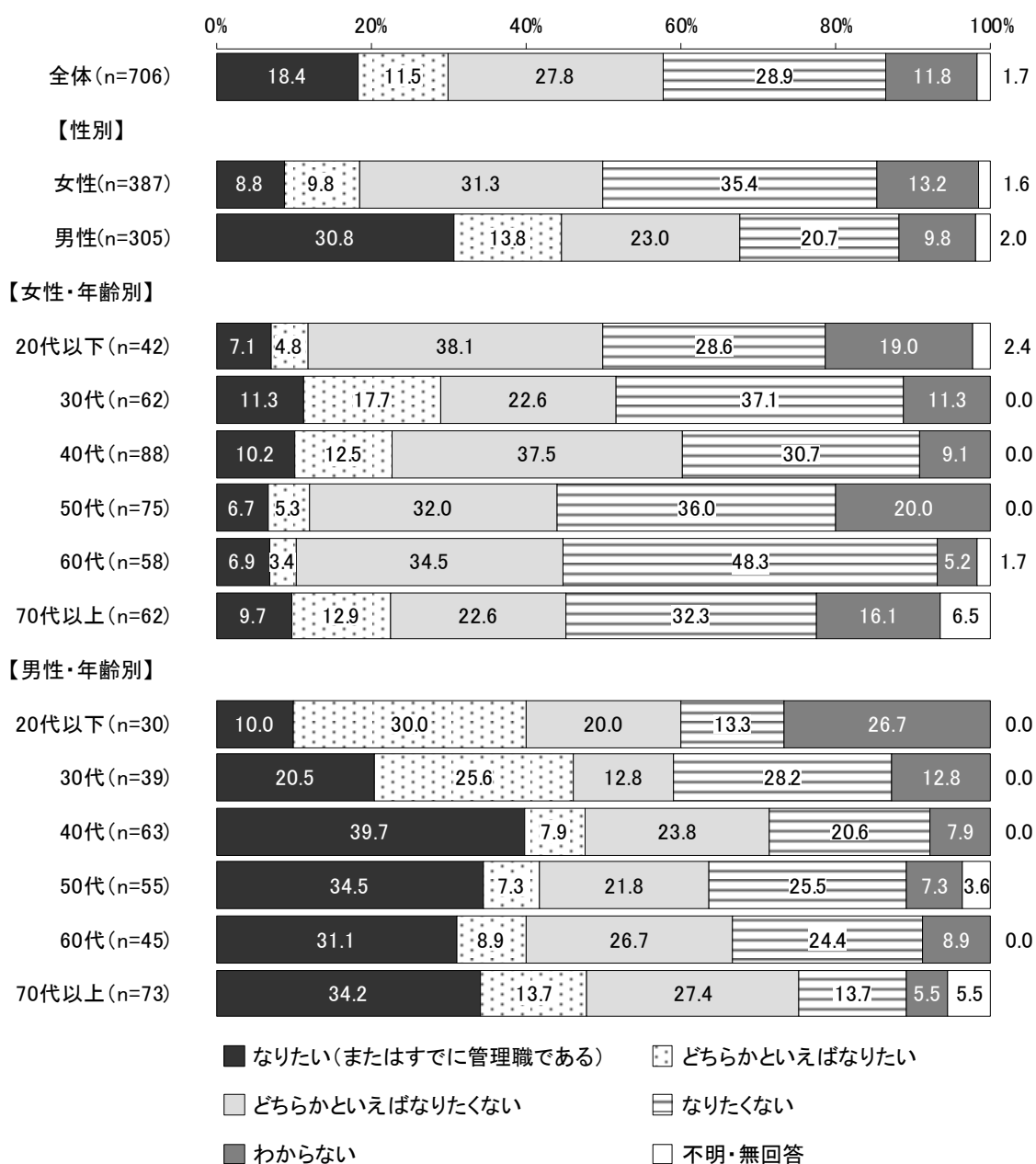
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『なりたい』 … 「なりたい(またはすでに管理職である)」と「どちらかといえばなりたい」を合算
 『なりたくない』 … 「なりたくない」と「どちらかといえばなりたくない」を合算

管理・監督職になりたいかは、『なりたい』が29.9%、『なりたくない』が56.7%となっています。

性別では、『なりたい』が男性で44.6%と、女性と比べて26.0ポイント高く、特に「なりたい(またはすでに管理職である)」は30.8%と高くなっています。一方、『なりたくない』は女性で66.7%と、男性と比べて23.0ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、男性の30代、50代及び60代で「なりたくない」が約3割となっています。

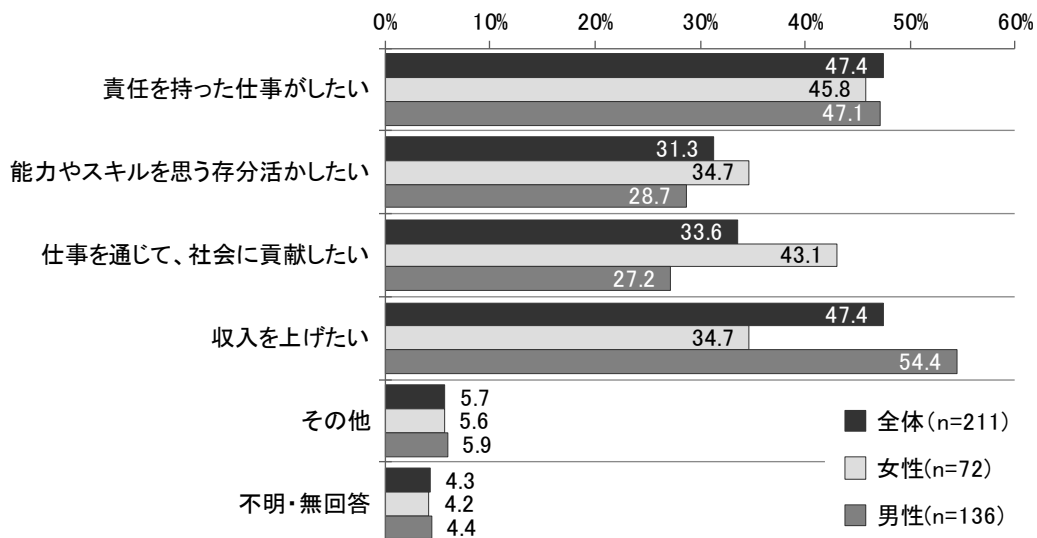


問19で「1. なりたい（またはすでに管理職である）」「2. どちらかといえばなりたい」と回答した方のみ

問20 その理由はなんですか。（複数回答）

管理・監督職になりたい理由は、全体で「責任を持った仕事がしたい」「収入を上げたい」がそれぞれ47.4%と最も高く、次いで「仕事を通じて、社会に貢献したい」が33.6%となっています。

性別では、女性で「仕事を通じて、社会に貢献したい」が43.1%と男性と比べて、男性で「収入を上げたい」が54.4%と女性と比べて、それぞれ15ポイント以上高くなっています。

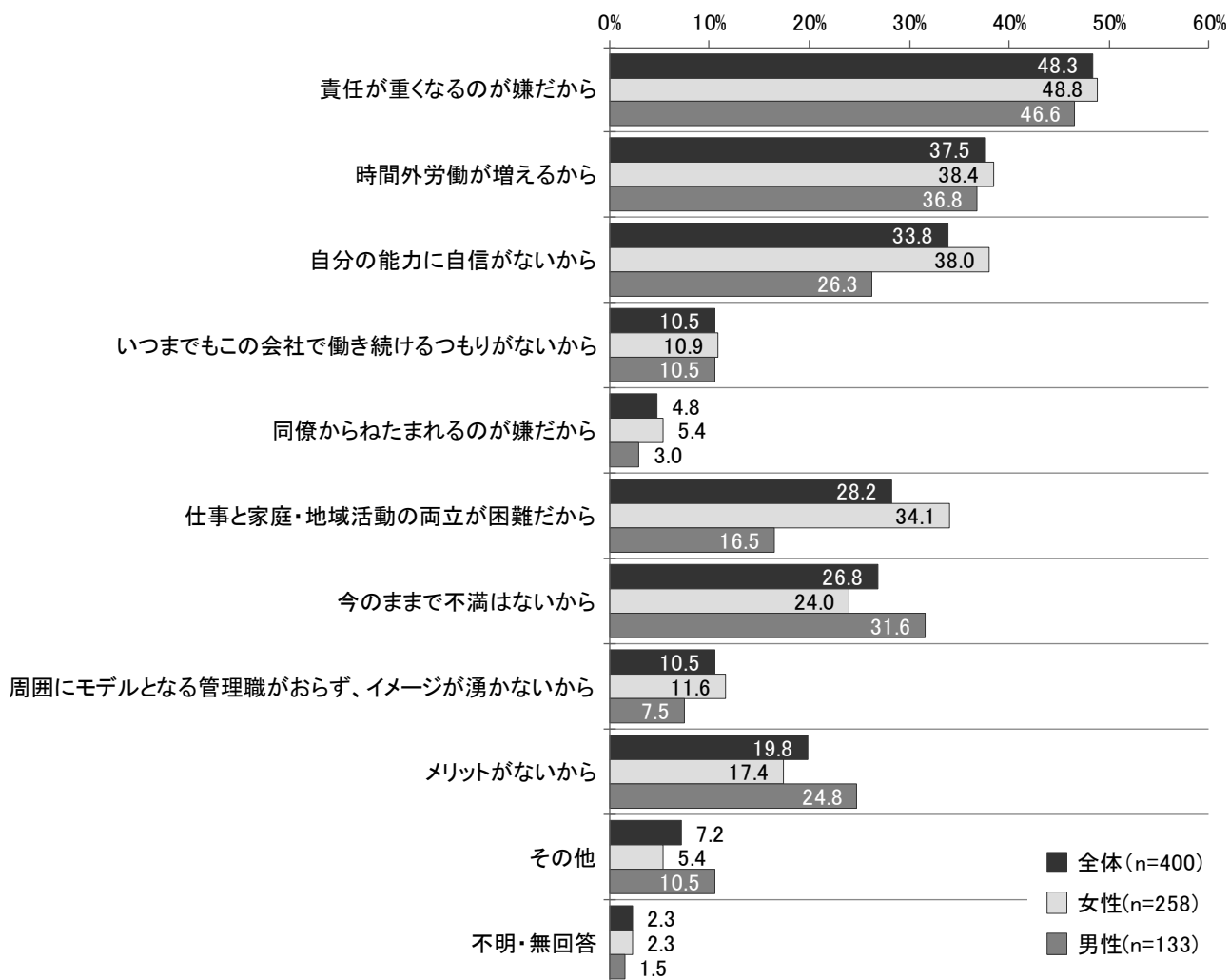


問19で「3. どちらかといえばなりたくない」「4. なりたくない」と回答した方のみ

問21 その理由はなんですか。(複数回答)

管理・監督職になりたくない理由は、全体で「責任が重くなるのが嫌だから」が48.3%と最も高く、次いで「時間外労働が増えるから」が37.5%となっています。

性別では、女性で「仕事と家庭・地域活動の両立が困難だから」「自分の能力に自信がないから」が男性と比べて、それぞれ17.6ポイント、11.7ポイント高くなっています。

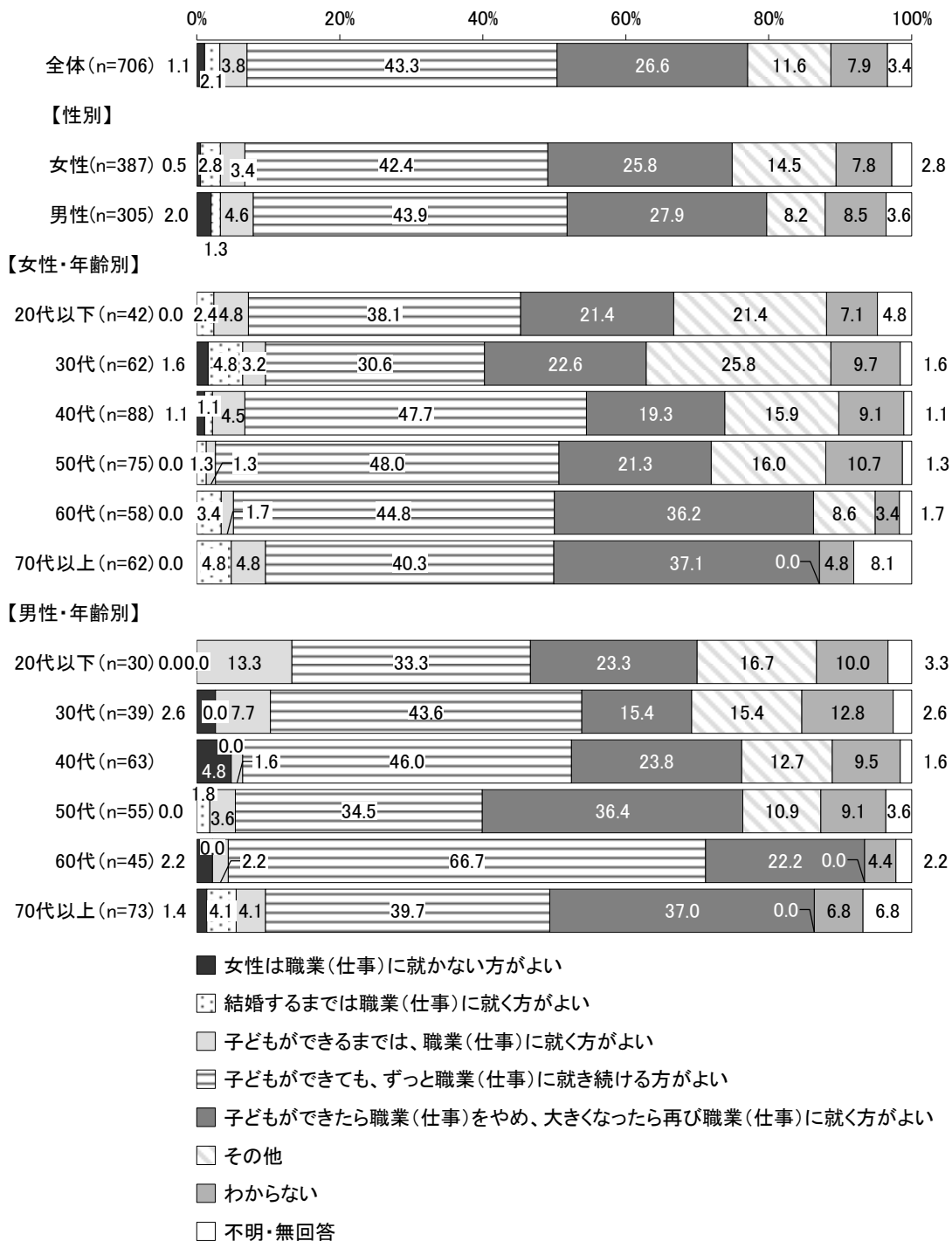


問 22 一般的に女性が職業（仕事）に就くことについてどう思いますか。（単数回答）

一般的に女性が職業（仕事）に就くことについては、全体で「子どもができて、ずっと職業（仕事）に就き続ける方がよい」が43.3%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）に就く方がよい」が26.6%となっています。

性別では、10ポイントを超える大差はみられません。

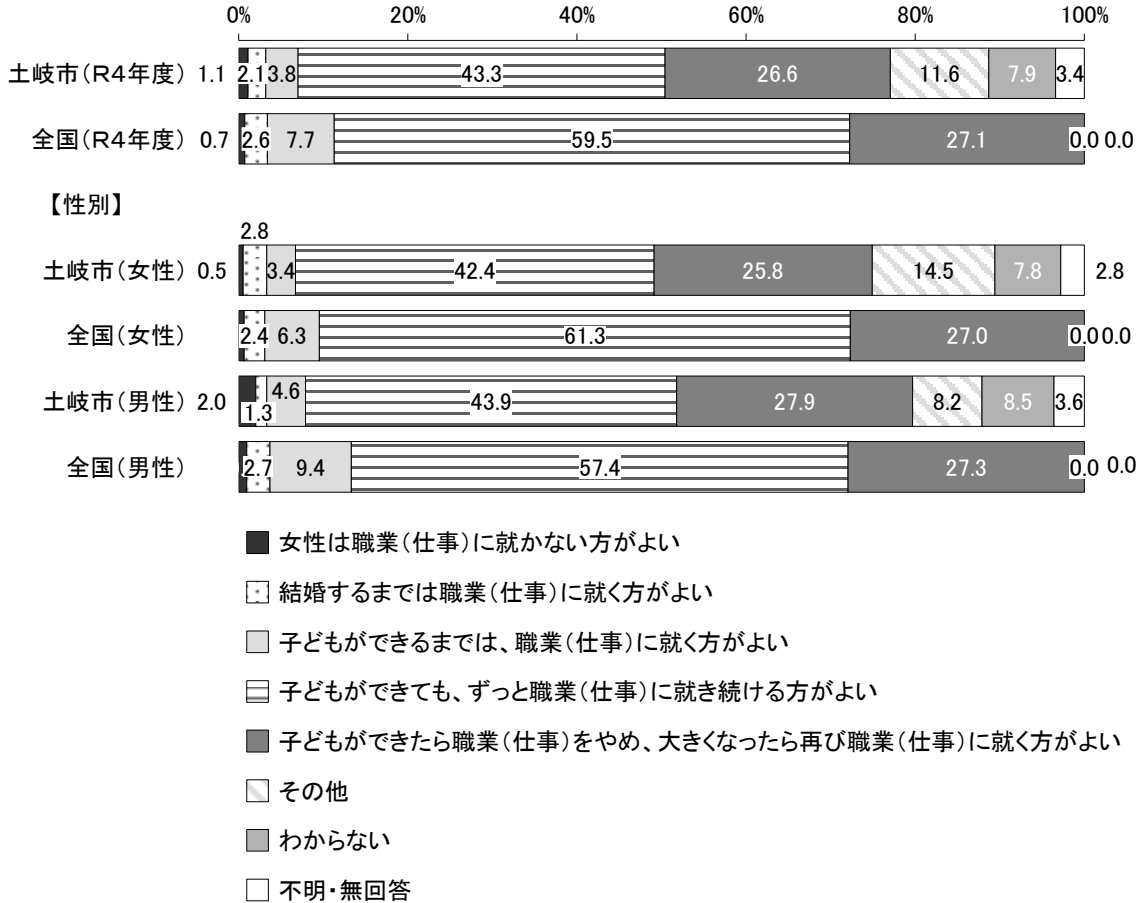
性別・年齢別では、男性の50代で「子どもができたなら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）に就く方がよい」が、その他の性別・年代別では「子どもができて、ずっと職業（仕事）に就き続ける方がよい」が最も高くなっています。



全国調査との比較

全国調査との比較では、土岐市は全体で「子どもができて、ずっと職業（仕事）に就き続ける方がよい」が43.3%と、16.2ポイント低くなっています。

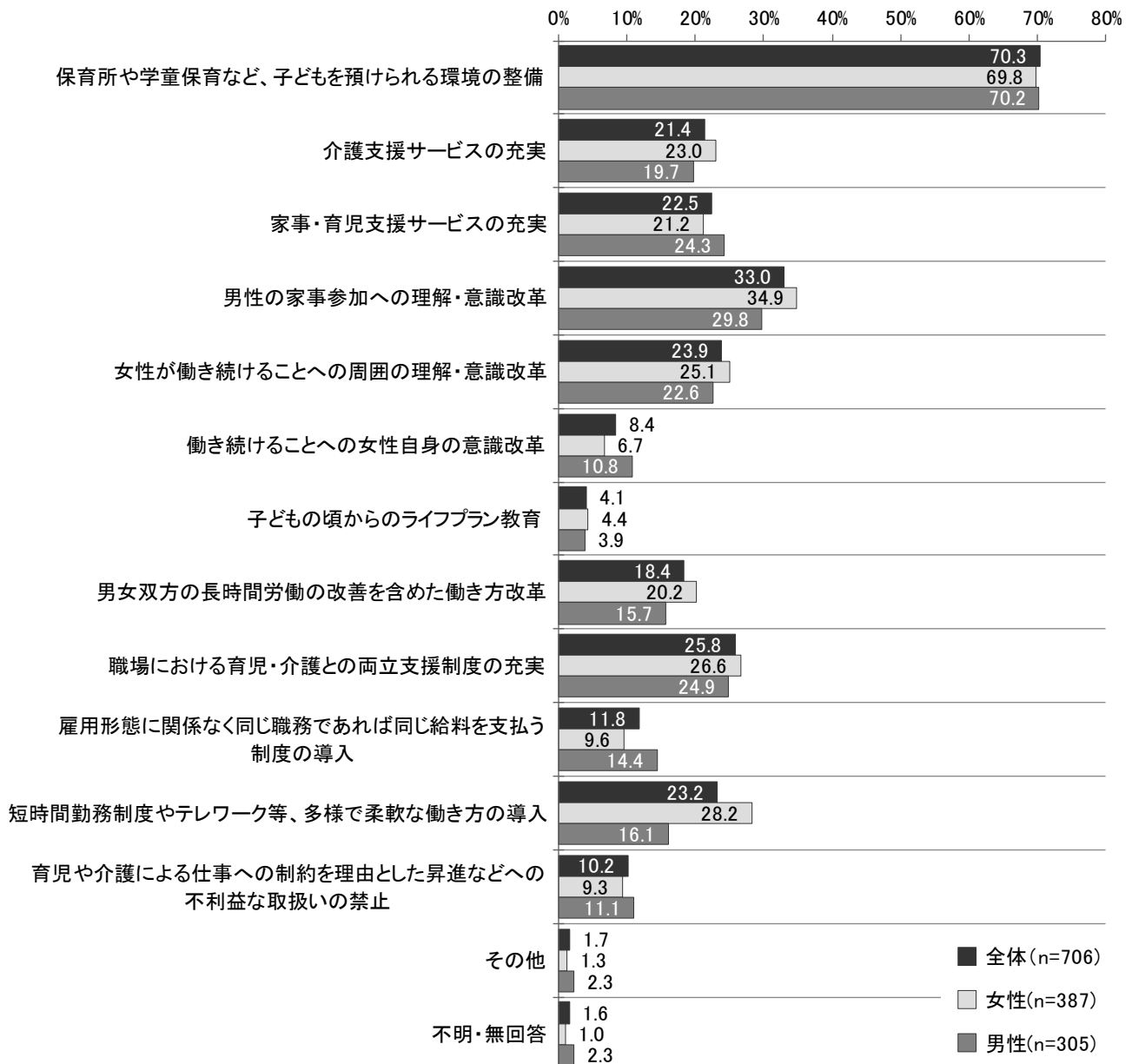
性別では、土岐市の女性・男性ともに「子どもができて、ずっと職業（仕事）に就き続ける方がよい」が全国調査と比べて女性で18.9ポイント、男性で13.5ポイント、それぞれ低くなっています。



問23 女性が働き続けるために必要なことは何だと思いますか。(複数回答)

女性が働き続けるために必要なことは、全体で「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」が70.3%と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」が33.0%となっています。

性別では、「短時間勤務制度やテレワーク等、多様で柔軟な働き方の導入」が女性で28.2%と、男性と比べて12.1ポイント高くなっています。



性別・年齢別では、女性の50代以下で「短時間勤務制度やテレワーク等、多様で柔軟な働き方の導入」が約3割と、他の性別・年代と比べて高くなっています。

(単位: %)		保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	子どもの頃からの子育て教育	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	雇用形態に関係なく同じ職務であれば同じ給料を支払う制度の導入	短時間勤務制度やテレワーク等、多様な働き方の導入
	n=											
女性・年齢別												
20代以下	42	78.6	2.4	28.6	50.0	11.9	7.1	2.4	19.0	33.3	7.1	31.0
30代	62	74.2	12.9	35.5	35.5	22.6	4.8	4.8	21.0	30.6	8.1	30.6
40代	88	77.3	26.1	25.0	36.4	15.9	5.7	5.7	18.2	30.7	9.1	35.2
50代	75	50.7	34.7	16.0	34.7	26.7	8.0	5.3	17.3	26.7	9.3	30.7
60代	58	69.0	25.9	8.6	31.0	36.2	6.9	5.2	27.6	20.7	17.2	20.7
70代以上	62	72.6	25.8	14.5	25.8	37.1	8.1	1.6	19.4	17.7	6.5	17.7
男性・年齢別												
20代以下	30	56.7	23.3	40.0	23.3	23.3	3.3	0.0	26.7	33.3	16.7	16.7
30代	39	84.6	12.8	33.3	15.4	15.4	2.6	2.6	25.6	20.5	7.7	15.4
40代	63	77.8	17.5	23.8	38.1	17.5	6.3	1.6	17.5	20.6	11.1	15.9
50代	55	70.9	12.7	27.3	32.7	30.9	10.9	3.6	10.9	20.0	12.7	9.1
60代	45	68.9	35.6	22.2	31.1	20.0	20.0	15.6	6.7	31.1	15.6	13.3
70代以上	73	61.6	19.2	12.3	30.1	26.0	16.4	1.4	13.7	27.4	20.5	23.3

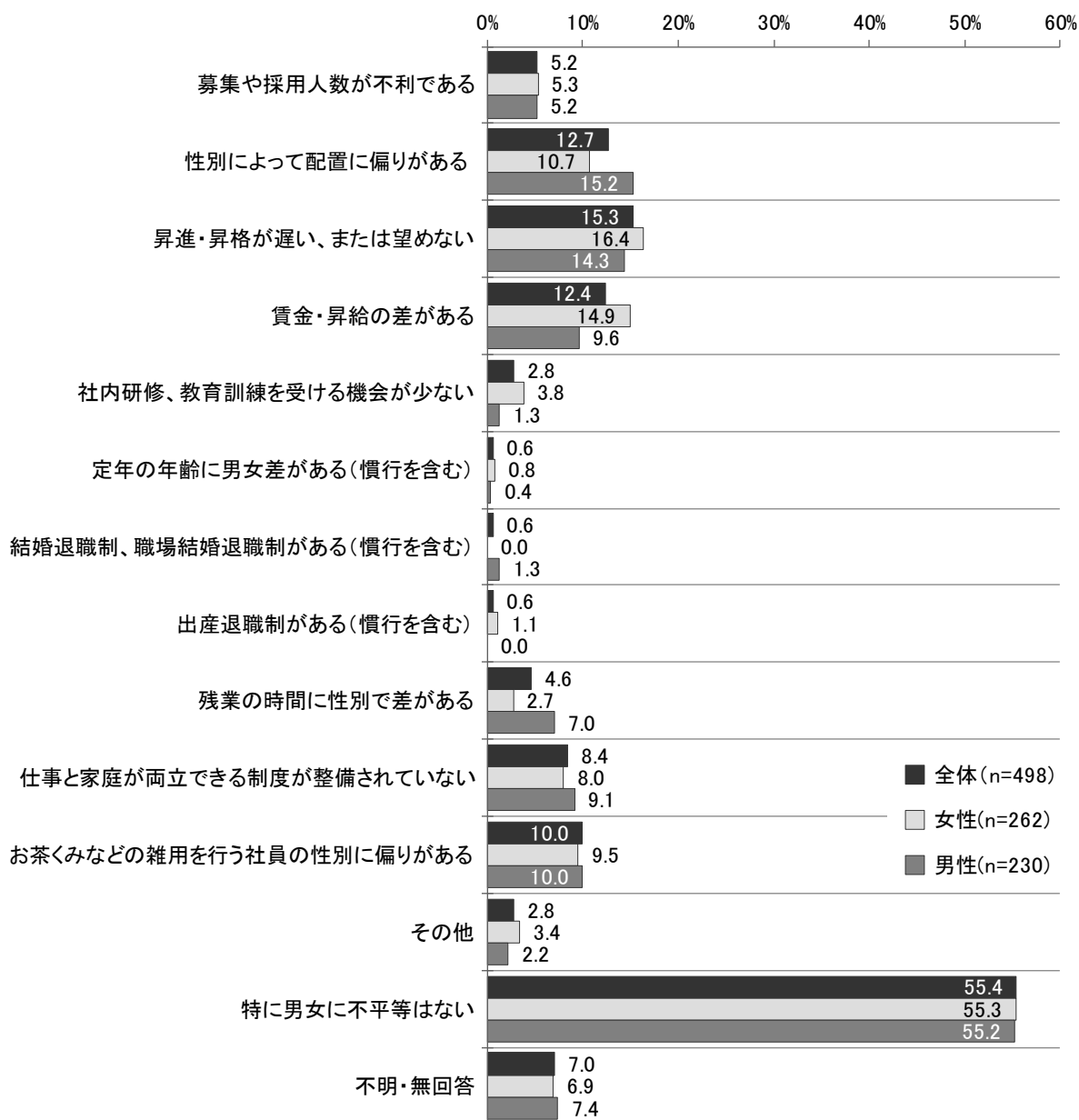
(単位: %)		育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	不明・無回答
	n=			
女性・年齢別				
20代以下	42	9.5	0.0	0.0
30代	62	6.5	0.0	0.0
40代	88	8.0	3.4	0.0
50代	75	10.7	1.3	0.0
60代	58	8.6	1.7	1.7
70代以上	62	12.9	0.0	4.8
男性・年齢別				
20代以下	30	16.7	0.0	0.0
30代	39	7.7	5.1	2.6
40代	63	9.5	4.8	0.0
50代	55	7.3	1.8	3.6
60代	45	20.0	0.0	2.2
70代以上	73	9.6	1.4	4.1

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

仕事をしている方のみ

問 24 あなたの職場では、性別による不平等な扱いがありますか。(複数回答)

仕事をしている方で、職場で性別による不平等な扱いがあるかは、全体で「特に男女に不平等はない」が55.4%と最も高く、次いで「昇進・昇格が遅い、または望めない」が15.3%となっています。
性別では、10ポイントを超える大差はみられません。

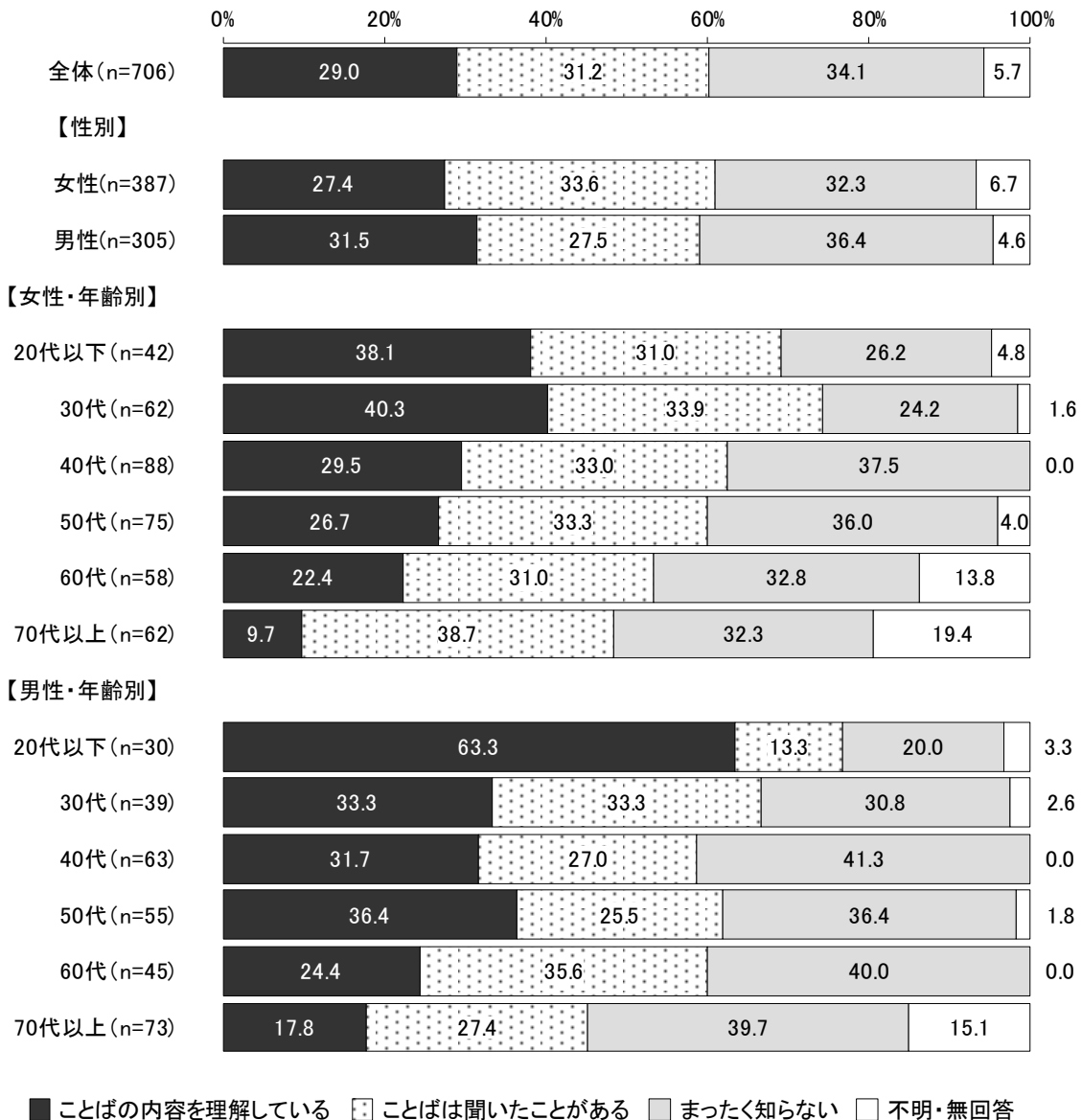


問 25 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」ということばを知っていますか。(単数回答)

ワーク・ライフ・バランスということばの認知度は、全体で「ことばの内容を理解している」が 29.0%、「ことばは聞いたことがある」が 31.2%、「まったく知らない」が 34.1%となっています。

性別では、10 ポイントを超える大差はみられません。

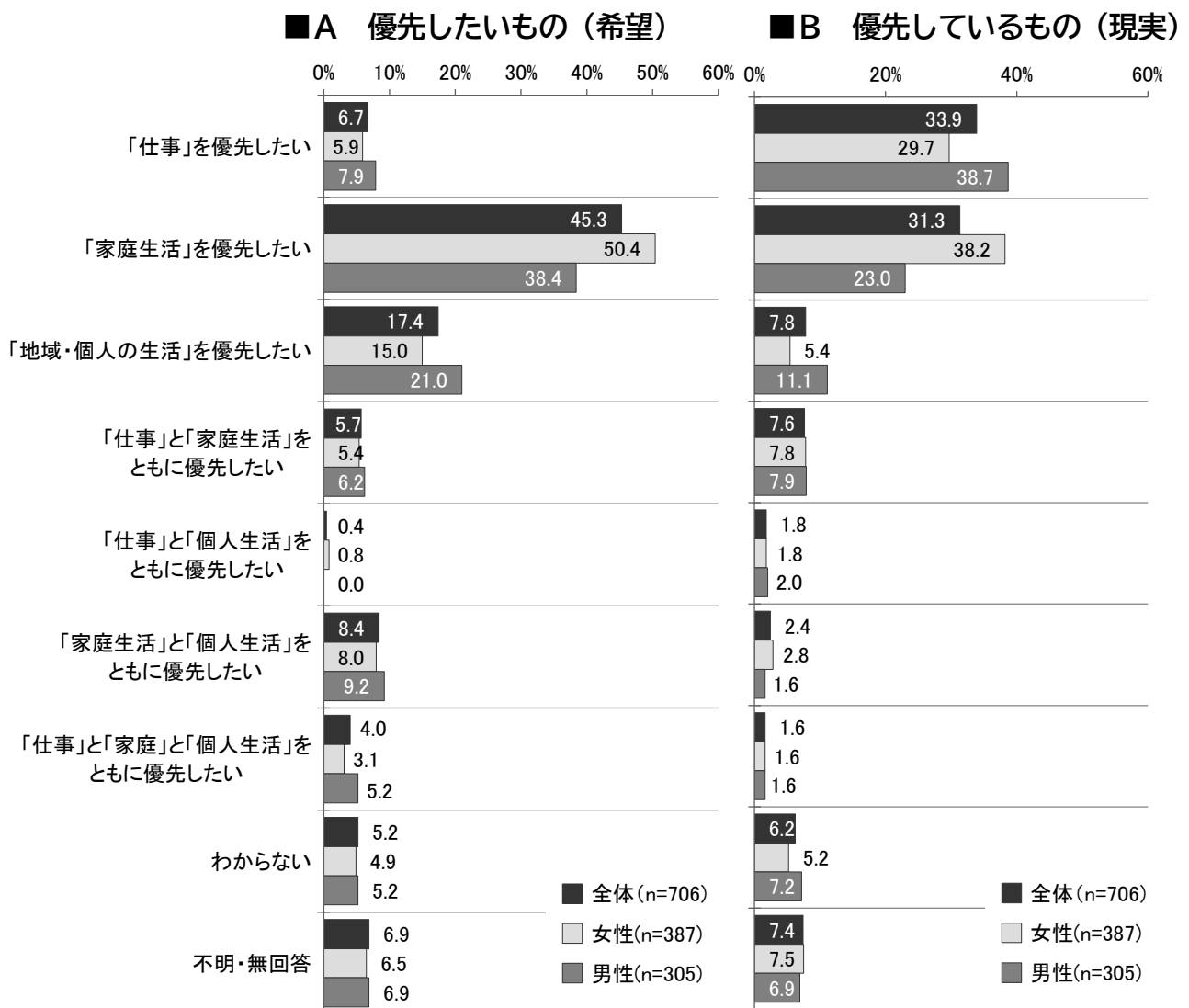
性別・年齢別では、男性の 20 代以下で「ことばの内容を理解している」が 63.3%と、それぞれ他の性別・年代と比べて高くなっています。



問 26 あなたの生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」について、優先させたいものの希望と現実を教えてください。(複数回答)
 ※「地域・個人の生活」とは、地域・社会活動、学習、趣味、付き合いなどを指しています。

優先したいもの(希望)は、全体で「家庭生活」を優先したい」が45.3%と最も高くなっているものの、優先しているもの(現実)では31.3%と、14.0ポイント低くなっています。一方、優先しているもの(現実)は、全体で「仕事」を優先している」が33.9%と最も高くなっています。

性別・年齢別では、女性・男性ともに60代以上を除いた年代で「仕事」が希望と現実の差が20ポイントを超えており、特に男性の40代及び50代で40ポイントを超えて高くなっています。



(単位: %)	n=	A 優先したいもの (希望)								
		「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「個人生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「個人生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭」と「個人生活」をともに優先したい	わからない	不明・無回答
女性・年齢別										
20代以下	42	2.4	50.0	19.0	2.4	0.0	14.3	2.4	4.8	4.8
30代	62	6.5	58.1	6.5	6.5	0.0	11.3	6.5	3.2	1.6
40代	88	5.7	51.1	11.4	9.1	2.3	10.2	3.4	5.7	1.1
50代	75	2.7	49.3	26.7	6.7	1.3	4.0	1.3	5.3	2.7
60代	58	8.6	53.4	13.8	3.4	0.0	3.4	1.7	1.7	13.8
70代以上	62	9.7	40.3	12.9	1.6	0.0	6.5	3.2	8.1	17.7
男性・年齢別										
20代以下	30	0.0	26.7	40.0	10.0	0.0	13.3	6.7	0.0	3.3
30代	39	5.1	48.7	5.1	12.8	0.0	15.4	2.6	10.3	0.0
40代	63	4.8	38.1	23.8	11.1	0.0	12.7	3.2	6.3	0.0
50代	55	10.9	40.0	21.8	3.6	0.0	9.1	3.6	7.3	3.6
60代	45	12.3	37.0	16.4	1.4	0.0	2.7	6.8	2.7	20.5
70代以上	73	12.3	37.0	16.4	1.4	0.0	2.7	6.8	2.7	20.5

(単位: %)	n=	B 優先しているもの (現実)								
		「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「個人生活」をともに優先している	「家庭生活」と「個人生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭」と「個人生活」をともに優先している	わからない	不明・無回答
女性・年齢別										
20代以下	42	38.7	41.9	0.0	8.1	0.0	1.6	3.2	4.8	1.6
30代	62	38.7	41.9	0.0	8.1	0.0	1.6	3.2	4.8	1.6
40代	88	29.5	38.6	1.1	11.4	3.4	4.5	4.5	5.7	1.1
50代	75	36.0	41.3	4.0	10.7	1.3	0.0	0.0	2.7	4.0
60代	58	27.6	44.8	1.7	3.4	1.7	3.4	0.0	3.4	13.8
70代以上	62	14.5	32.3	12.9	3.2	1.6	3.2	0.0	9.7	22.6
男性・年齢別										
20代以下	30	23.3	20.0	23.3	3.3	10.0	3.3	3.3	10.0	3.3
30代	39	43.6	25.6	5.1	15.4	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0
40代	63	49.2	19.0	6.3	11.1	0.0	3.2	1.6	9.5	0.0
50代	55	49.1	18.2	7.3	7.3	1.8	0.0	1.8	10.9	3.6
60代	45	31.1	31.1	15.6	4.4	0.0	4.4	4.4	2.2	6.7
70代以上	73	30.1	24.7	13.7	5.5	2.7	0.0	0.0	2.7	20.5

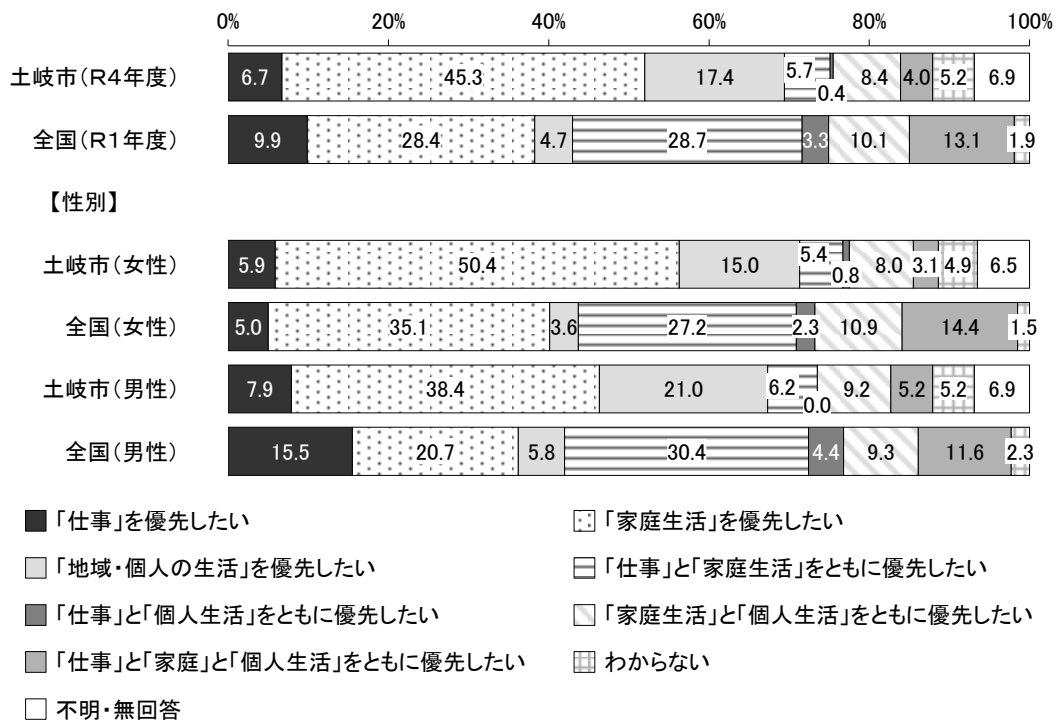
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

全国調査との比較

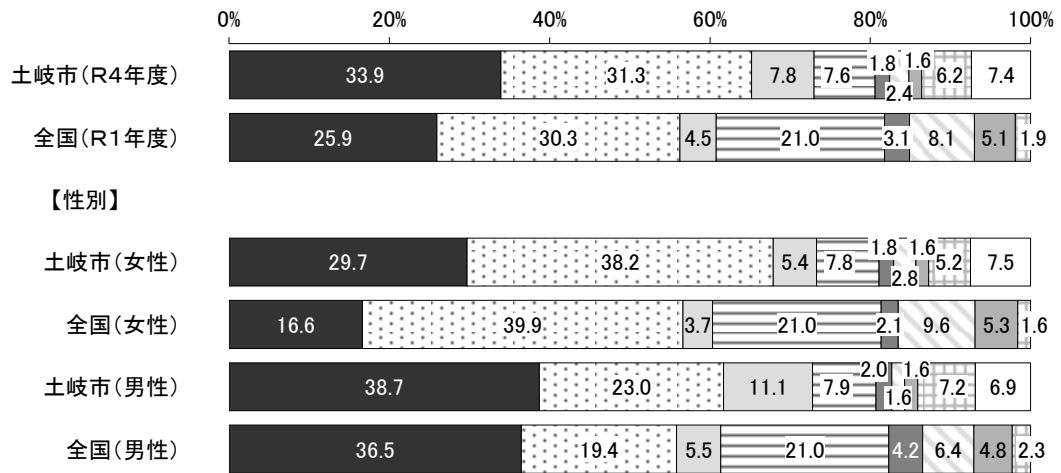
全国調査との比較では、優先したいもの（希望）が全国では「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が28.7%と最も高く、土岐市では5.7%と23.0ポイント低くなっています。

性別では、女性が優先したいもの（希望）は「家庭生活」を優先している」が50.4%と最も高くなっているものの、優先しているもの（現実）では38.2%と、12.2ポイント低くなっています。一方、男性が優先したいもの（希望）も同じく「家庭生活」を優先している」で38.4%となっているものの、優先しているもの（現実）では23.0%と、15.4ポイント低くなっています。全国調査と同様に、女性・男性ともに“仕事”における希望と現実のギャップが大きくなっています。

■A 優先したいもの（希望）



■B 優先しているもの（現実）



- 「仕事」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「個人生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭」と「個人生活」をともに優先している
- 不明・無回答
- 「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「個人生活」をともに優先している
- わからない

5 DV（ドメスティック・バイオレンス）、ハラスメントについて

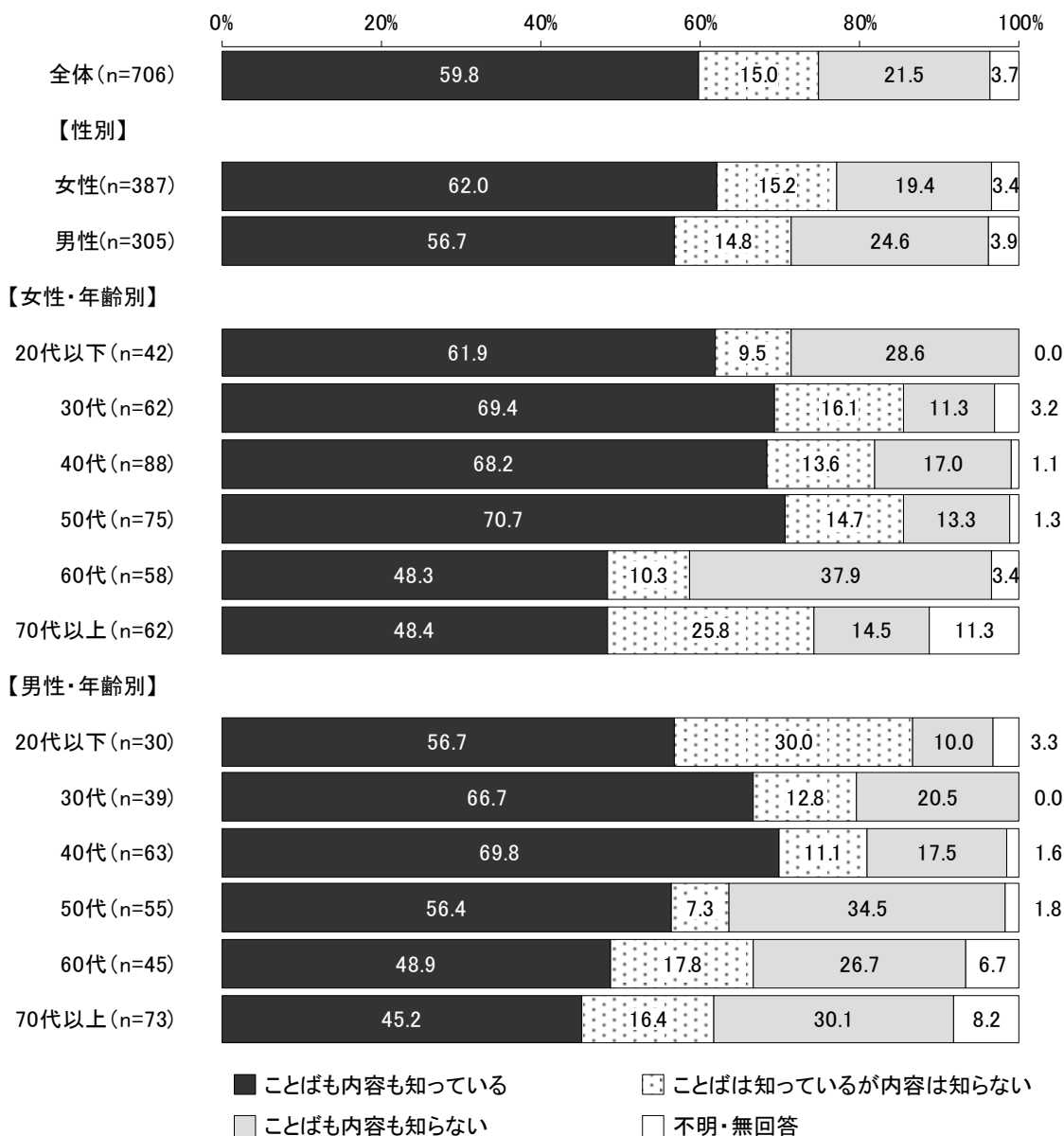
問27 あなたは、DVについて知っていますか。(単数回答)

■A デートDV（結婚していない恋人間等でおきるDV）

デートDV（結婚していない恋人間等でおきるDV）は、全体で「ことばも内容も知っている」が59.8%、「ことばは知っているが内容は知らない」が15.0%、「ことばも内容も知らない」が21.5%となっています。

性別では、「ことばも内容も知っている」が女性で62.0%、男性で56.7%となっています。

性別・年齢別では、「ことばも内容も知っている」が女性の60代以上、男性の20代以下及び50代以上で6割を下回って低くなっています。

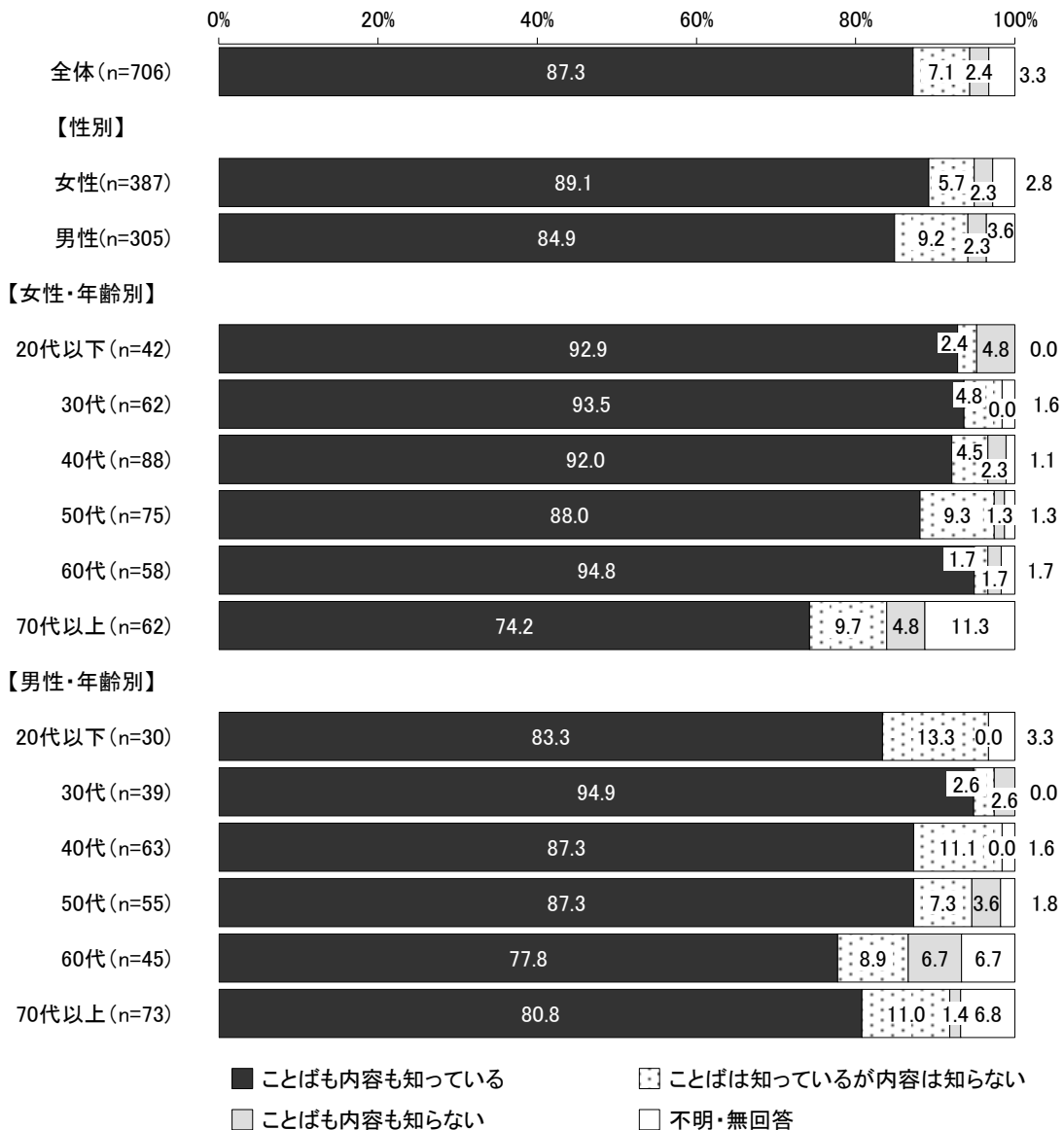


■B 身体的DV（なぐる、ける 等）

身体的DV（なぐる、ける等）は、全体で「ことばも内容も知っている」が87.3%、「ことばは知っているが内容は知らない」が7.1%、「ことばも内容も知らない」が2.4%となっています。

性別では、「ことばも内容も知っている」が女性で89.1%、男性で84.9%となっています。

性別・年齢別では、「ことばも内容も知っている」が70代以上を除き、女性が男性を上回っています。

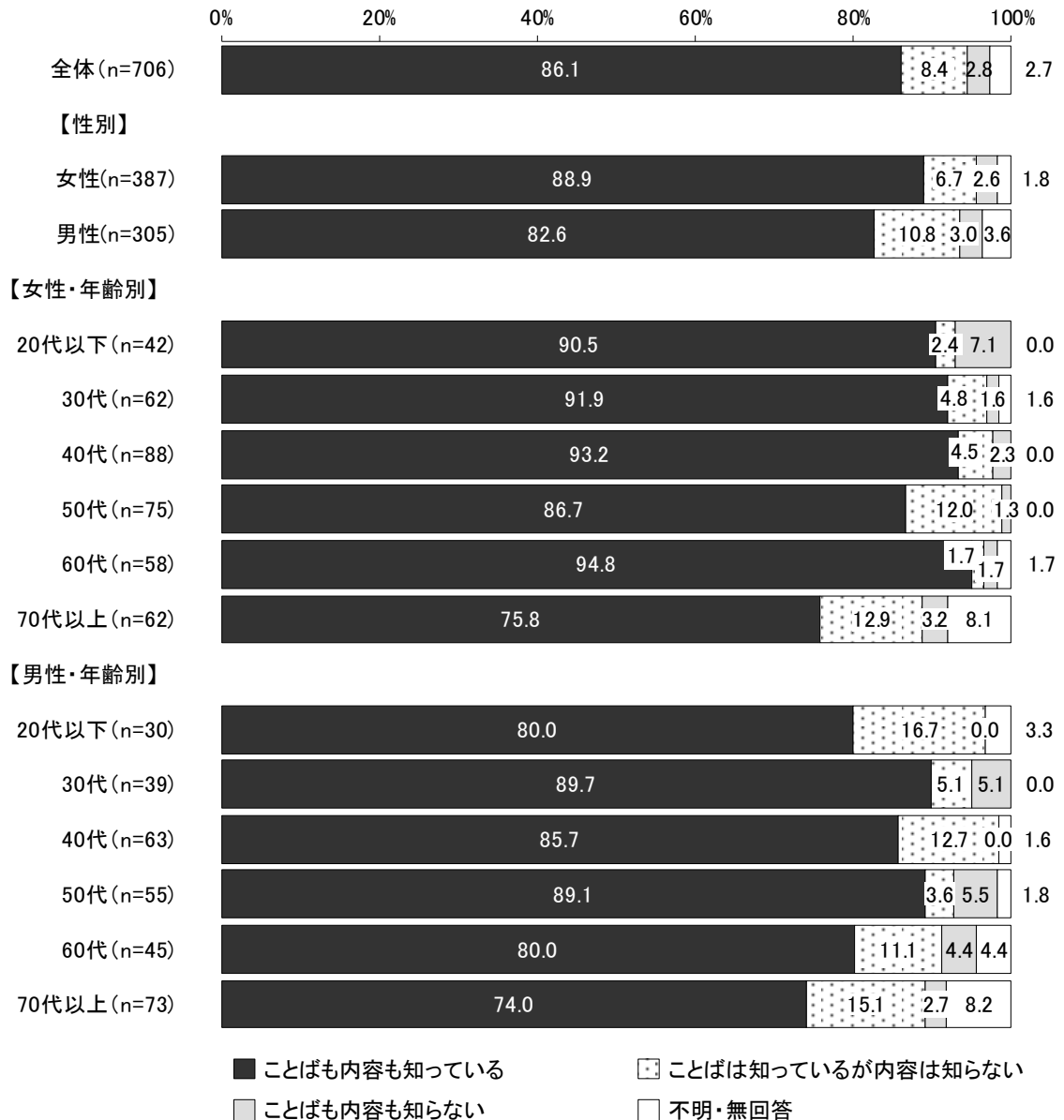


■C 精神的DV（おどす、ののしる、無視する 等）

精神的DV（おどす、ののしる、無視する等）は、全体で「ことばも内容も知っている」が86.1%、「ことばは知っているが内容は知らない」が8.4%、「ことばも内容も知らない」が2.8%となっています。

性別では、「ことばも内容も知っている」が女性で88.9%、男性で82.6%となっています。

性別・年齢別では、「ことばも内容も知っている」が50代を除き、女性が男性を上回っています。

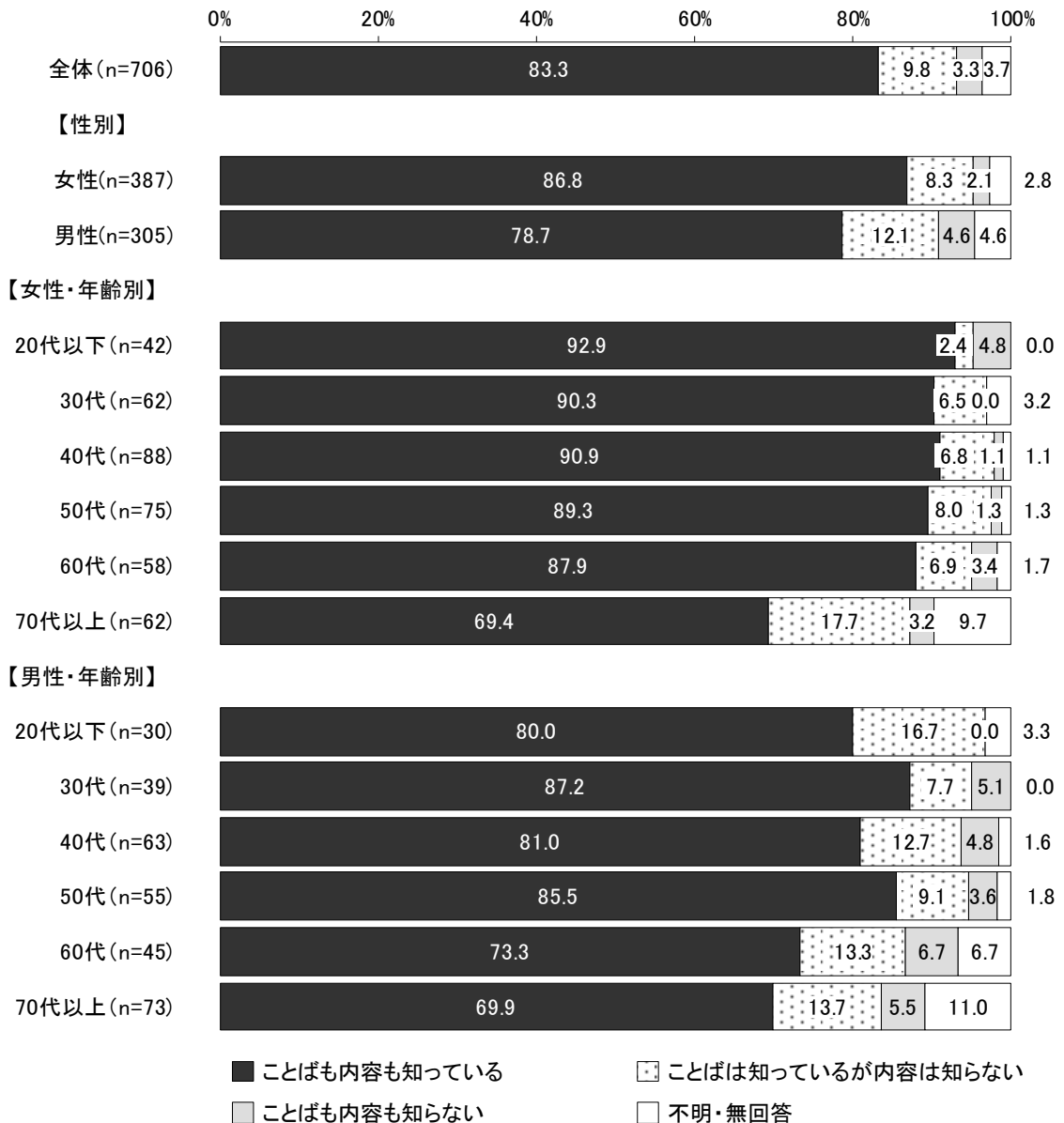


■D 性的DV（性行為の強要、避妊に協力しない 等）

性的DV（性行為の強要、避妊に協力しない等）は、全体で「ことばも内容も知っている」が83.3%、「ことばは知っているが内容は知らない」が9.8%、「ことばも内容も知らない」が3.3%となっています。

性別では、「ことばも内容も知っている」が女性で86.8%、男性で78.7%となっています。

性別・年齢別では、「ことばも内容も知っている」が70代以上を除き、女性が男性を上回っています。

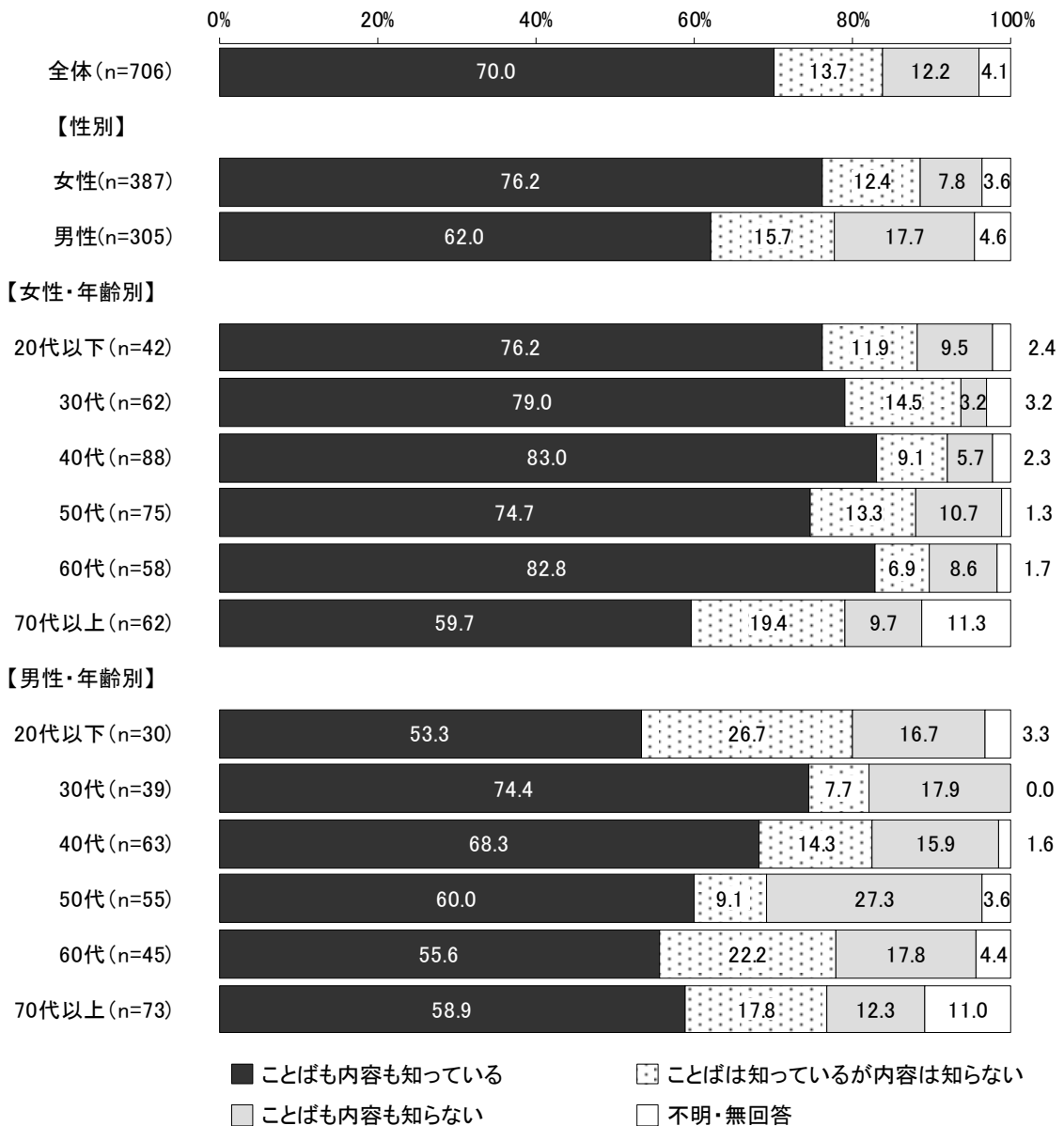


■E 経済的DV（生活費を渡さない、借金を重ねる 等）

経済的DV（生活費を渡さない、借金を重ねる等）は、全体で「ことばも内容も知っている」が70.0%、「ことばは知っているが内容は知らない」が13.7%、「ことばも内容も知らない」が12.2%となっています。

性別では、「ことばも内容も知っている」が女性で76.2%、男性で62.0%と、女性は男性と比べて14.2ポイント高くなっています。

性別・年齢別では、「ことばも内容も知っている」が女性の全年代で男性を上回っています。

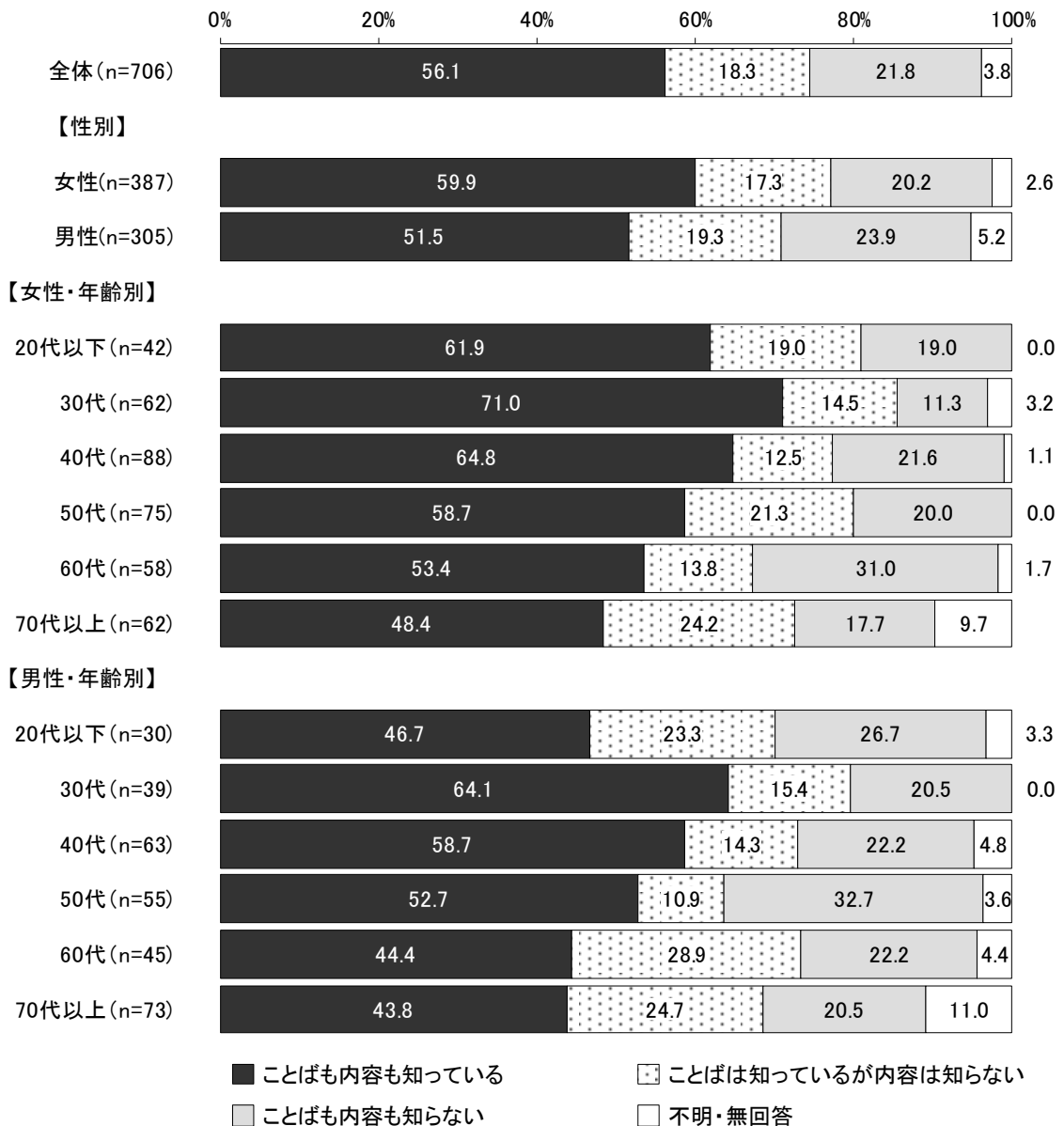


■ F 社会的DV（友人と会うことや実家などへの外出を制限する 等）

社会的DV（友人と会うことや実家などへの外出を制限する等）は、全体で「ことばも内容も知っている」が56.1%、「ことばは知っているが内容は知らない」が18.3%、「ことばも内容も知らない」が21.8%となっています。

性別では、「ことばも内容も知っている」が女性で59.9%、男性で51.5%となっています。

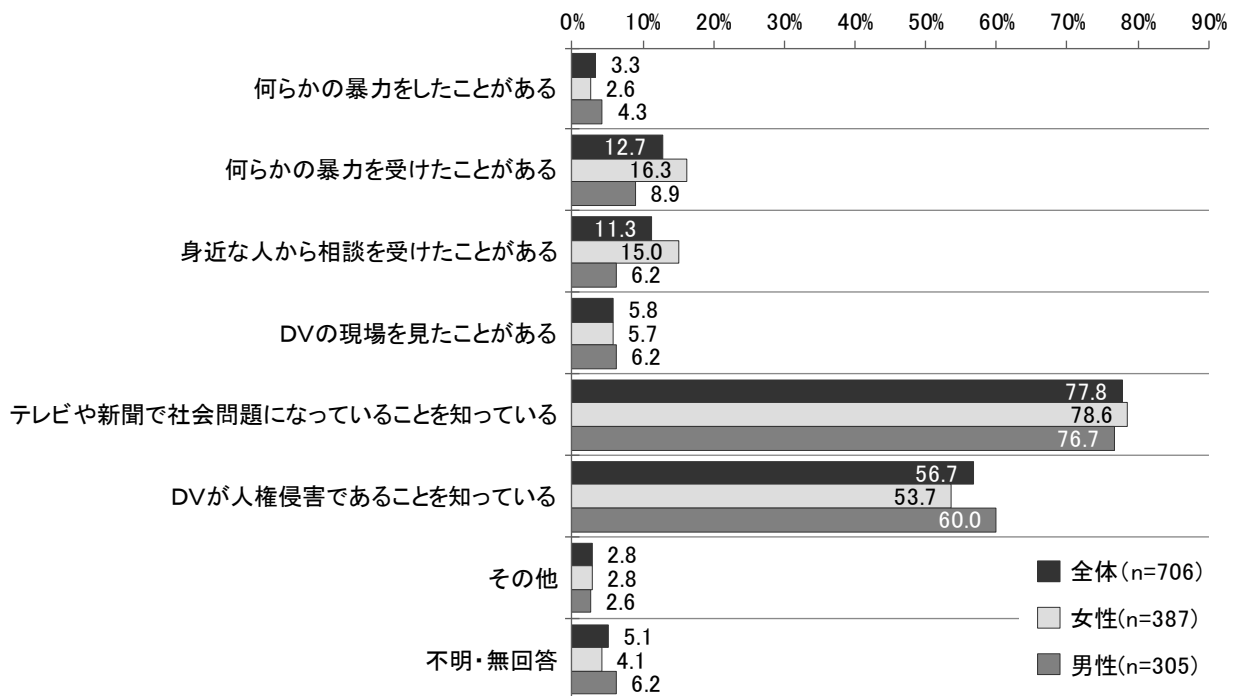
性別・年齢別では、「ことばも内容も知っている」が女性の全年代で男性を上回っているものの、女性・男性ともに60代以上でやや低くなっています。



問 28 あなたは、DVに関して、経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。(複数回答)

DVに関して、経験したり、見聞きしたりしたことがあるかは、全体で「テレビや新聞で社会問題になっていることを知っている」が77.8%と最も高く、次いで「DVが人権侵害であることを知っている」が56.7%となっています。なお、「何らかの暴力を受けたことがある」被害者が12.7%、「何らかの暴力をしたことがある」加害者が3.3%となっています。

性別では、「何らかの暴力をしたことがある」が女性で2.6%、男性で4.3%、「何らかの暴力を受けたことがある」が女性で16.3%、男性で8.9%となっています。



性別・年齢別では、「何らかの暴力をしたことがある」が女性・男性ともに30代以上で一定数みられ、男性の50代以上でやや高くなっています。一方、「何らかの暴力を受けたことがある」が女性・男性ともに全年代でみられ、女性の30代及び40代で約2割、50代で約3割、男性の50代で約2割と高くなっています。

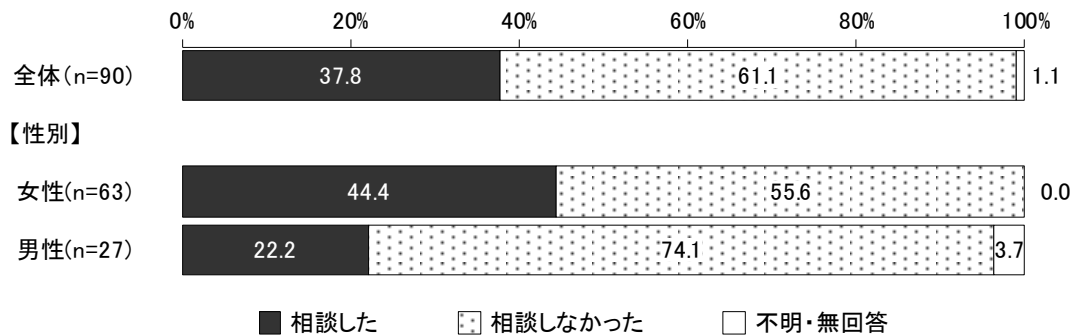
(単位:%)		何らかの暴力をしたことがある	何らかの暴力を受けたことがある	身近な人から相談を受けたことがある	DVの現場を見たことがある	テレビや新聞で社会問題になっていることを知っている	DVが人権侵害であることを知っている	その他	不明・無回答
	n=								
女性・年齢別									
20代以下	42	0.0	7.1	11.9	4.8	88.1	52.4	2.4	2.4
30代	62	3.2	16.1	24.2	6.5	69.4	37.1	6.5	6.5
40代	88	5.7	21.6	18.2	4.5	73.9	50.0	2.3	1.1
50代	75	1.3	28.0	14.7	8.0	81.3	54.7	2.7	5.3
60代	58	1.7	6.9	6.9	6.9	81.0	67.2	1.7	3.4
70代以上	62	1.6	9.7	11.3	3.2	82.3	62.9	1.6	6.5
男性・年齢別									
20代以下	30	0.0	6.7	10.0	0.0	56.7	73.3	3.3	6.7
30代	39	2.6	7.7	7.7	5.1	76.9	46.2	0.0	7.7
40代	63	1.6	7.9	1.6	9.5	76.2	49.2	3.2	6.3
50代	55	9.1	18.2	10.9	7.3	80.0	54.5	5.5	3.6
60代	45	6.7	8.9	6.7	8.9	75.6	60.0	2.2	11.1
70代以上	73	4.1	4.1	4.1	4.1	83.6	75.3	1.4	4.1

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 28 で「2. 何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方のみ

問 29 あなたは、どこかに相談しましたか。(単数回答)

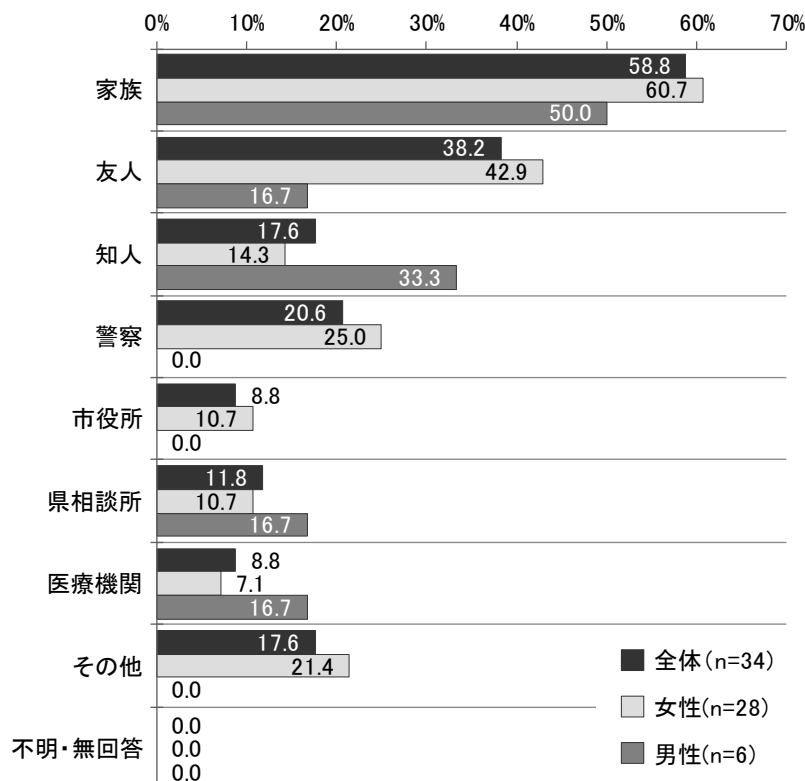
被害を誰かに相談したかは、全体で「相談した」が37.8%、「相談しなかった」が61.1%となっています。性別では、「相談した」が女性で44.4%、男性で22.2%となっています。



問 29 で「1. 相談した」と答えた方のみ

問 30 あなたは、どちらに相談しましたか。(複数回答)

被害の相談先は、全体で「家族」が58.8%と最も高く、次いで「友人」が38.2%となっています。なお、公的機関では「警察」が20.6%、「県相談所」が11.8%、「市役所」が8.8%となっています。性別では、女性で「家族」「友人」が、男性で「家族」「知人」が高くなっています。

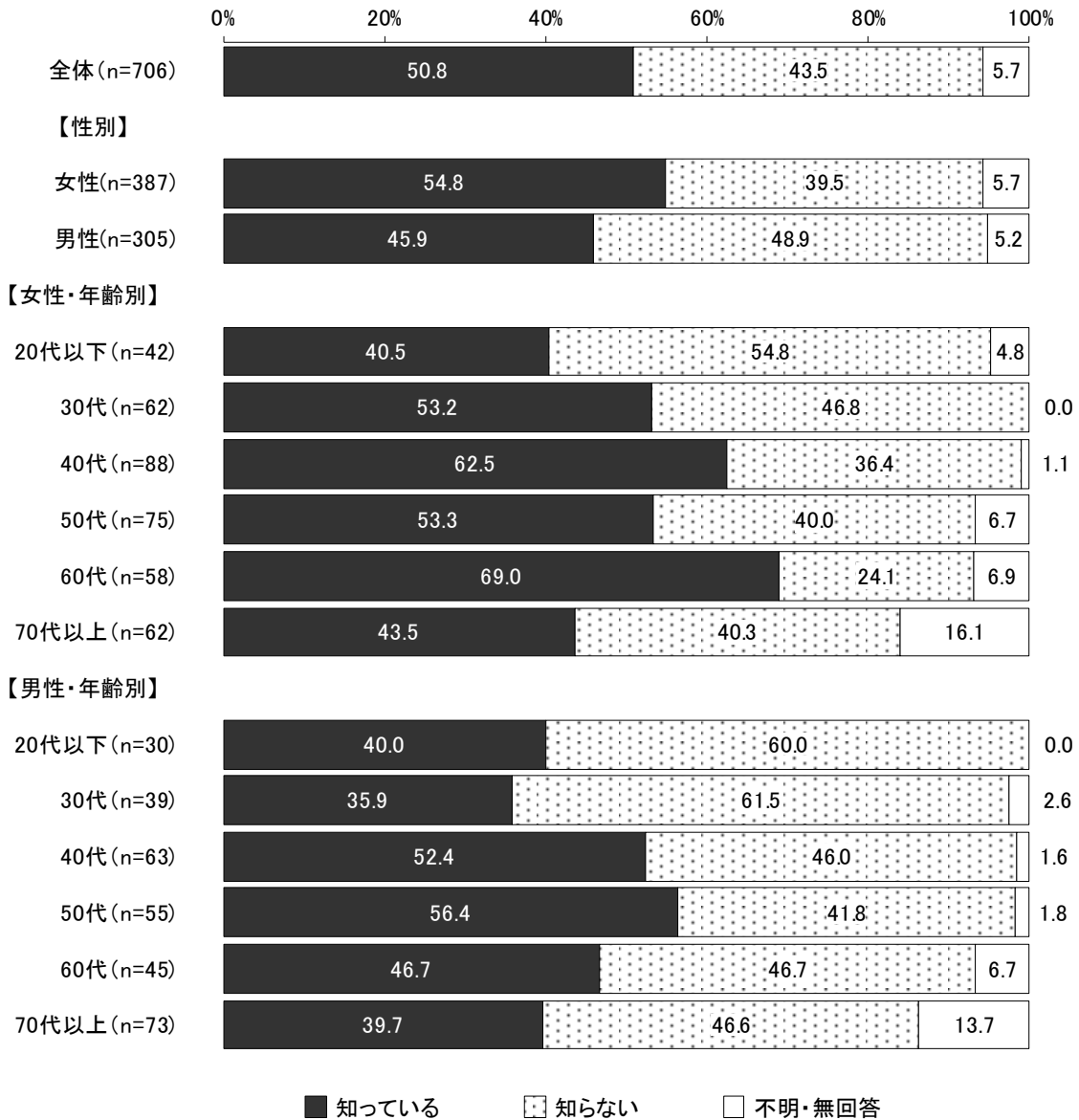


問31 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(単数回答)

DVについて相談できる窓口があることを知っているかは、全体で「知っている」が50.8%、「知らない」が43.5%となっています。

性別では、「知っている」が女性で54.8%、男性で45.9%となっています。

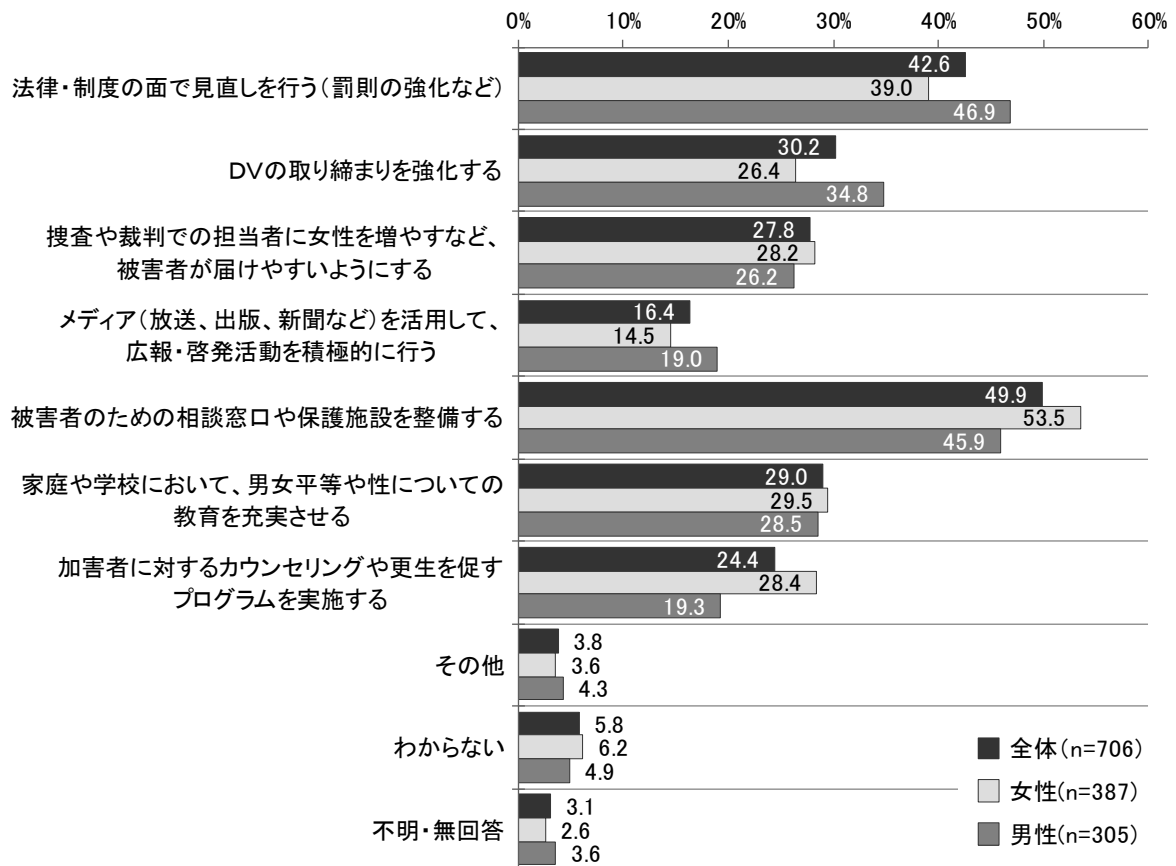
性別・年齢別では、「知っている」が女性の40代及び60代で6割を超えているものの、他の性別・年代では約4～5割台となっています。



問 32 あなたは、DVを防止するために何が重要だと思いますか。(複数回答)

DVを防止するために何が重要だと思うかは、全体で「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が49.9%と最も高く、次いで「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」が42.6%となっています。

性別では、10ポイントを超える大差はみられません。



性別・年齢別では、女性の全年代及び男性の70代以上で「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が、男性の60代以下では「法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）」「DVの取り締まりを強化する」がそれぞれ最も高くなっています。

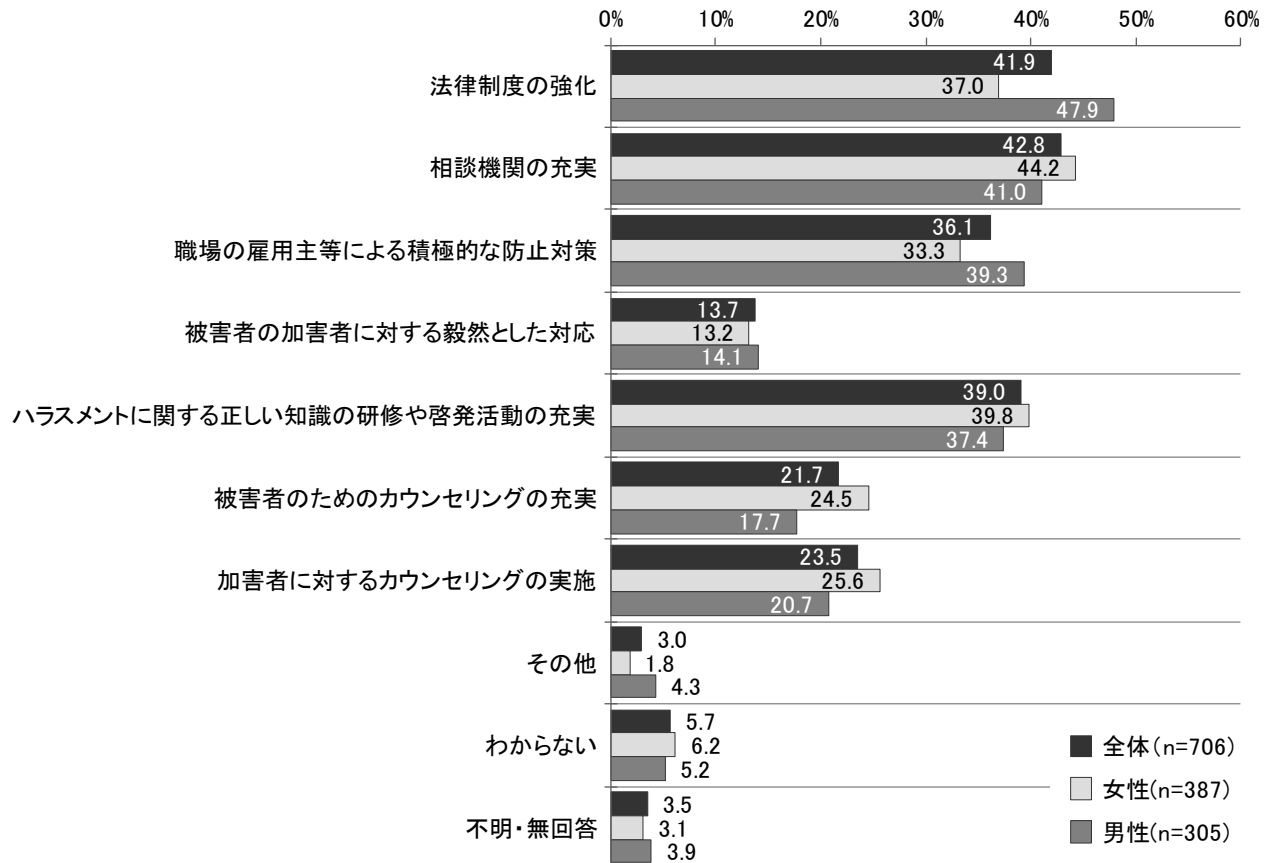
(単位：%)		法律・制度の面で見直しを行う（罰則の強化など）	DVの取り締まりを強化する	捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする	メディア（放送、出版、新聞など）を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者のための相談窓口や保護施設を整備する	家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる	加害者に対するカウンセリングや更生を促すプログラムを実施する	その他	わからない	不明・無回答
	n=										
女性・年齢別											
20代以下	42	28.6	38.1	31.0	14.3	45.2	35.7	21.4	0.0	9.5	4.8
30代	62	45.2	29.0	24.2	12.9	48.4	30.6	32.3	4.8	6.5	1.6
40代	88	50.0	30.7	22.7	13.6	55.7	31.8	38.6	1.1	2.3	0.0
50代	75	34.7	21.3	40.0	12.0	49.3	28.0	21.3	6.7	8.0	2.7
60代	58	34.5	22.4	25.9	20.7	65.5	20.7	32.8	5.2	1.7	3.4
70代以上	62	33.9	19.4	25.8	14.5	54.8	30.6	19.4	3.2	11.3	4.8
男性・年齢別											
20代以下	30	43.3	43.3	23.3	13.3	40.0	33.3	30.0	6.7	6.7	0.0
30代	39	46.2	53.8	17.9	33.3	43.6	30.8	2.6	2.6	2.6	0.0
40代	63	55.6	41.3	30.2	12.7	42.9	17.5	19.0	7.9	4.8	0.0
50代	55	49.1	38.2	25.5	21.8	40.0	27.3	18.2	3.6	7.3	3.6
60代	45	48.9	26.7	26.7	17.8	46.7	35.6	22.2	0.0	2.2	8.9
70代以上	73	38.4	17.8	28.8	17.8	56.2	31.5	23.3	4.1	5.5	6.8

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目**第1位**と**第2位**に網かけをしています。

問 33 あなたは、ハラスメントの防止のために、どのような対策が必要だと思いますか。
(複数回答)

ハラスメントの防止のために、必要だと思う対策は、全体で「相談機関の充実」が42.8%と最も高く、次いで「法律制度の強化」が41.9%となっています。

性別では、「法律制度の強化」が男性で47.9%と、女性と比べて10.9ポイント高くなっています。



性別・年齢別では、女性・男性ともにいずれの年代でも「法律制度の強化」「相談機関の充実」「職場の雇用主等による積極的な防止対策」「ハラスメントに関する正しい知識の研修や啓発活動の充実」が上位となっています。また、女性の40代では「加害者に対するカウンセリングの実施」が38.6%と、他の性別・年代と比べて高くなっています。

(単位: %)		法律制度の強化	相談機関の充実	職場の雇用主等による積極的な防止対策	被害者の加害者に対する毅然とした対応	ハラスメントに関する正しい知識の研修や啓発活動の充実	被害者のためのカウンセリングの充実	加害者に対するカウンセリングの実施	その他	わからない	不明・無回答
	n=										
女性・年齢別											
20代以下	42	42.9	38.1	28.6	7.1	45.2	21.4	23.8	0.0	7.1	4.8
30代	62	46.8	46.8	35.5	9.7	32.3	37.1	30.6	0.0	1.6	0.0
40代	88	37.5	39.8	38.6	12.5	35.2	25.0	38.6	2.3	8.0	0.0
50代	75	34.7	50.7	33.3	6.7	44.0	20.0	18.7	6.7	8.0	1.3
60代	58	31.0	46.6	39.7	20.7	44.8	22.4	13.8	0.0	3.4	5.2
70代以上	62	30.6	41.9	21.0	22.6	40.3	21.0	22.6	0.0	8.1	9.7
男性・年齢別											
20代以下	30	50.0	50.0	40.0	10.0	30.0	20.0	26.7	3.3	3.3	0.0
30代	39	56.4	43.6	56.4	20.5	28.2	25.6	2.6	2.6	7.7	0.0
40代	63	55.6	28.6	39.7	11.1	31.7	15.9	23.8	6.3	7.9	0.0
50代	55	52.7	41.8	34.5	18.2	36.4	18.2	23.6	9.1	7.3	1.8
60代	45	44.4	40.0	40.0	17.8	42.2	17.8	22.2	0.0	0.0	11.1
70代以上	73	34.2	46.6	32.9	9.6	47.9	13.7	21.9	2.7	4.1	8.2

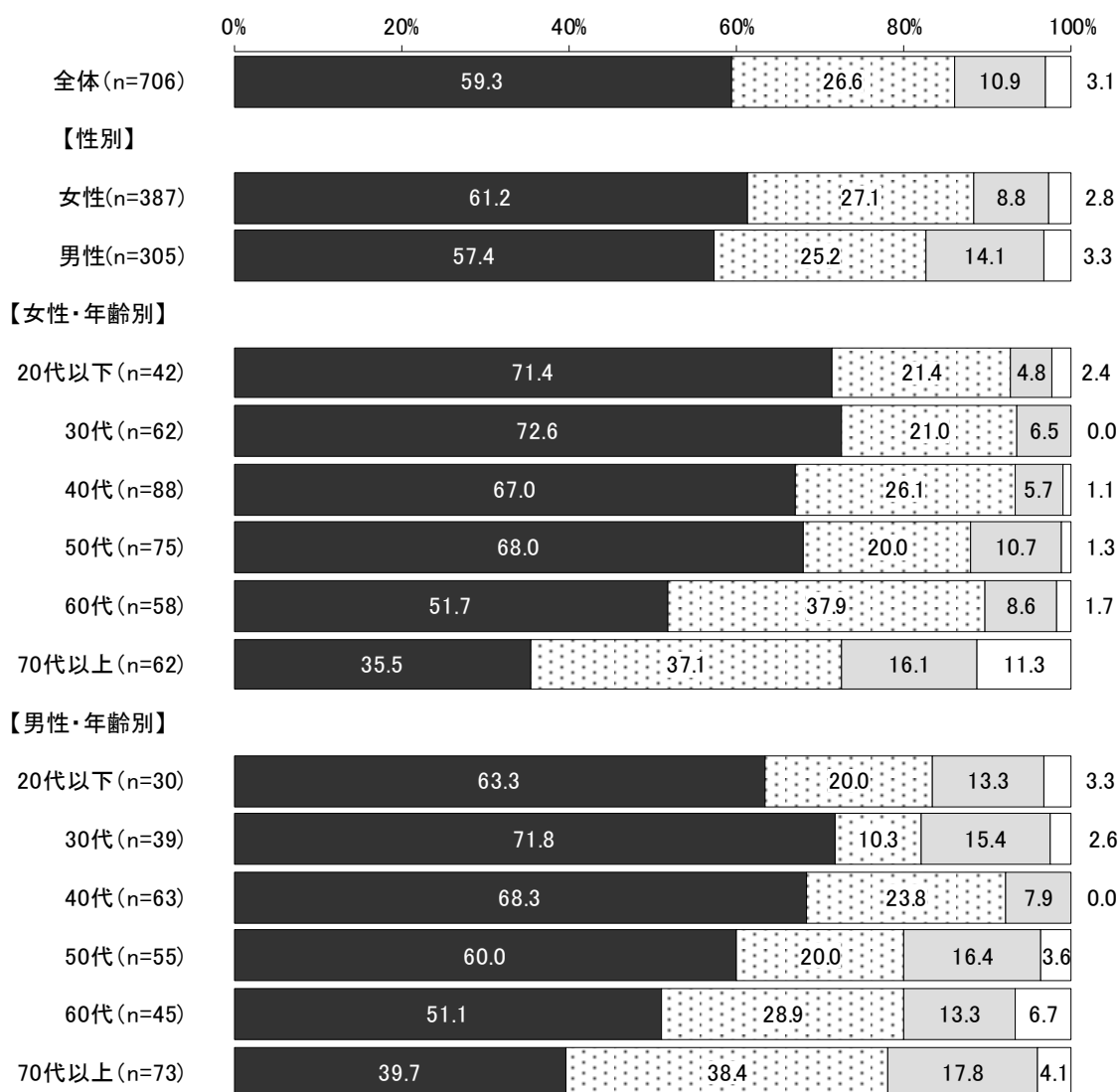
※ 「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

6 性の多様性について

問34 あなたは、LGBT（性的マイノリティ）ということばを知っていますか。（単数回答）

LGBT（性的マイノリティ）ということばの認知度は、全体で「ことばの内容を理解している」が59.3%、「ことばは聞いたことがある」が26.6%、「まったく知らない」が10.9%となっています。

性別では、「ことばの内容を理解している」が女性で61.2%、男性で57.4%となっています。

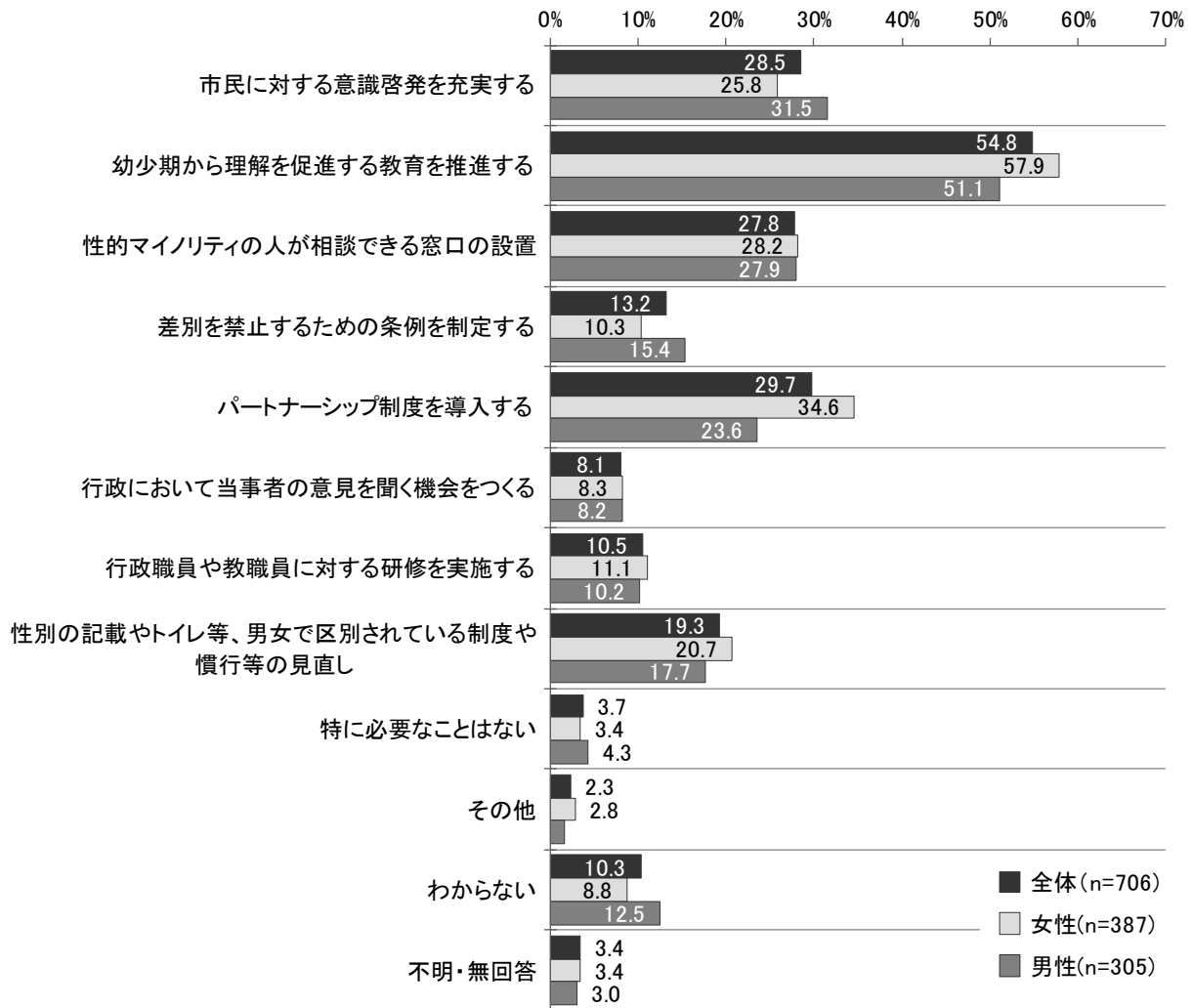


■ ことばの内容を理解している □ ことばは聞いたことがある ■ まったく知らない □ 不明・無回答

問 35 あなたは、LGBT（性的マイノリティ）の人たちが暮らしやすい社会にするためには、どのような意識啓発や支援が必要だと思いますか。（複数回答）

LGBT（性的マイノリティ）の人たちが暮らしやすい社会にするために必要だと思う意識啓発や支援は、全体で「幼少期から理解を促進する教育を推進する」が54.8%と最も高く、次いで「パートナーシップ制度を導入する」が29.7%となっています。

性別では、「パートナーシップ制度を導入する」が女性で34.6%と、男性と比べて11.0ポイント高くなっています。

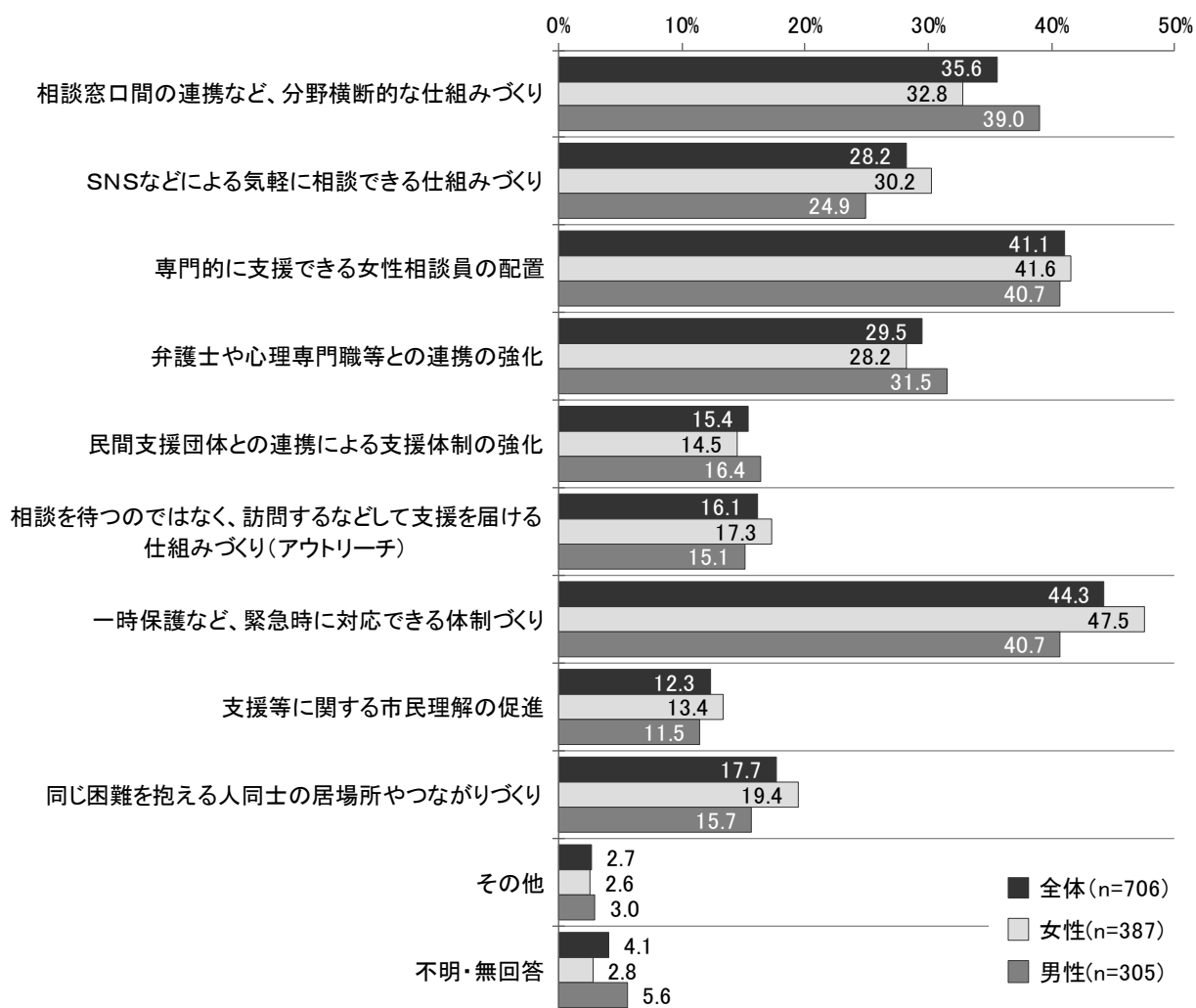


7 困難を抱える女性への支援について

問 36 貧困やDV、性暴力などに直面する女性の自立に向けて公的支援を強化していくため、令和4年5月に、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が成立しました。このことについてあなたが特に土岐市で取り組む必要があると思うものを教えてください。(複数回答)

困難を抱える女性への支援について、特に土岐市で取り組む必要があると思う取組は、全体で「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が44.3%と最も高く、次いで「専門的に支援できる女性相談員の配置」が41.1%となっています。

性別では、10ポイントを超える大差はみられません。

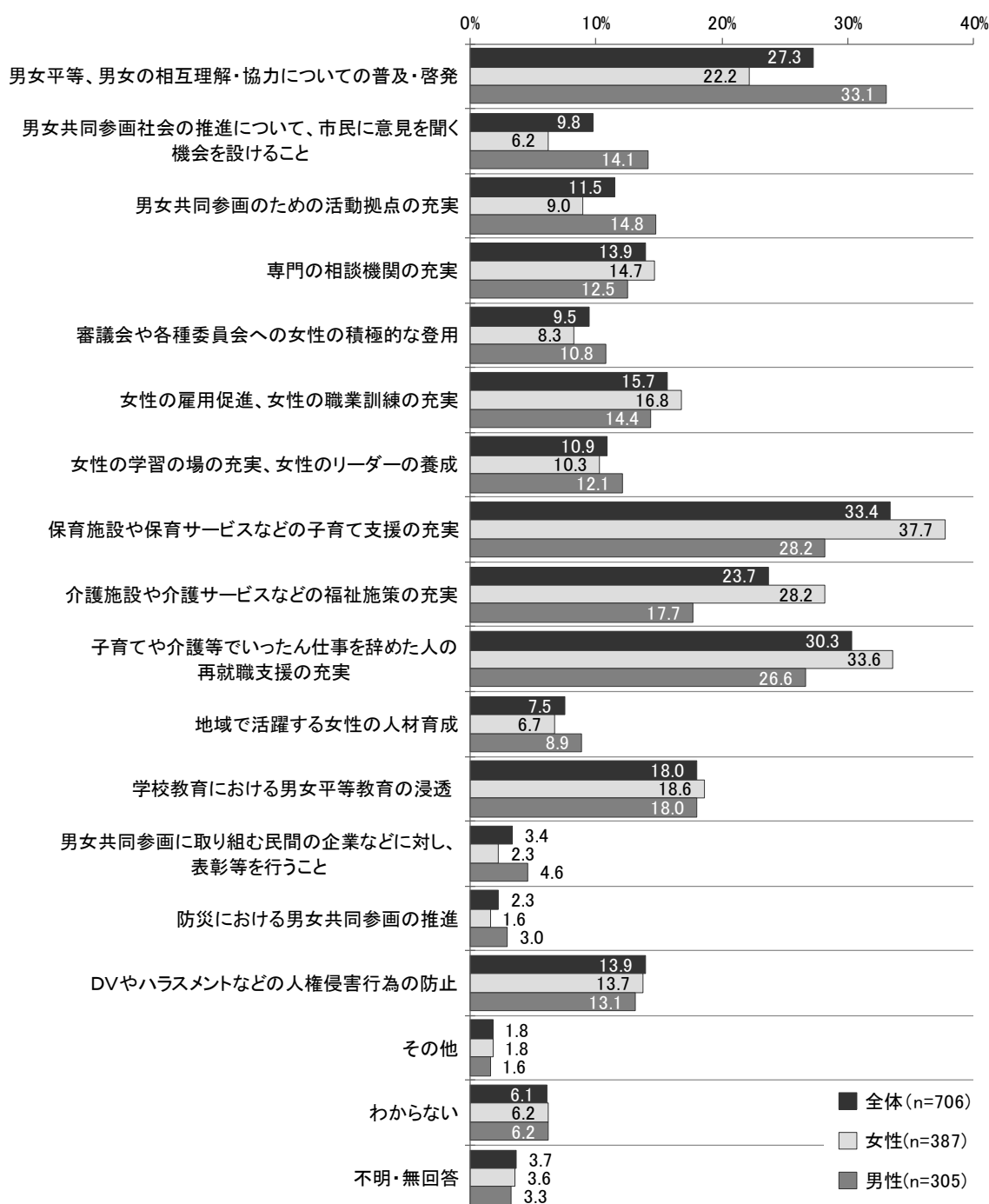


8 男女共同参画全般について

問 37 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、土岐市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

男女共同参画社会を実現するために、土岐市が今後力を入れていくべきと思う取組は、全体で「保育施設や保育サービスなどの子育て支援の充実」が33.4%と最も高く、次いで「子育てや介護等で行ったん仕事を辞めた人の再就職支援の充実」が30.3%となっています。

性別では、「介護施設や介護サービスなどの福祉施策の充実」が女性で28.2%と男性と比べて10.5ポイント、「男女平等、男女の相互理解・協力についての普及・啓発」が男性で33.1%と女性と比べて10.9ポイント、それぞれ高くなっています。



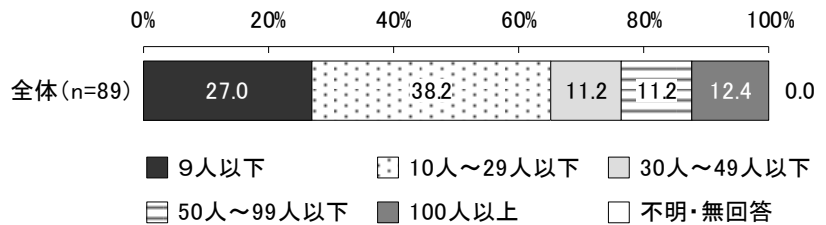
Ⅲ 事業所調査結果

1 回答事業所の概要

問1 貴事業所の従業員数等の状況をお答えください。(数量回答)

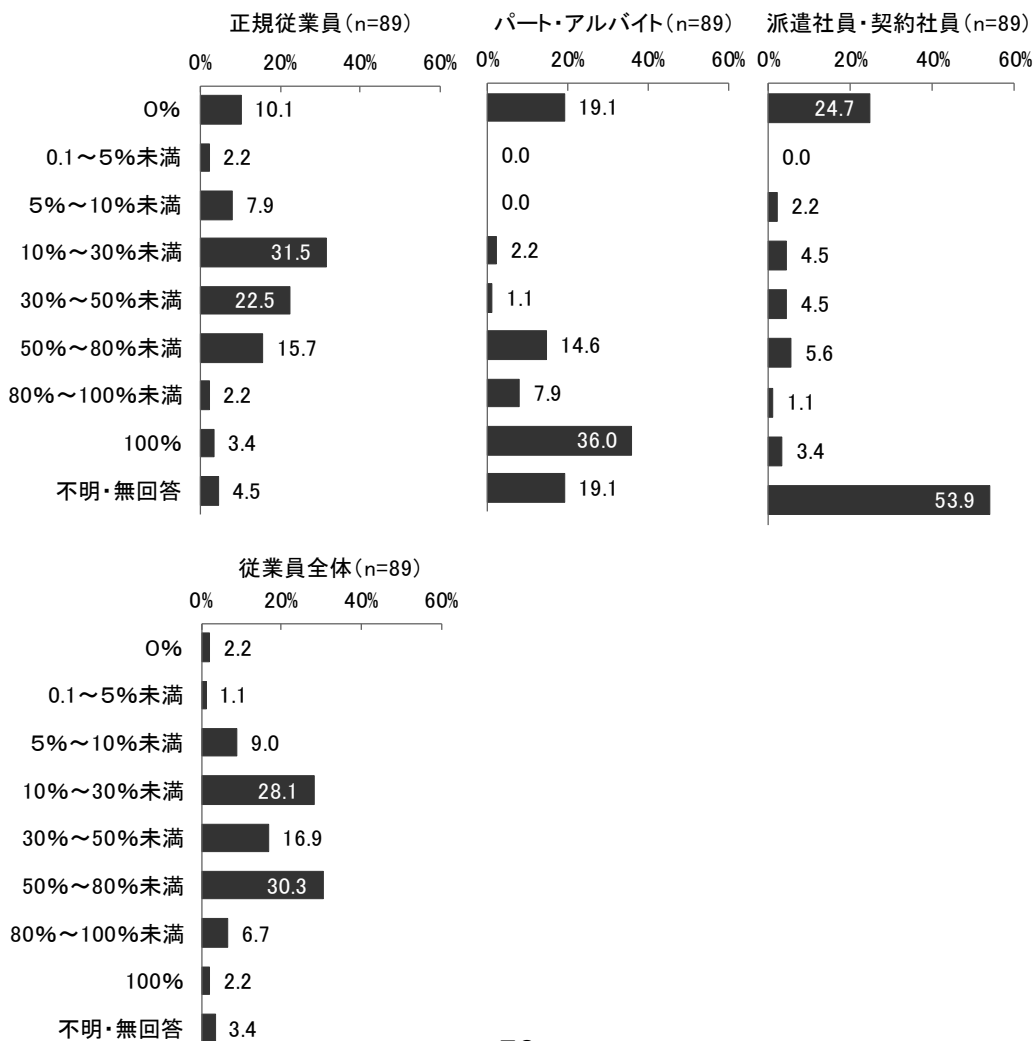
■従業員数

従業員の人数は、全体で「10人～29人以下」が38.2%と最も高く、次いで「9人以下」が27.0%となっています。



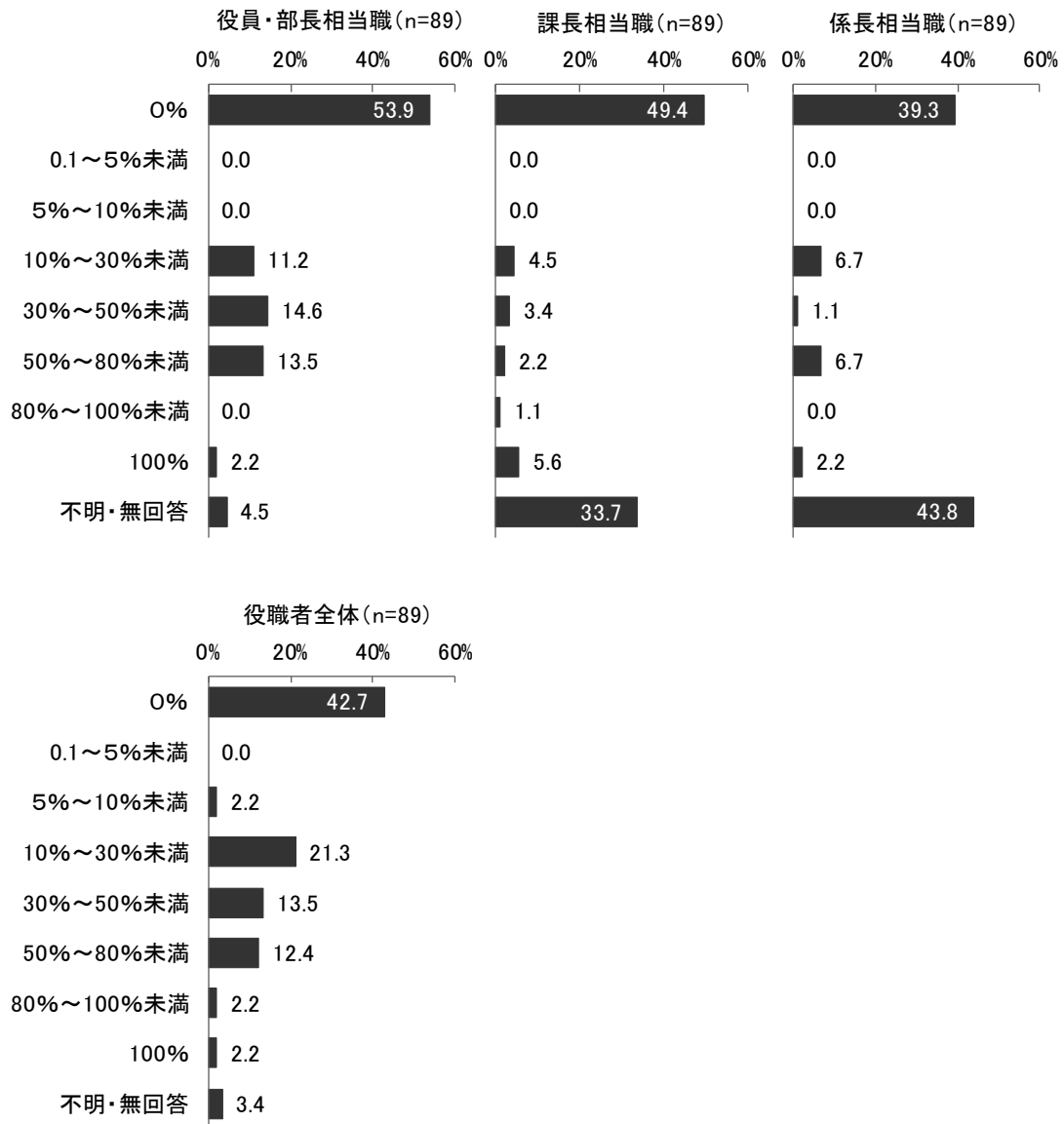
■(1) 雇用形態別の女性比率

雇用形態別の女性比率は、正規従業員で「10%～30%未満」が31.5%と最も高く、次いで「30%～50%未満」が22.5%となっています。パート・アルバイトは「100%」が36.0%、派遣社員・契約社員は「0%」が24.7%と、それぞれ最も高くなっています。従業員全体では、「50%～80%未満」が30.3%と最も高く、次いで「10%～30%未満」が28.1%となっています。



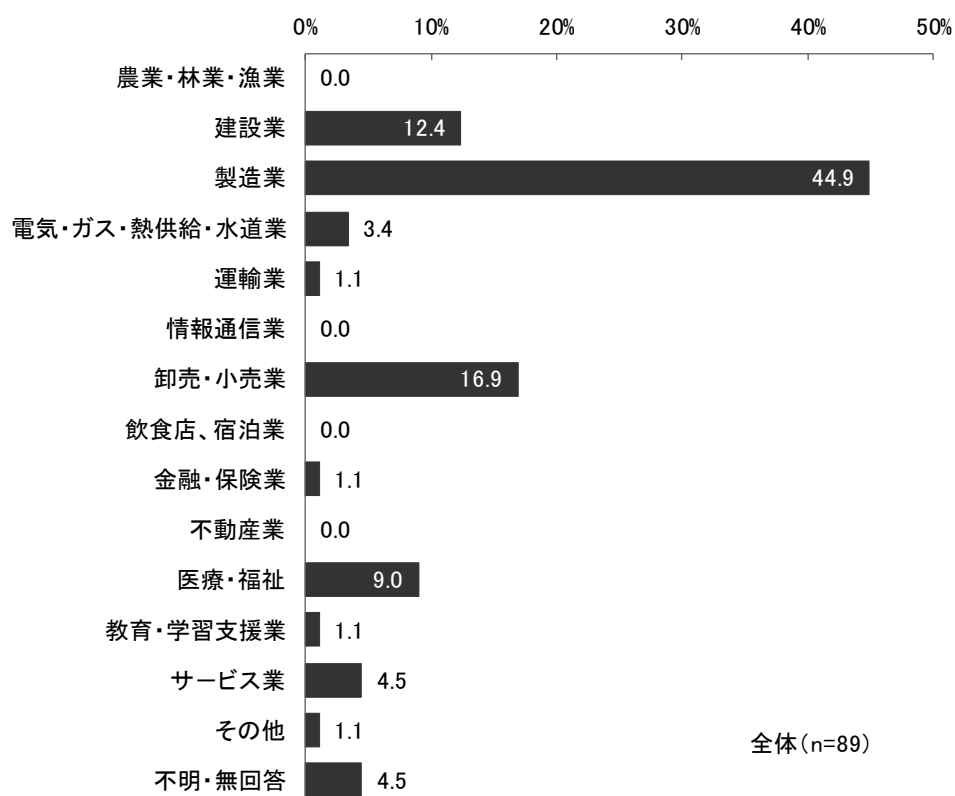
■ (2) 役職者別の女性比率

役職別の女性比率は、役員・部長相当職、課長相当職及び係長相当職のいずれも「0%」が最も高くなっています。役職者全体でも「0%」が42.7%と最も高く、次いで「10%～30%未満」が21.3%となっています。



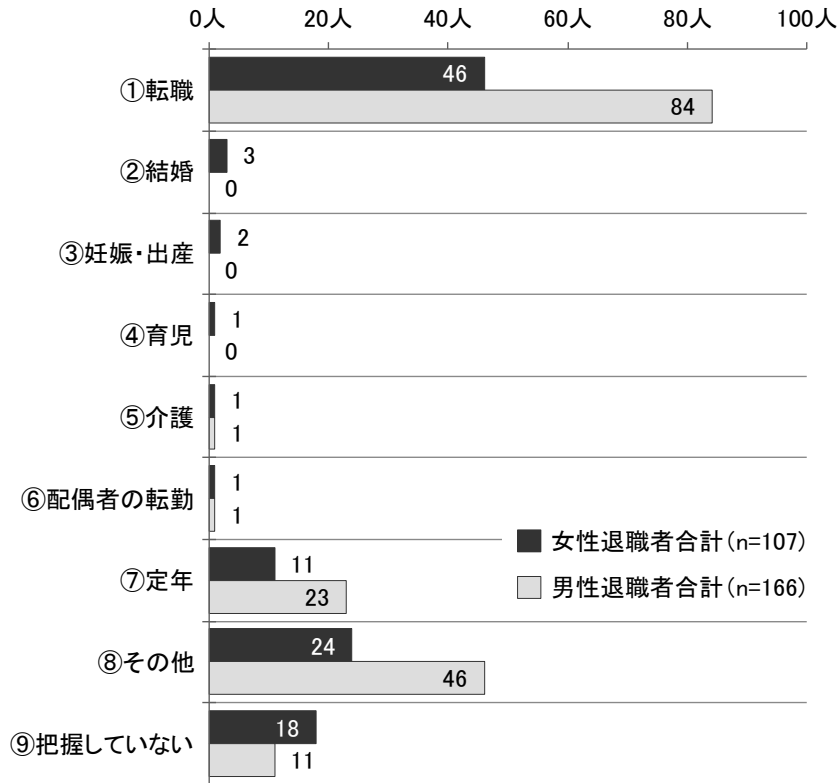
問2 主な業種についてあてはまるものをお答えください。(単数回答)

主な業種は、「製造業」が44.9%と最も高く、次いで「卸売業・小売業」が16.9%となっています。



問3 令和3年度の1年間に、退職した従業員の人数について離職理由別にお答えください。(数量回答)

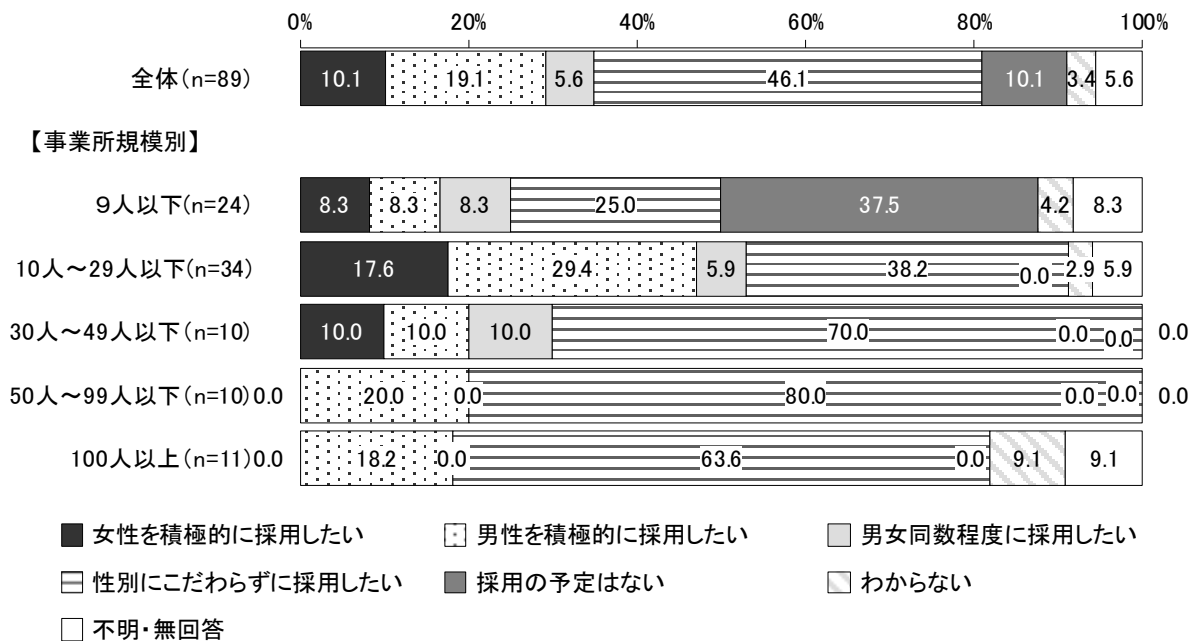
令和3年度の1年間における、離職理由別の退職従業員数は、女性・男性ともに「転職」が最も高く、女性46人、男性84人となっています。「結婚」「妊娠・出産」「育児」「介護」を理由とした女性の退職者は、それぞれ数名みられます。



問4 貴事業所の今後の採用についての方向性を教えてください。(単数回答)

今後の採用についての方向性は、全体で「性別にこだわらずに採用したい」が46.1%と最も高く、次いで「男性を積極的に採用したい」が19.1%となっています。

事業所規模別では、9人以下で「採用の予定はない」が37.5%、10人～29人以下で「男性を積極的に採用したい」が29.4%と、それぞれ最も高くなっています。



2 事業所の男女共同参画状況について

問5 貴事業所において、次の各項目の状況はどの程度だと思いますか。(単数回答)

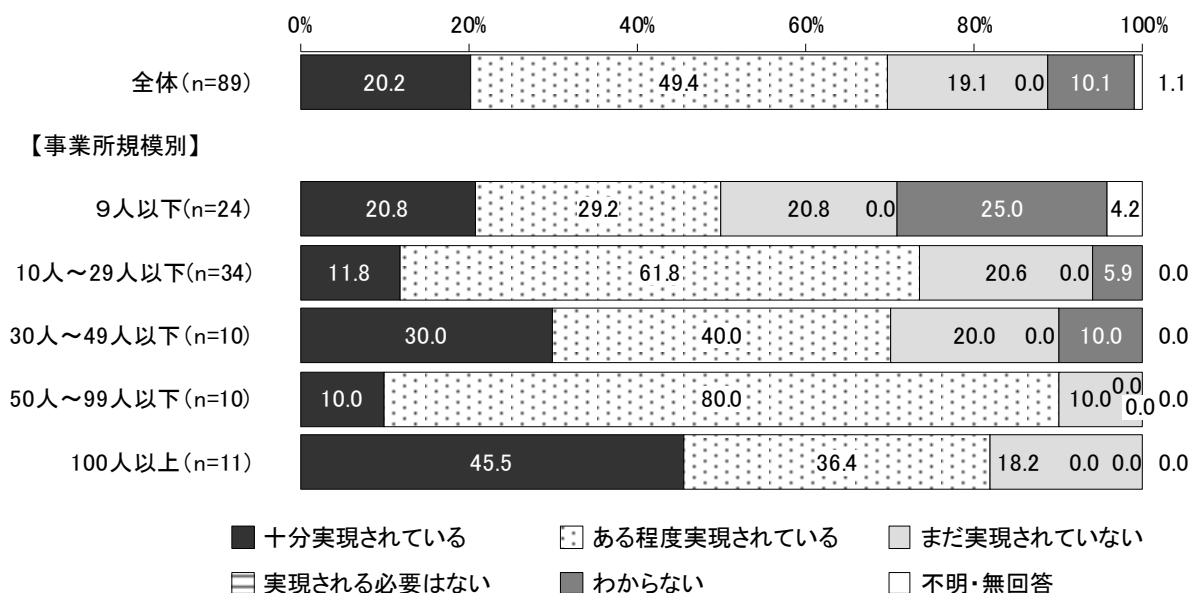
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『実現されている』…「十分実現されている」と「ある程度実現されている」を合算

■① 募集・採用において男女格差がないこと

募集・採用において男女格差がないことは、全体で『実現されている』が 69.6%、「まだ実現されていない」が 19.1% 「実現される必要はない」が 0.0%となっています。

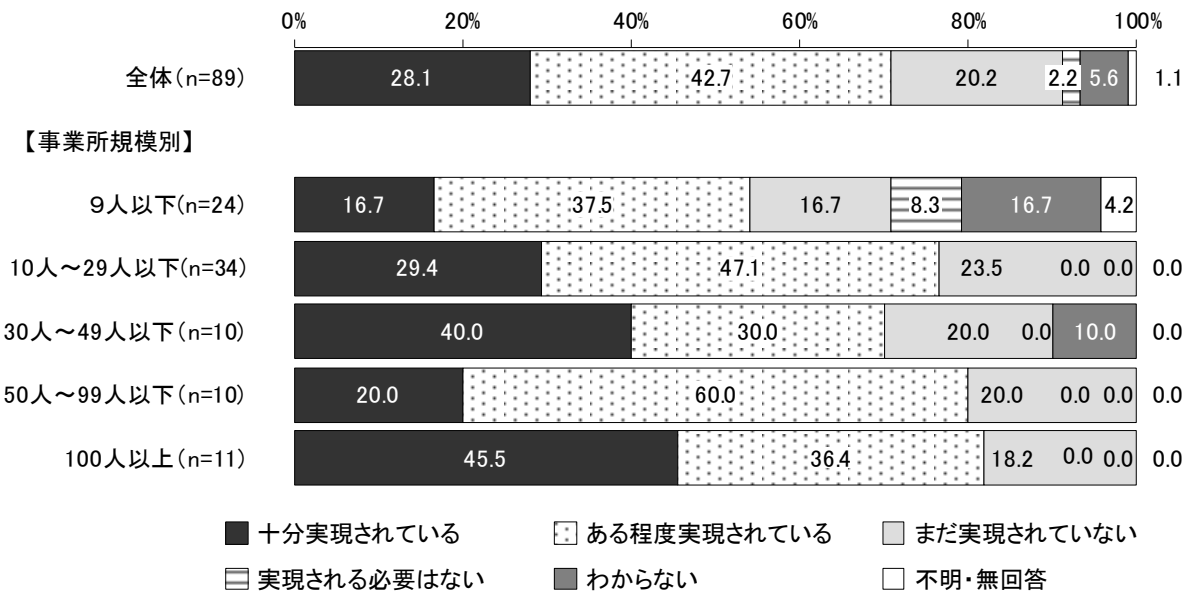
事業所規模別では、9人以下で『実現されている』が 50.0%と、10人以上と比べて低くなっています。



■② 賃金において男女格差がないこと

賃金において男女格差がないことは、全体で『実現されている』が70.8%、「まだ実現されていない」が20.2%「実現される必要はない」が2.2%となっています。

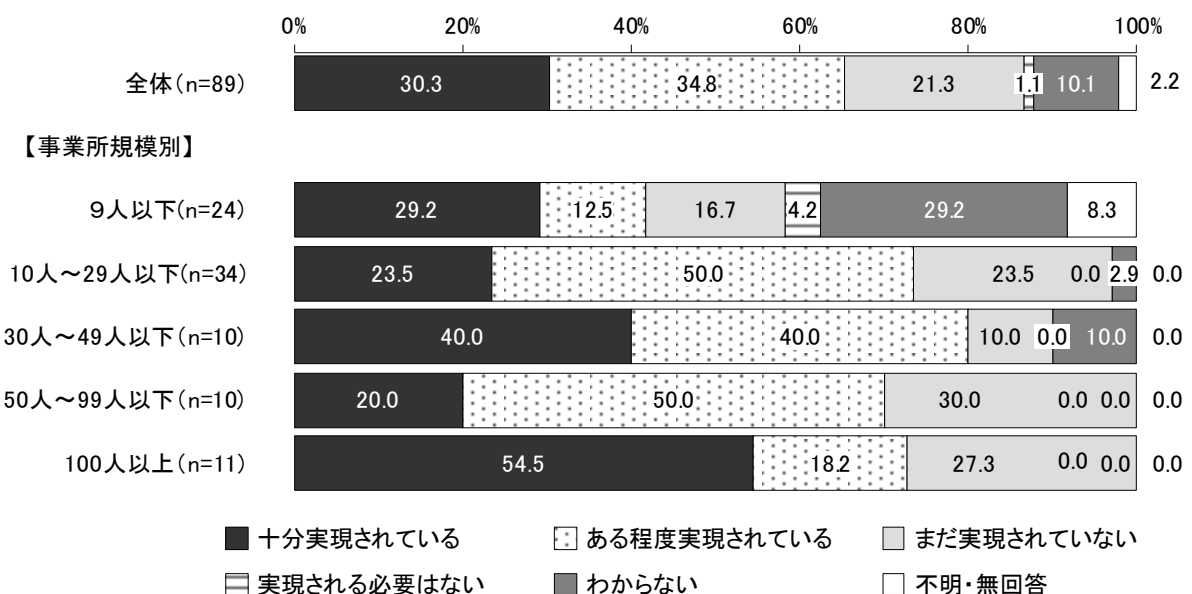
事業所規模別では、9人以下で『実現されている』が54.2%と、10人以上と比べて低くなっています。



■③ 配置・昇進・研修・教育訓練において男女格差がないこと

配置・昇進・研修・教育訓練において男女格差がないことは、全体で『実現されている』が65.1%、「まだ実現されていない」が21.3%「実現される必要はない」が1.1%となっています。

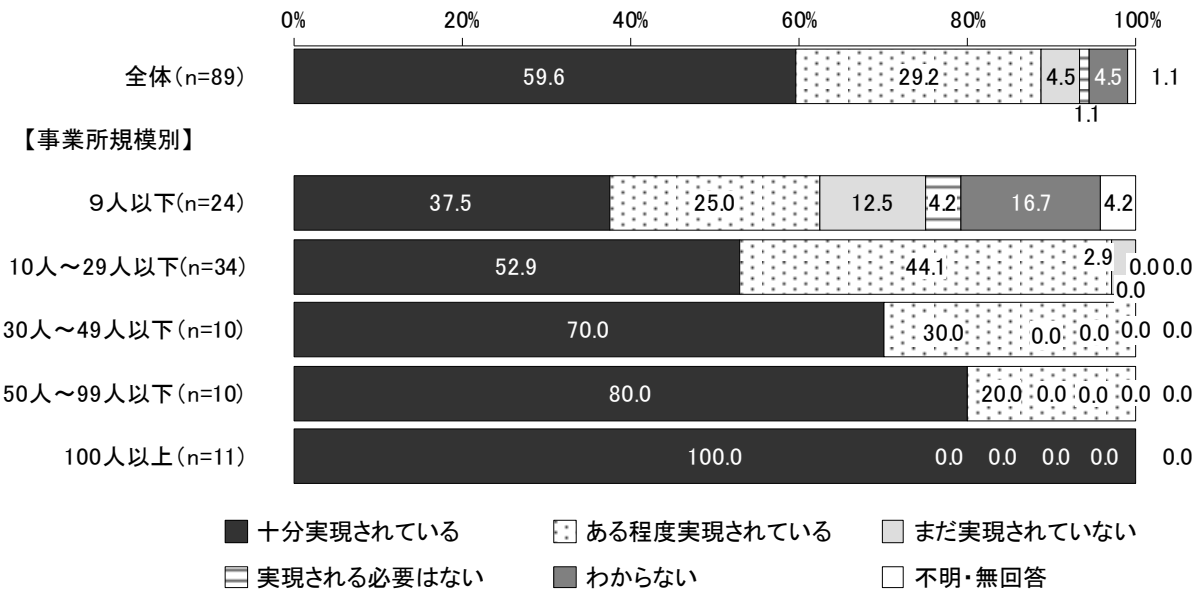
事業所規模別では、9人以下で『実現されている』が41.7%と、10人以上と比べて低くなっています。



■④ 定年・退職・解雇において男女格差がないこと

定年・退職・解雇において男女格差がないことは、全体で『実現されている』が 88.8%、「まだ実現されていない」が 4.5% 「実現される必要はない」が 1.1%となっています。

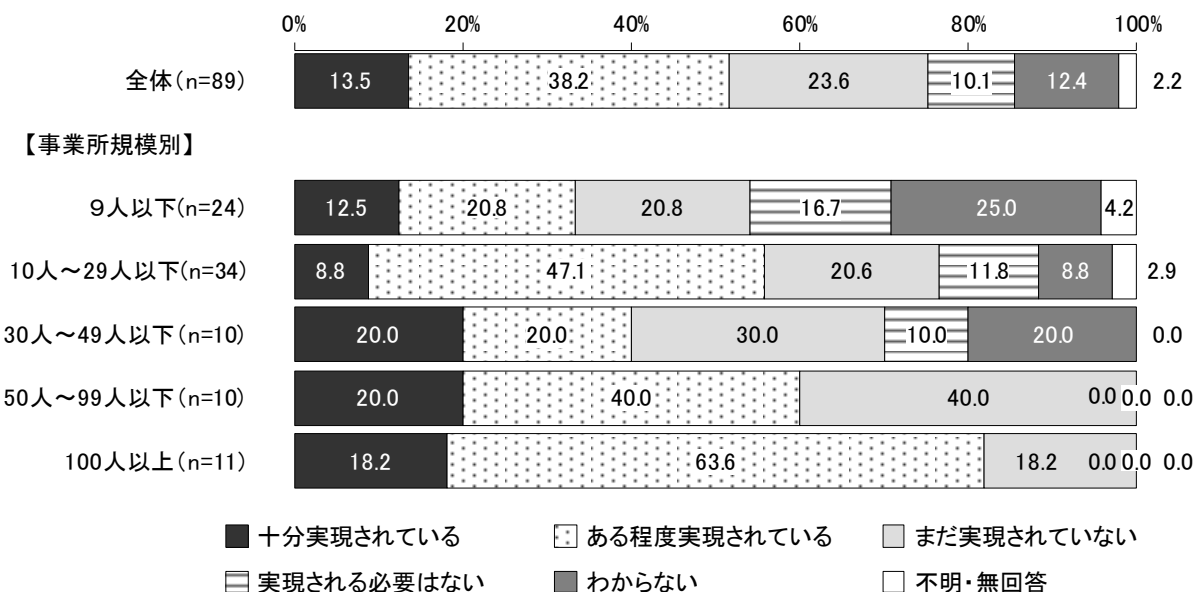
事業所規模別では、9人以下で『実現されている』が 62.5%と、10人以上と比べて低くなっています。



■⑤ 性別による仕事の分業がないこと

性別による仕事の分業がないことは、全体で『実現されている』が 51.7%、「まだ実現されていない」が 23.6% 「実現される必要はない」が 10.1%となっています。

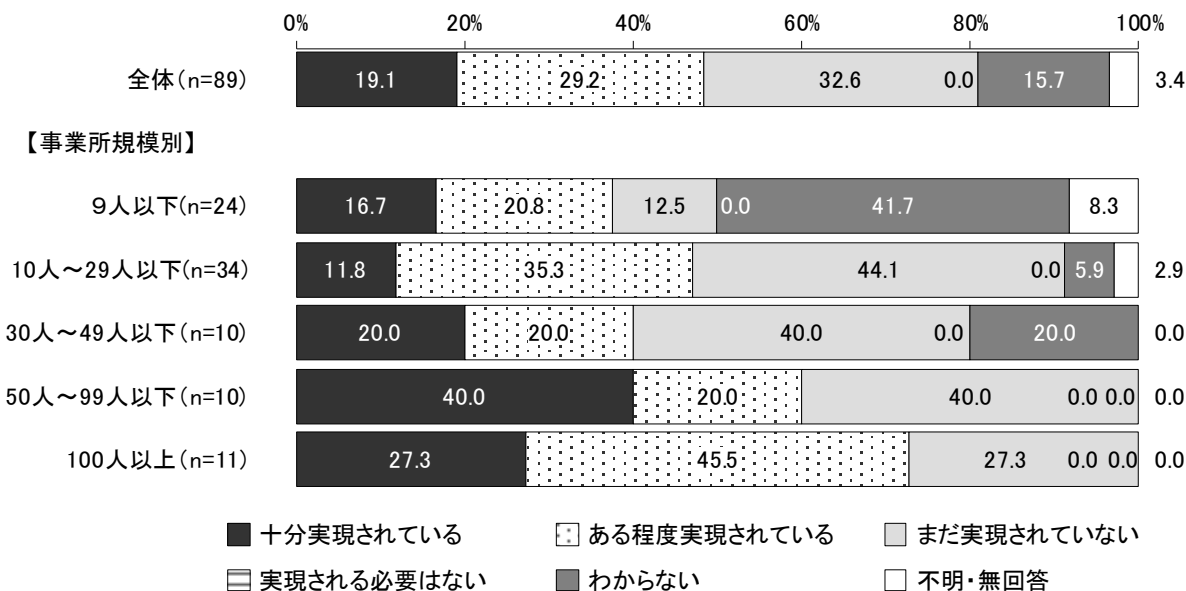
事業所規模別では、『実現されている』が9人以下で33.3%、30人～49人以下で40.0%と、その他の事業所規模と比べて低くなっています。



■⑥ 育児・介護休業制度が、女性に偏ることなく活用されていること

育児・介護休業制度が、女性に偏ることなく活用されていることは、全体で『実現されている』が48.3%、「まだ実現されていない」が32.6%「実現される必要はない」が0.0%となっています。

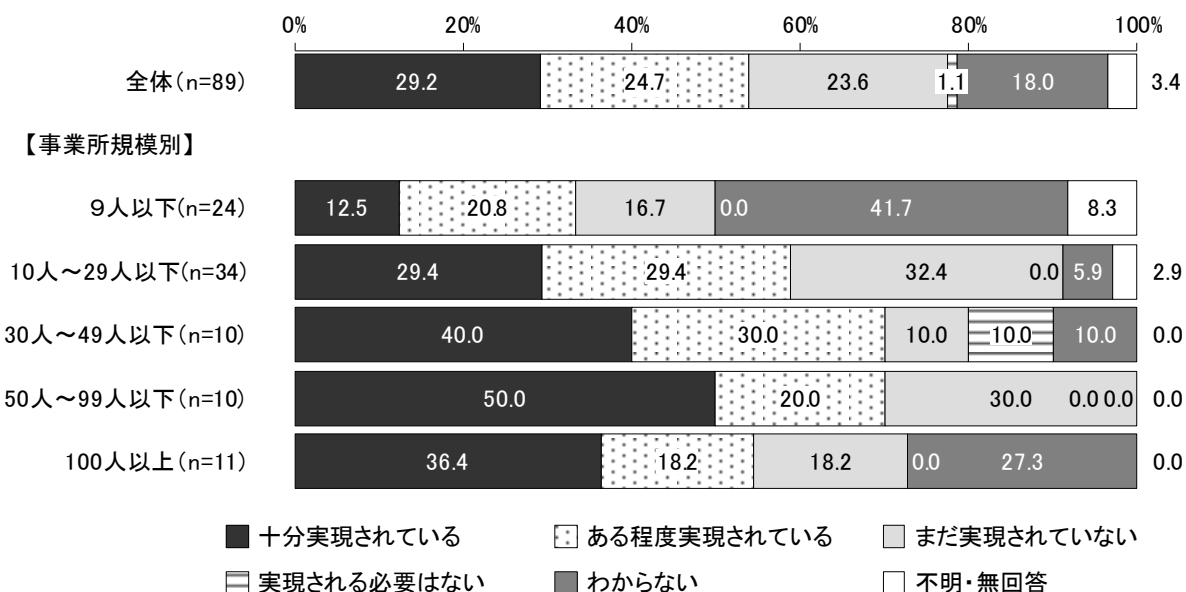
事業所規模別では、『実現されている』が9人以下で37.5%、30人～49人以下で40.0%と、その他の事業所規模と比べて低くなっています。



■⑦ 育児などでいったん退職した場合の再就職の機会があること

育児などでいったん退職した場合の再就職の機会があることは、全体で『実現されている』が53.9%、「まだ実現されていない」が23.6%「実現される必要はない」が1.1%となっています。

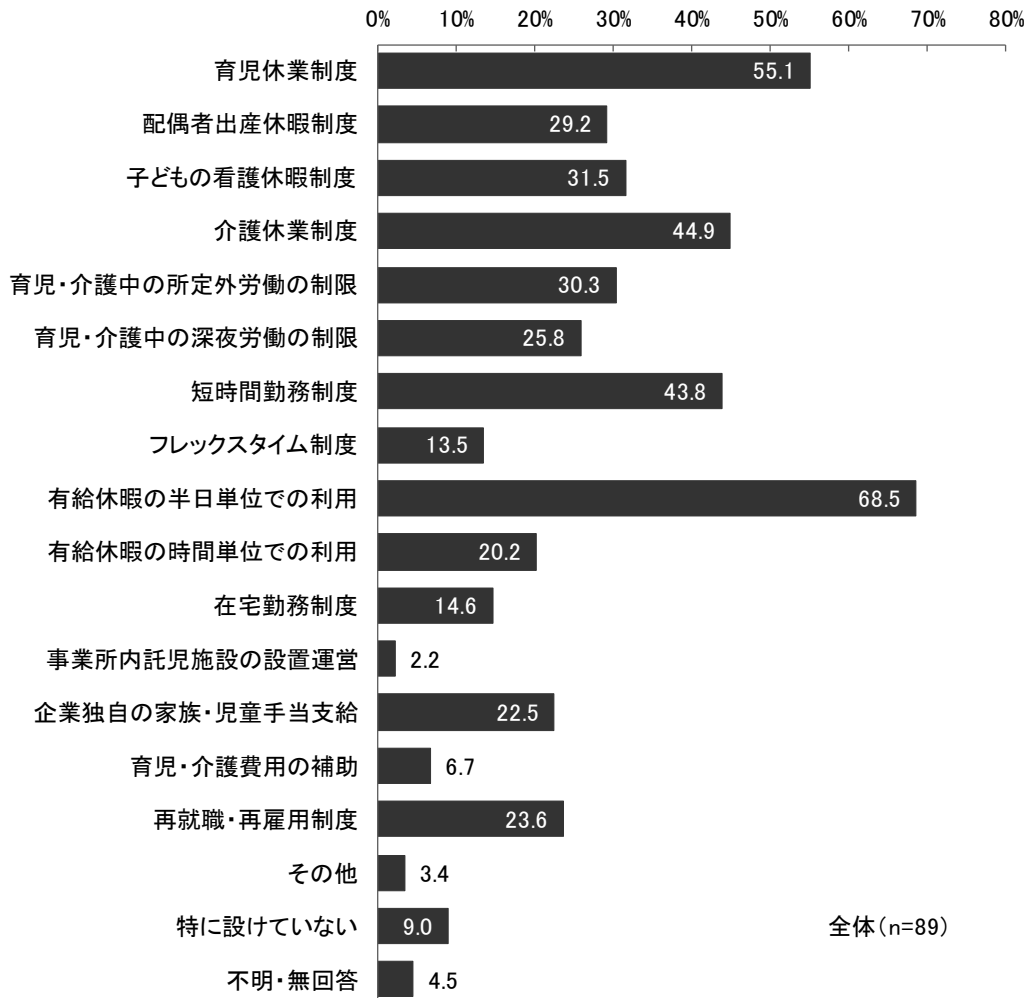
事業所規模別では、9人以下で『実現されている』が33.3%と、10人以上と比べて低くなっています。



3 育児や介護に関する制度について

問6 貴事業所では、育児や介護をしながら働いている従業員のために、次のような両立支援策を設けていますか。(複数回答)

育児や介護をしながら働いている従業員のために、設けている両立支援策は、「有給休暇の半日単位での利用」が68.5%と最も高く、次いで「育児休業制度」が55.1%となっています。



事業所規模別では、100人以上で「育児休業制度」「有給休暇の半日単位での利用」が100%となっている一方で、9人以下で「有給休暇の半日単位での利用」が29.2%と、10人以上と比べて低くなっています。

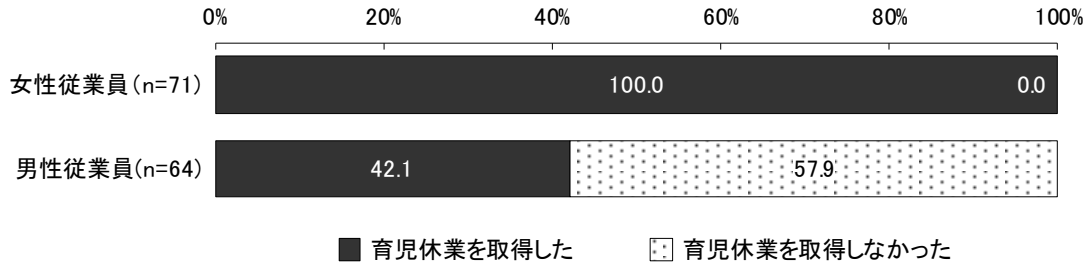
(単位:%)	n=	育児休業制度	配偶者出産休暇制度	子どもの看護休暇制度	介護休業制度	育児・介護中の所定外労働の制限	育児・介護中の深夜労働の制限	短時間勤務制度	フレックスタイム制度	有給休暇の半日単位での利用	有給休暇の時間単位での利用	在宅勤務制度
事業所規模別												
9人以下	24	20.8	20.8	20.8	16.7	12.5	8.3	37.5	12.5	29.2	12.5	12.5
10人～29人以下	34	55.9	14.7	14.7	47.1	14.7	14.7	29.4	8.8	79.4	23.5	5.9
30人～49人以下	10	70.0	30.0	40.0	50.0	40.0	30.0	50.0	10.0	80.0	10.0	30.0
50人～99人以下	10	70.0	40.0	40.0	50.0	50.0	30.0	60.0	10.0	80.0	30.0	10.0
100人以上	11	100.0	81.8	90.9	90.9	90.9	90.9	81.8	36.4	100.0	27.3	36.4

(単位:%)	n=	事業所内託児施設の設置運営	企業独自の家族・児童手当支給	育児・介護費用の補助	再就職・再雇用制度	その他	特に設けていない	不明・無回答
事業所規模別								
9人以下	24	8.3	12.5	0.0	8.3	8.3	20.8	12.5
10人～29人以下	34	0.0	17.6	5.9	32.4	2.9	8.8	2.9
30人～49人以下	10	0.0	30.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0
50人～99人以下	10	0.0	20.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0
100人以上	11	0.0	54.5	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問7 令和3年度の1年間の育児休業取得率

令和3年度の1年間に出産した女性従業員は100%が育児休業を取得していますが、配偶者が出産して育児休業を取得した男性従業員は42.1%となっています。



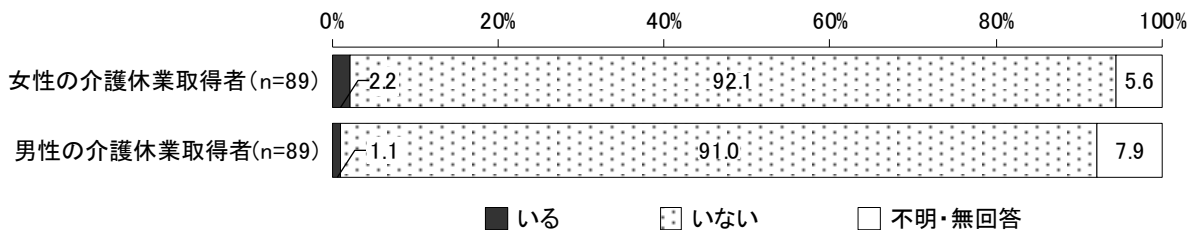
※女性従業員について、「出産した女性従業員のうち育児休業を取得した女性従業員数」と「出産した女性従業員数」の整合を取り、算出しました。

$$\text{※女性従業員の育児休業取得率(\%)} = \frac{\text{出産した女性従業員のうち育児休業を取得した女性従業員数}}{\text{回答のあった企業(n=71)中で出産した女性従業員数}} \times 100$$

$$\text{※男性従業員の育児休業取得率(\%)} = \frac{\text{配偶者が出産した男性従業員のうち育児休業を取得した男性従業員数}}{\text{回答のあった企業(n=64)中で配偶者が出産した男性従業員数}} \times 100$$

問8 令和3年度の1年間に、介護休業を取得した従業員はいましたか。(単数回答)

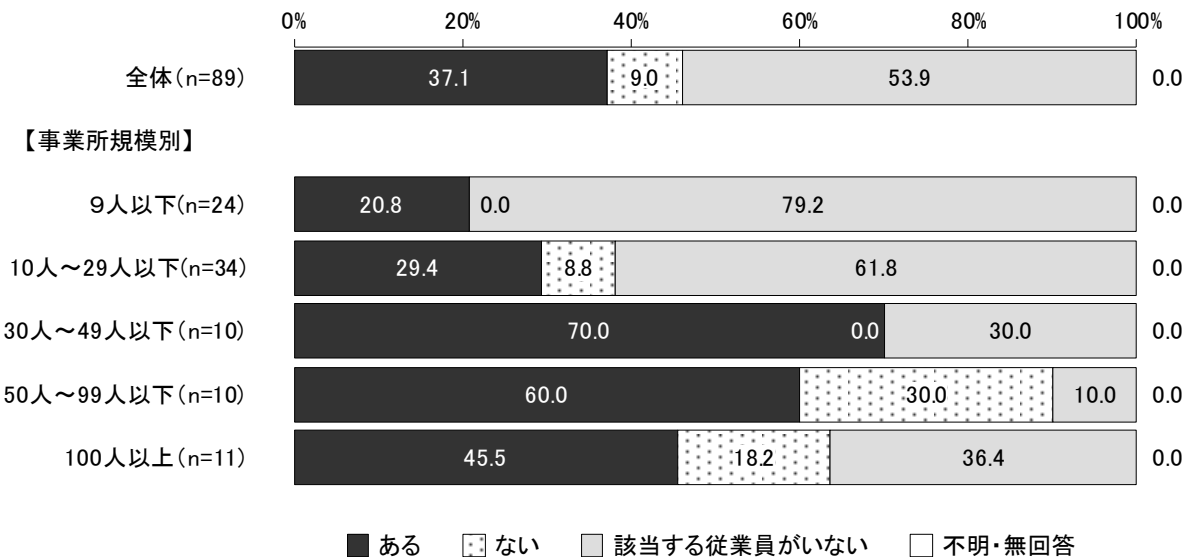
令和3年度の1年間に介護休業を取得した従業員は、「いる」が女性で2.2%、男性で1.1%となっています。



問9 妊娠・出産、育児で退職した従業員について、再雇用する制度はありますか。(制度はなくても慣例で行っている場合も含まます) (単数回答)

妊娠・出産、育児で退職した従業員について、再雇用する制度の有無は、「ある」が 37.1%、「ない」が 9.0%、「該当する従業員がいない」が 53.9%となっています。

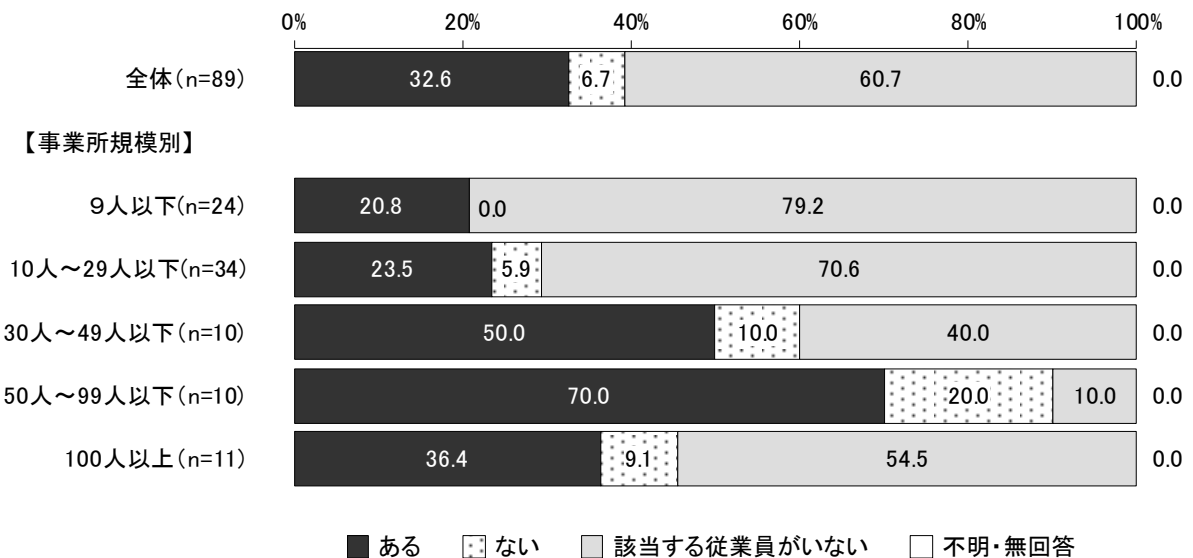
事業所規模別では、「ない」が 10 人～29 人以下で 8.8%、50 人～99 人以下で 30.0%、100 人以上で 18.2%となっています。



問10 介護で退職した従業員について、再雇用する制度はありますか。(制度はなくても慣例で行っている場合も含まます) (単数回答)

介護で退職した従業員について、再雇用する制度の有無は、「ある」が 32.6%、「ない」が 6.7%、「該当する従業員がいない」が 60.7%となっています。

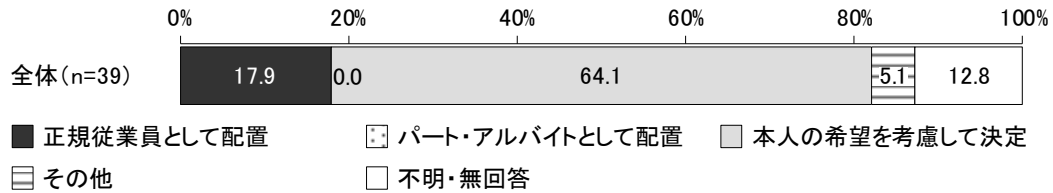
事業所規模別では、「ない」が 10 人～29 人以下で 5.9%、30 人以上でそれぞれ約 1～2 割となっています。



問9、問10のいずれかで「1. ある」と回答した事業者の方のみ

問11 再雇用した場合の配置はどのようになりますか。(単数回答)

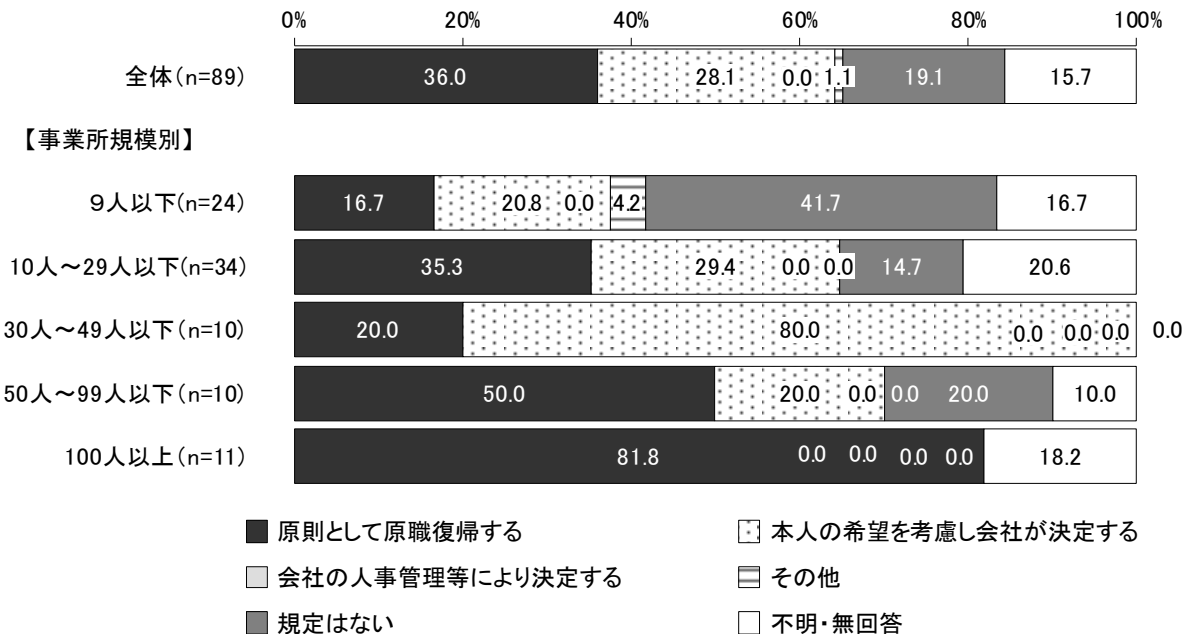
再雇用した場合の配置は、「本人の希望を考慮して決定」が64.1%と最も高く、次いで「正規従業員として配置」が17.9%となっています。



問12 育児休業を終えて職場に復帰した従業員の配置について、就業規則等ではどのように規定されていますか。(複数回答)

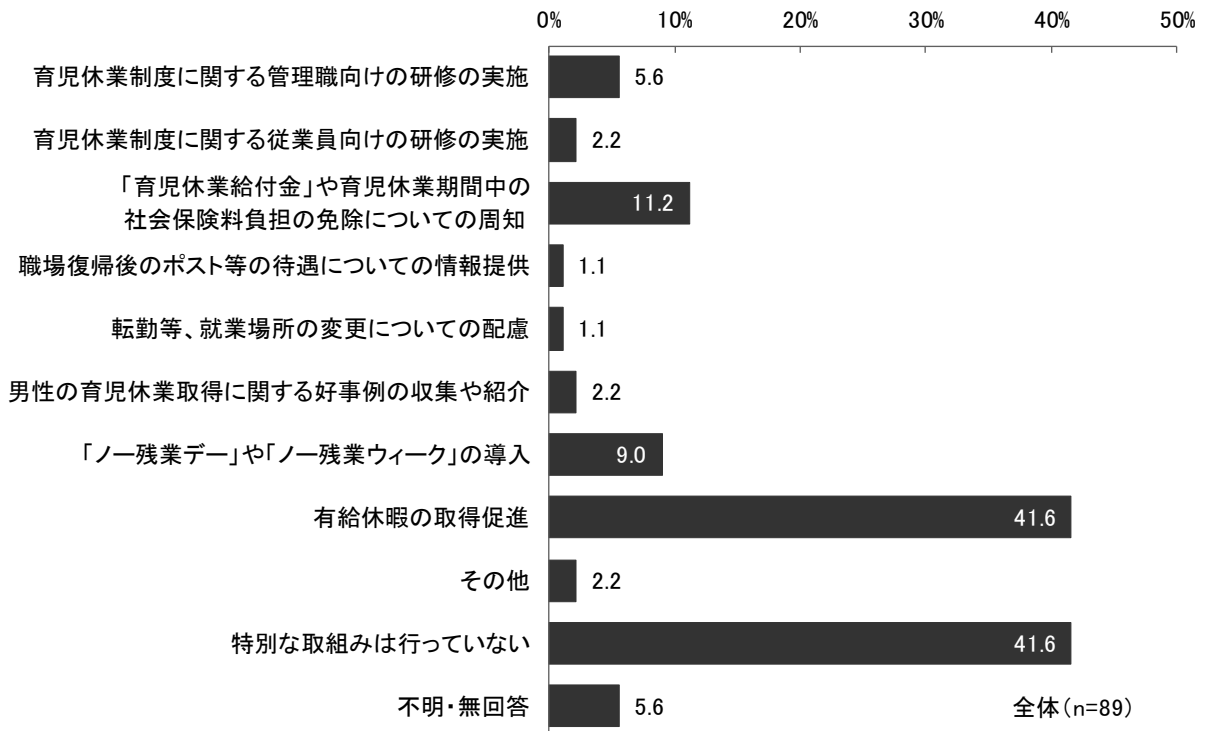
育児休業を終えて職場に復帰した従業員の配置について、就業規則等での規定は、「原則として原職復帰する」が36.0%と最も高く、次いで「本人の希望を考慮し会社が決定する」が28.1%となっています。

事業所規模別では、「原則として原職復帰する」が9人以下で16.7%、30人～49人以下で20.0%と、他の事業所規模と比べて低くなっています。



問13 貴事業所では、男性従業員の育児休業取得など、育児参加を促すために、どのような取組みを行っていますか。(複数回答)

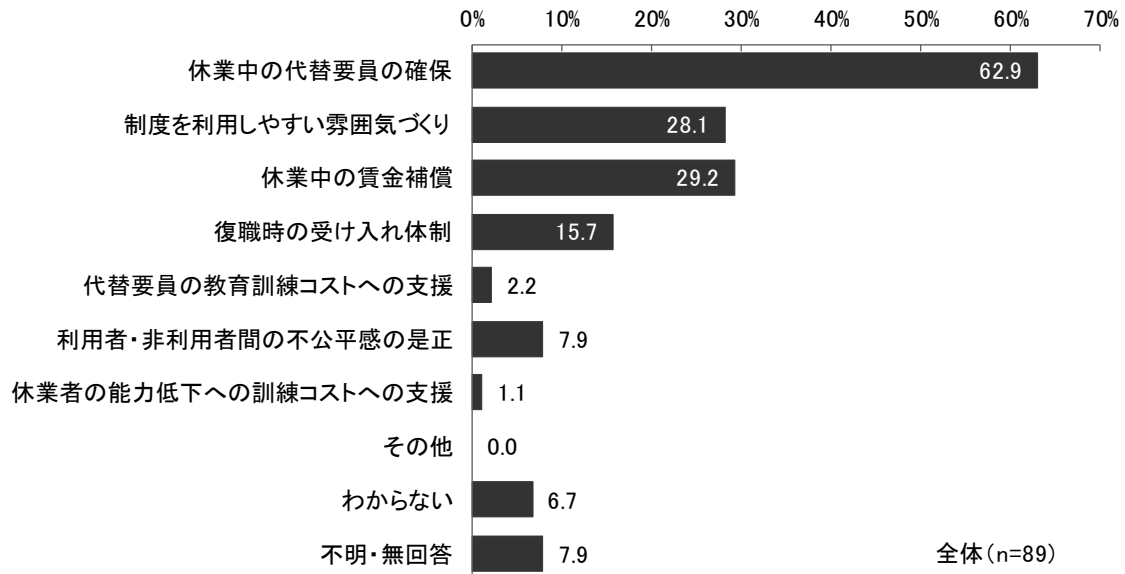
男性従業員の育児休業取得など、育児参加を促すために行っている取組は、「有給休暇の取得促進」「特別な取組みは行っていない」がそれぞれ41.6%と最も高く、次いで「「育児休業給付金」や育児休業期間中の社会保険料負担の免除についての周知」が11.2%となっています。



問 14 貴事業所において、育児・介護休業制度を定着させるために特に必要だと思われることは何ですか。(複数回答)

育児・介護休業制度を定着させるために特に必要だと思われることは、「休業中の代替要員の確保」が62.9%と最も高く、次いで「休業中の賃金補償」が29.2%となっています。

事業所規模別では、事業所規模に関わらず、「休業中の代替要員の確保」がそれぞれ最も高くなっています。また、100人以上で「制度を利用しやすい雰囲気づくり」が63.6%と、他の事業所規模と比べて高くなっています。



(単位: %)	n=	休業中の代替要員の確保	制度を利用しやすい雰囲気づくり	休業中の賃金補償	復職時の受け入れ体制	代替要員の教育訓練コストへの支援	利用者・非利用者間の不公平感の是正	休業者の能力低下への訓練コストへの支援	その他	わからない	不明・無回答
事業所規模別											
9人以下	24	41.7	16.7	29.2	12.5	0.0	8.3	4.2	0.0	16.7	12.5
10人~29人以下	34	67.6	23.5	32.4	11.8	5.9	2.9	0.0	0.0	0.0	11.8
30人~49人以下	10	60.0	40.0	20.0	10.0	0.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0
50人~99人以下	10	80.0	20.0	40.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
100人以上	11	81.8	63.6	18.2	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0

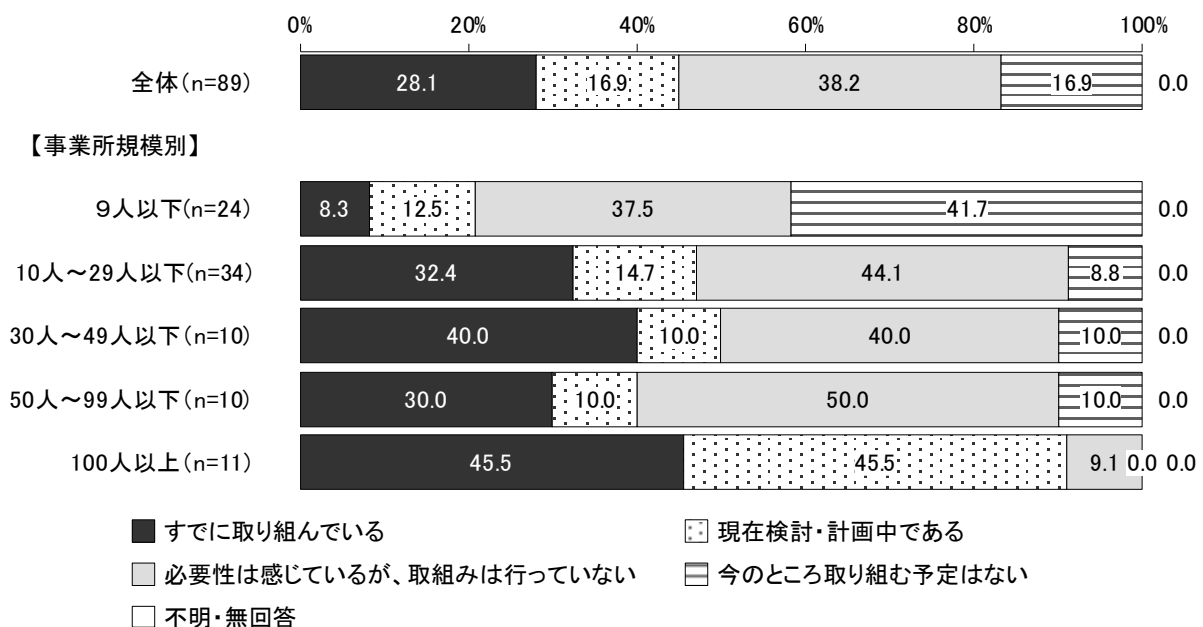
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

4 ワーク・ライフ・バランスについて

問15 貴事業所では、従業員の「ワーク・ライフ・バランス」を支援する取組みを行っていますか。(単数回答)

従業員の「ワーク・ライフ・バランス」を支援する取組みを行っているかは、「必要性は感じているが、取組みは行っていない」が38.2%と最も高く、次いで「すでに取り組んでいる」が28.1%となっています。

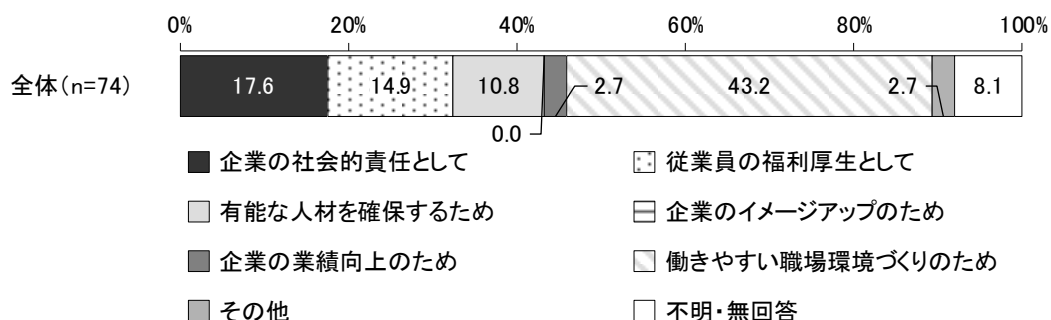
事業所規模別では、9人以下で「すでに取り組んでいる」が8.3%と、10人以上と比べて低くなっています。また、99人以下で「必要性は感じているが、取組みは行っていない」が約4～5割と高くなっています。



問15で「1. すでに取り組んでいる」「2. 現在検討・計画中である」「3. 必要性は感じているが、取組みは行っていない」と回答した事業者の方のみ

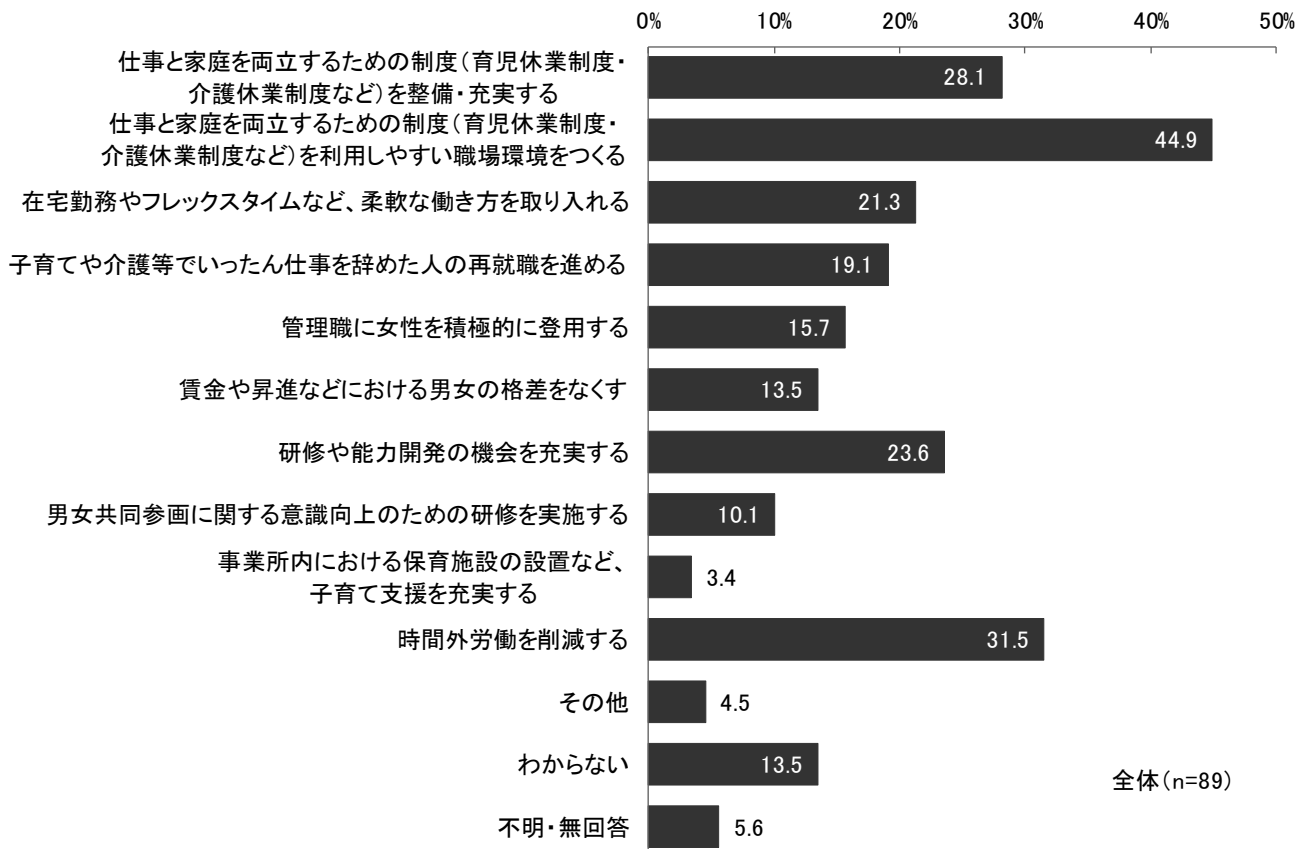
問16 企業が、従業員の「ワーク・ライフ・バランス」を支援する目的について、貴事業所ではどのようにお考えですか。(単数回答)

従業員の「ワーク・ライフ・バランス」を支援する目的についての事業所の考えは、「働きやすい職場環境づくりのため」が43.2%と最も高く、次いで「企業の社会的責任として」が17.6%となっています。



問17 従業員の「ワーク・ライフ・バランス」の実現のために、貴事業所として特に取り組むべきであると思うことはどのようなことですか。(複数回答)

従業員の「ワーク・ライフ・バランス」の実現のために、事業所として特に取り組むべきことは、「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」が44.9%と最も高く、次いで「時間外労働を削減する」が31.5%となっています。



事業所規模別では、10人以上で「仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる」「時間外労働を削減する」が上位となっています。

(単位:%)	n=	仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を整備・充実する	仕事と家庭を両立するための制度（育児休業制度・介護休業制度など）を利用しやすい職場環境をつくる	在宅勤務やフレックスタイムなど、柔軟な働き方を取り入れる	子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を進める	管理職に女性を積極的に登用する	賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす	研修や能力開発の機会を充実する	男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する	事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する	時間外労働を削減する	その他
事業所規模別												
9人以下	24	16.7	25.0	25.0	12.5	8.3	12.5	4.2	4.2	4.2	12.5	0.0
10人～29人以下	34	38.2	47.1	23.5	20.6	8.8	17.6	32.4	14.7	0.0	44.1	2.9
30人～49人以下	10	30.0	30.0	10.0	30.0	30.0	20.0	40.0	10.0	0.0	30.0	20.0
50人～99人以下	10	10.0	70.0	10.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	10.0	20.0	0.0
100人以上	11	36.4	72.7	27.3	18.2	36.4	9.1	27.3	18.2	9.1	45.5	9.1

(単位:%)	n=	わからない	不明・無回答
事業所規模別			
9人以下	24	29.2	8.3
10人～29人以下	34	2.9	5.9
30人～49人以下	10	30.0	10.0
50人～99人以下	10	10.0	0.0
100人以上	11	0.0	0.0

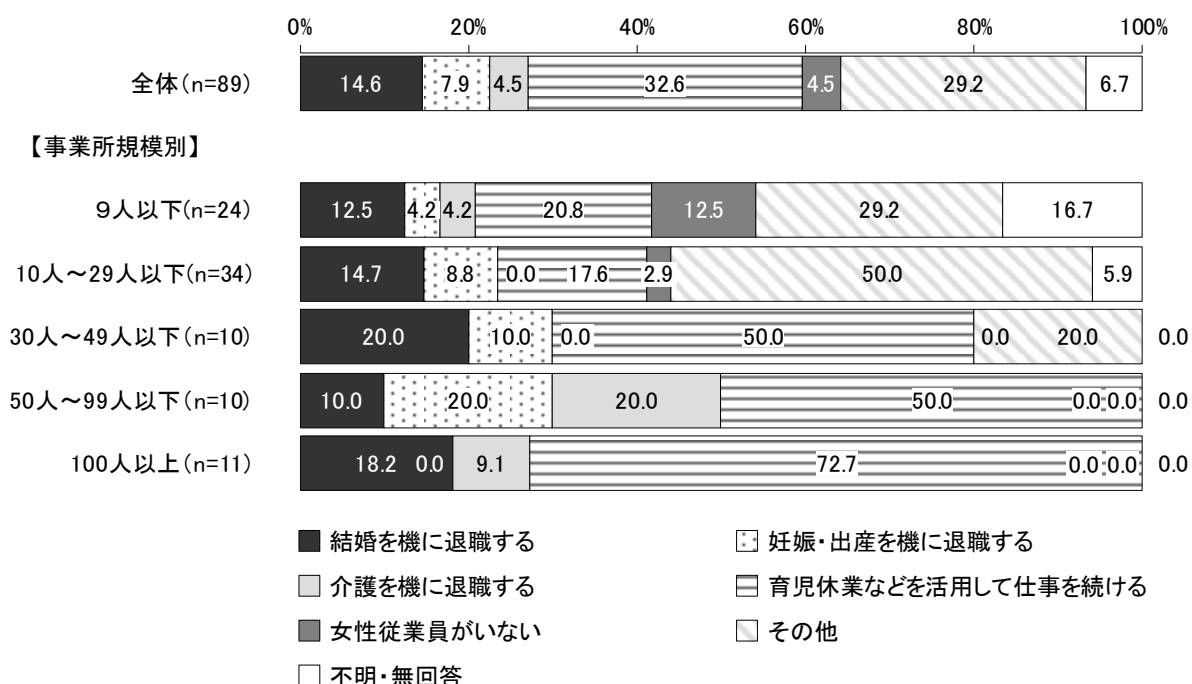
※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

5 女性の活躍について

問 18 貴事業所の女性従業員は、どのような働き方が多いですか。(単数回答)

女性従業員の働き方は、「育児休業などを活用して仕事を続ける」が 32.6%と最も高く、次いで「その他」が 29.2%となっています。なお、「結婚を機に退職する」「妊娠・出産を機に退職する」「介護を機に退職する」は合わせて 27.0%となっています。

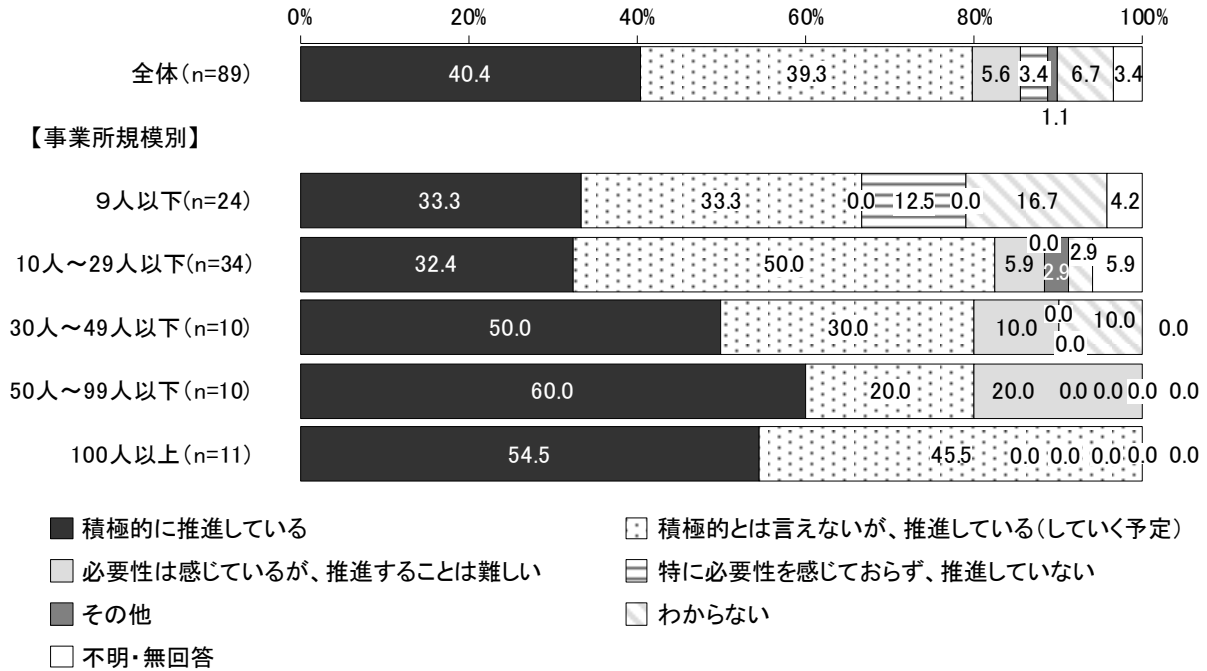
事業所規模別では、30人以上で「育児休業などを活用して仕事を続ける」が 50.0%以上となっています。



問 19 貴事業所では、女性の職場での活躍についてどのようにお考えですか。(単数回答)

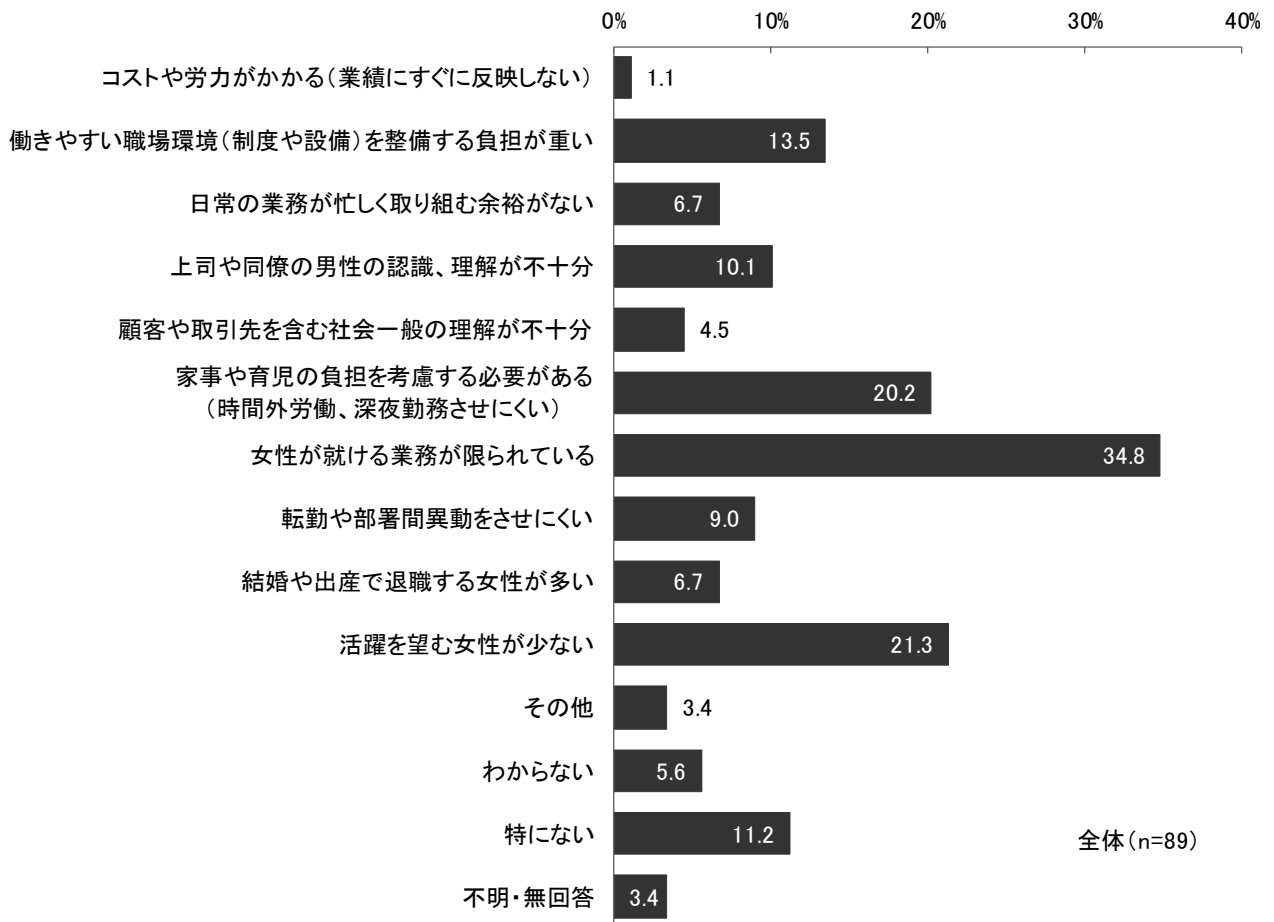
当事業所における女性の職場での活躍については、「積極的に推進している」が40.4%と最も高く、次いで「積極的とは言えないが、推進している(していく予定)」が39.3%となっています。

事業所規模別では、9人以下で「特に必要性を感じておらず、推進していない」が12.5%と、10人以上と比べて高くなっています。



問 20 貴事業所では、女性の活躍を推進するうえで、どのような課題がありますか。(複数回答)

女性の活躍を推進するうえでの課題は、「女性が就ける業務が限られている」が34.8%と最も高く、次いで「活躍を望む女性が少ない」が21.3%となっています。



事業所規模別では、99人以下で「女性が就ける業務が限られている」が3割以上と高くなっています。

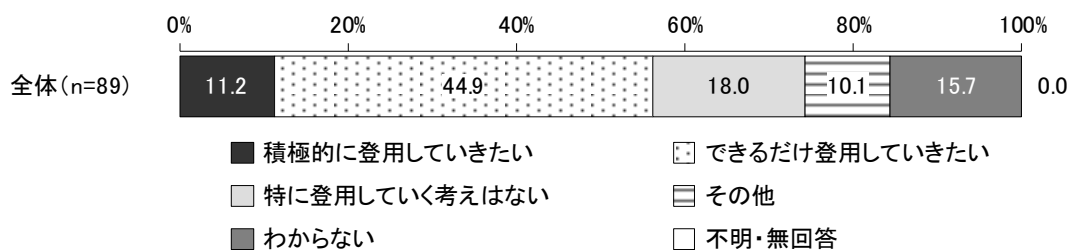
(単位: %)		コストや労力がかかる(業績にすぐに反映しない)	働きやすい職場環境(制度や設備)を整備する負担が重い	日常の業務が忙しく取り組む余裕がない	上司や同僚の男性の認識、理解が不十分	顧客や取引先を含む社会一般の理解が不十分	家事や育児の負担を考慮する必要がある(時間外労働、深夜勤務させにくい)	女性が就ける業務が限られている	転勤や部署間異動をさせにくい	結婚や出産で退職する女性が多い	活躍を望む女性が少ない	その他
	n=											
事業所規模別												
9人以下	24	0.0	12.5	8.3	0.0	4.2	4.2	37.5	4.2	8.3	16.7	4.2
10人~29人以下	34	0.0	8.8	8.8	2.9	2.9	26.5	35.3	8.8	8.8	14.7	2.9
30人~49人以下	10	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	30.0	0.0	0.0	20.0	10.0
50人~99人以下	10	0.0	20.0	10.0	30.0	0.0	30.0	50.0	10.0	0.0	60.0	0.0
100人以上	11	9.1	36.4	0.0	27.3	9.1	36.4	18.2	27.3	9.1	18.2	0.0

(単位: %)		わからない	特にない	不明・無回答
	n=			
事業所規模別				
9人以下	24	16.7	12.5	0.0
10人~29人以下	34	2.9	8.8	5.9
30人~49人以下	10	0.0	20.0	10.0
50人~99人以下	10	0.0	0.0	0.0
100人以上	11	0.0	18.2	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

問 21 今後管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。(単数回答)

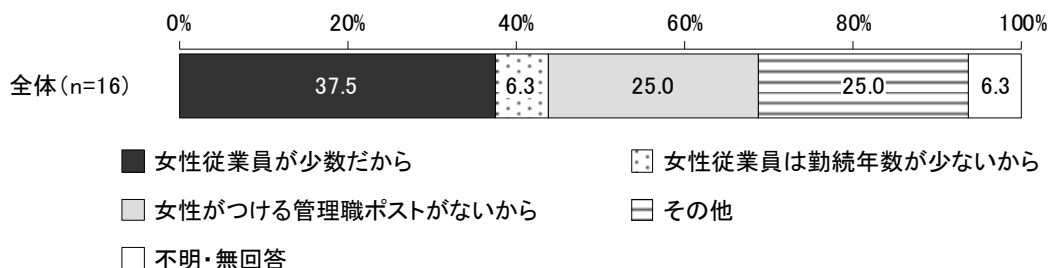
今後管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えているかは、「できるだけ登用していきたい」が44.9%、「特に増やしていく考えはない」が18.0%となっています。



問21で「3. 特に登用していく考えはない」と答えた事業者の方のみ

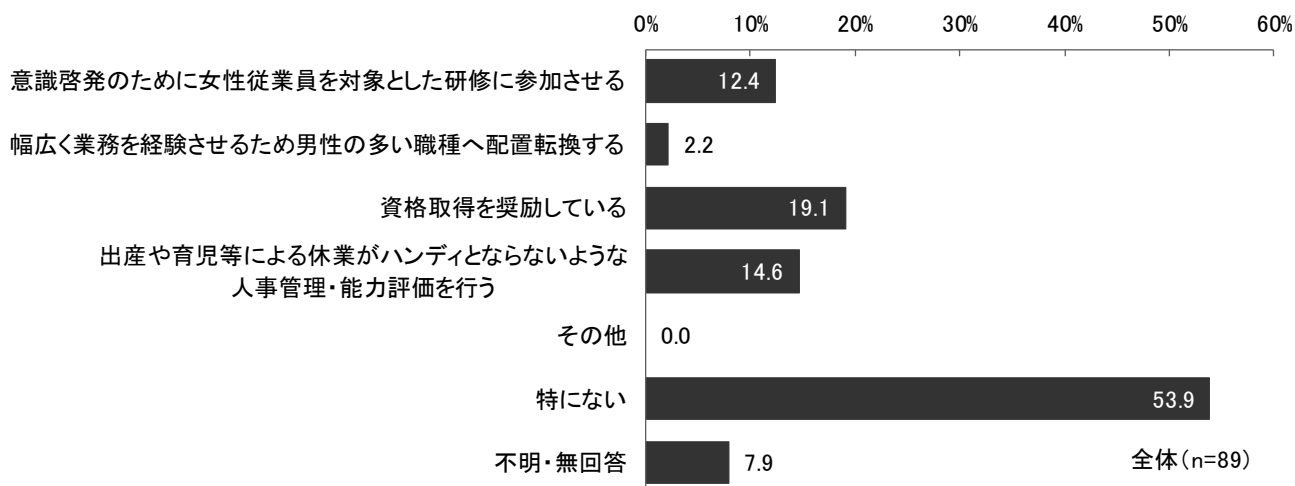
問22 その理由は何ですか。(単数回答)

特に増やしていく考えはない理由は、「女性従業員が少数だから」が37.5%と最も高く、次いで「女性がつける管理職ポストがないから」「その他」がそれぞれ25.0%となっています。



問23 女性の管理職の登用を促進するために取り組んでいることはありますか。(複数回答)

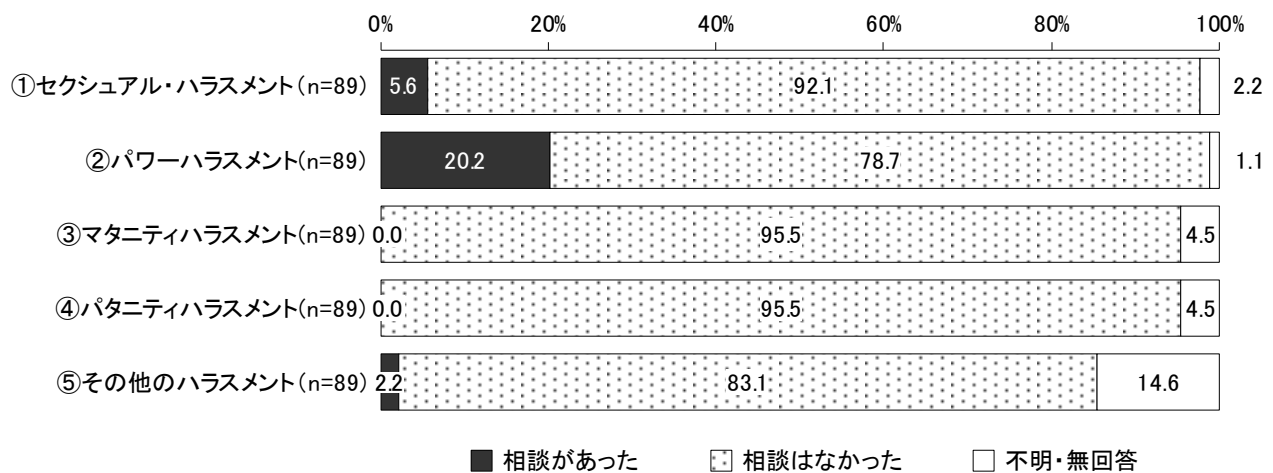
女性の管理職の登用を促進するために取り組んでいることは、「特にない」が53.9%と最も高く、次いで「資格取得を奨励している」が19.1%となっています。



6 ハラスメントについて

問 24 貴事業所では、最近3年間に、次の①から⑤までの項目について、従業員から相談等がありましたか。(単数回答)

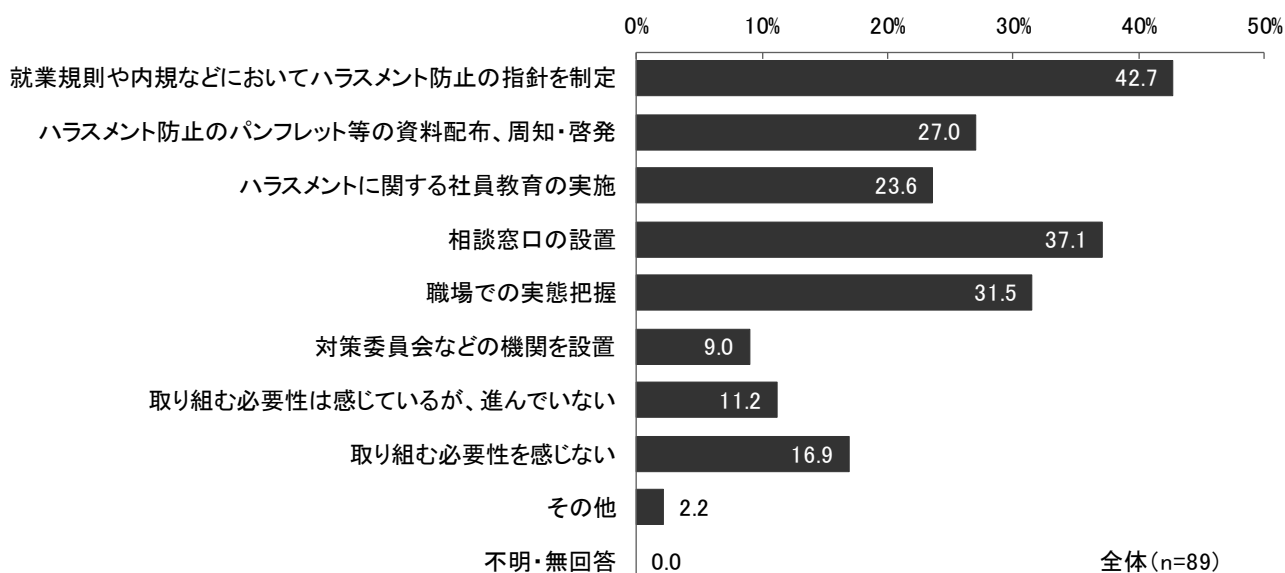
最近3年間に従業員からのハラスメントに関する相談等は、全体で「相談があった」が『セクシュアル・ハラスメント』で5.6%、『パワーハラスメント』で20.2%、『その他のハラスメント』で2.2%となっています。



問25 貴事業所では各種ハラスメントの防止に向けてどのような取組みを行ったり、行うことにしていますか。(複数回答)

各種ハラスメントの防止に向けての取組みは、「就業規則や内規などにおいてハラスメント防止の指針を制定」が42.7%と最も高く、次いで「相談窓口の設置」が37.1%となっています。

事業所規模別では、9人以下で「取り組む必要性を感じない」が41.7%と高くなっています。



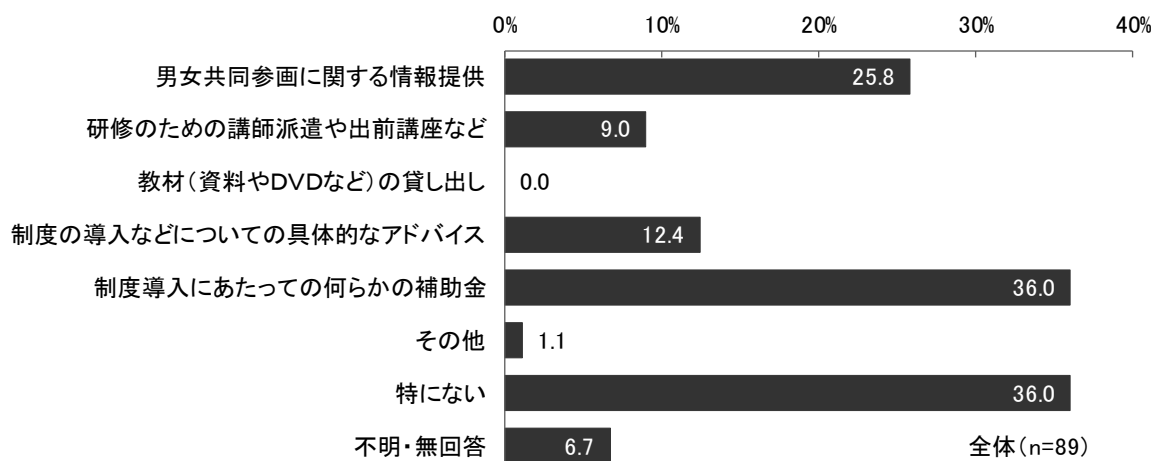
(単位: %)	n=	就業規則や内規などにおいてハラスメント防止の指針を制定	ハラスメント防止のパンフレット等の資料配布、周知・啓発	ハラスメントに関する社員教育の実施	相談窓口の設置	職場での実態把握	対策委員会などの機関を設置	取り組む必要性は感じているが、進んでいない	取り組む必要性を感じない	その他	不明・無回答
事業所規模別											
9人以下	24	20.8	0.0	4.2	8.3	20.8	0.0	16.7	41.7	4.2	0.0
10人~29人以下	34	26.5	20.6	14.7	23.5	35.3	2.9	11.8	14.7	2.9	0.0
30人~49人以下	10	40.0	60.0	60.0	70.0	40.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0
50人~99人以下	10	90.0	50.0	30.0	80.0	40.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0
100人以上	11	100.0	54.5	54.5	72.7	27.3	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0

※「不明・無回答」を除き、回答の高い項目第1位と第2位に網かけをしています。

7 男女共同参画の形成について

問 26 職場における男女共同参画を推進するために、土岐市に希望する支援にはどのようなものがありますか。(複数回答)

職場における男女共同参画を推進するために、土岐市に希望する支援は、全体で「制度導入にあたっての何らかの補助金」「特にない」がそれぞれ 36.0%、「男女共同参画に関する情報提供」が 25.8%となっています。

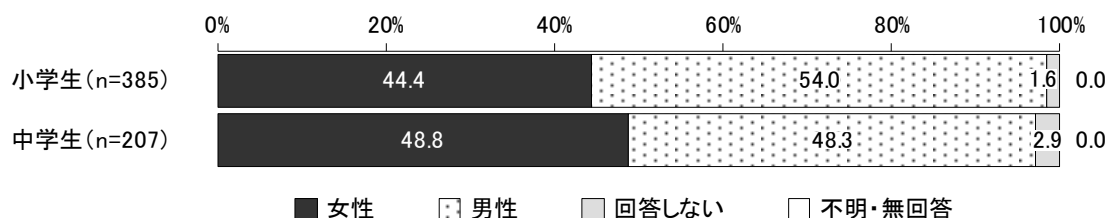


IV 小中学生調査結果

1 回答者の属性

問1 性別（単数回答） / 問2 学校（単数回答）

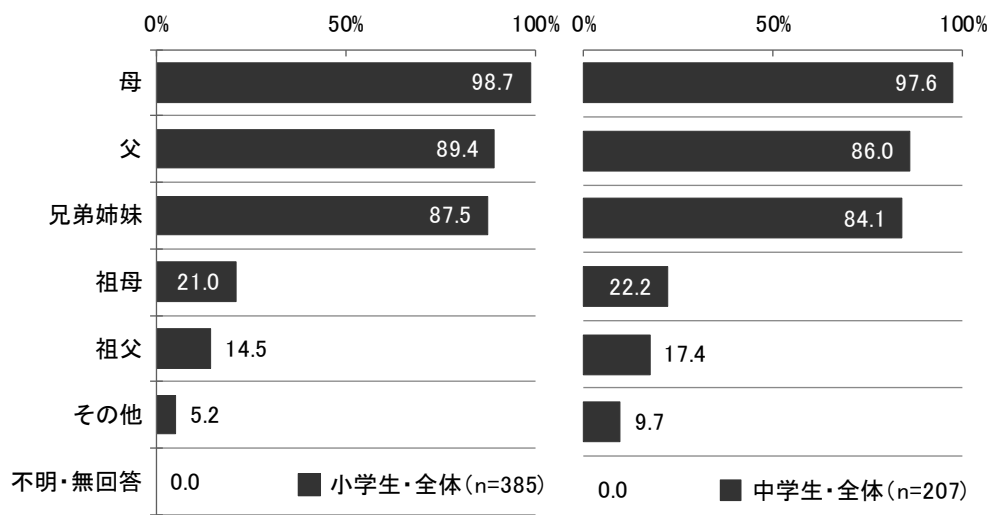
性別は、小学生で「女性」が44.4%、「男性」が54.0%、「回答しない」が1.6%となっています。中学生では「女性」が48.8%、「男性」が48.3%、「回答しない」が2.9%となっています。



2 家庭について

問3 あなたが同居している家族はだれですか。（複数回答）

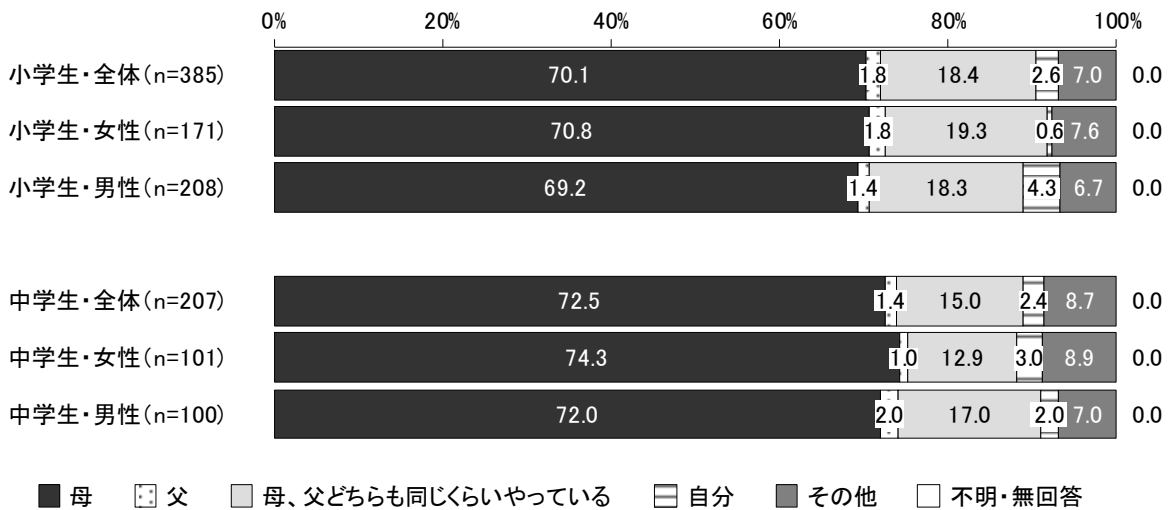
同居家族は、小学生・中学生ともに「母」がそれぞれ98%前後と最も高く、次いで「父」「兄弟姉妹」がそれぞれ8割台となっています。



問4 あなたの家は、次のことは主にだれが行っていますか。(単数回答)

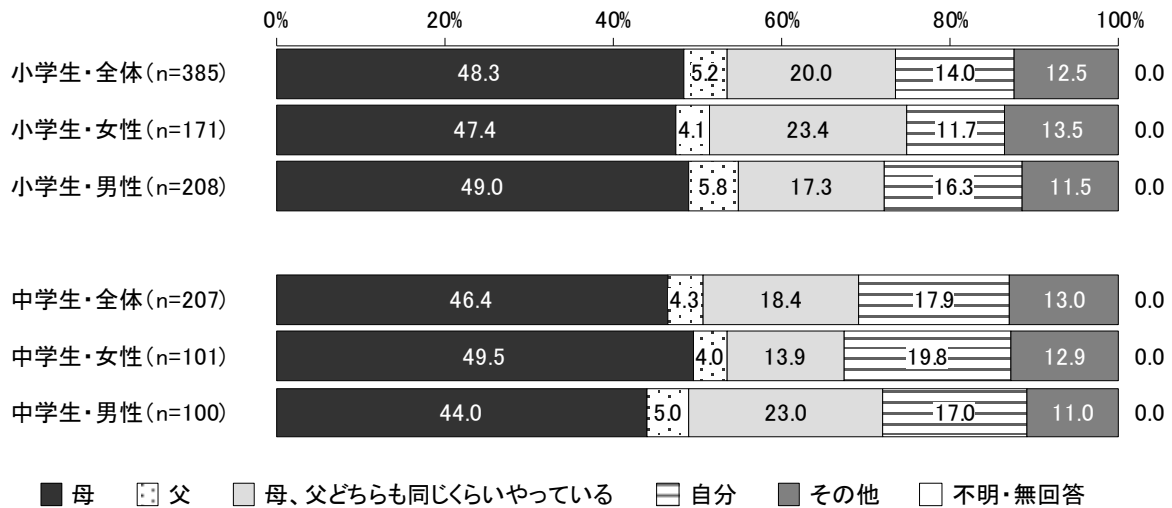
■A 食事のしたく

食事のしたくを主にする家族は、小学生・中学生の全体はともに「母」がそれぞれ約7割と最も高く、次いで「母、父どちらも同じくらいやっている」(それぞれ約2割)となっています。なお、「自分」が小学生・女性で0.6%、小学生・男性で4.3%、中学生・女性で3.0%、中学生・男性で2.0%となっています。



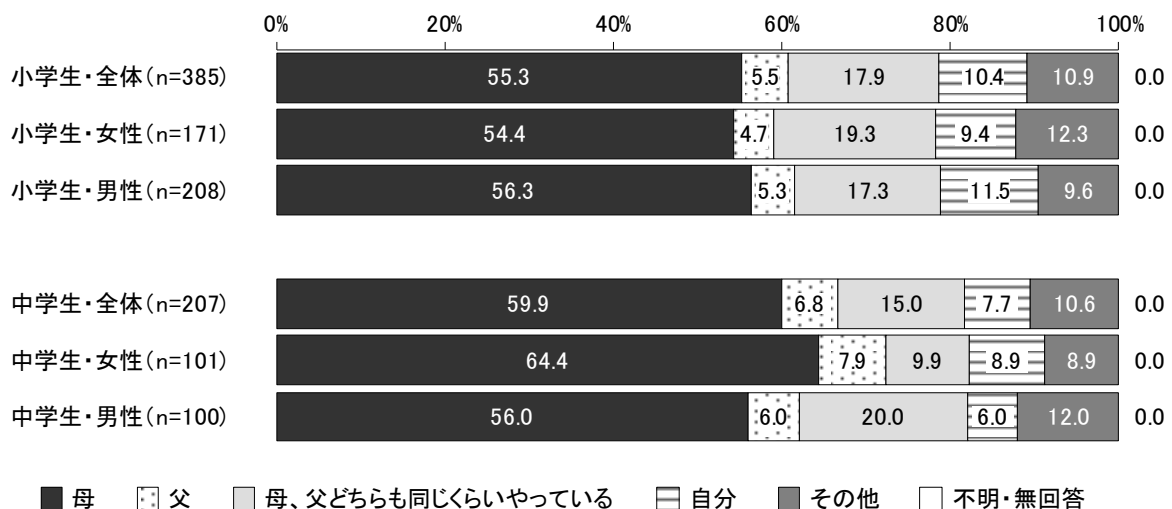
■B 食事の後かたづけ

食事の後かたづけを主にする家族は、小学生・中学生の全体はともに「母」がそれぞれ約5割と最も高く、次いで「母、父どちらも同じくらいやっている」が小学生で20.0%、中学生で18.4%となっています。なお、「自分」が小学生・女性で11.7%、小学生・男性で16.3%、中学生・女性で19.8%、中学生・男性で17.0%となっています。



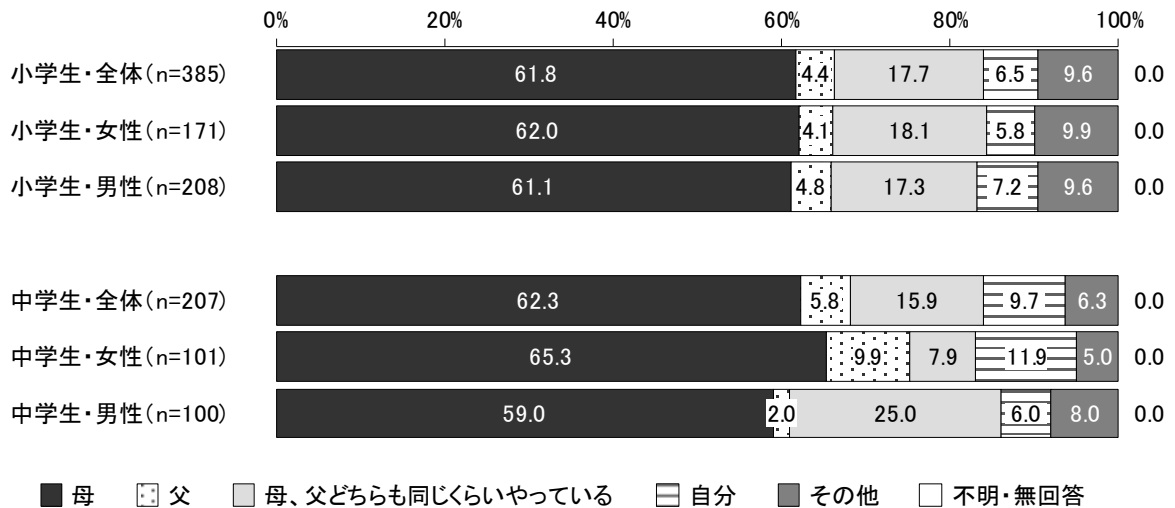
■C そうじ

そうじを主にする家族は、小学生・中学生の全体はともに「母」がそれぞれ約6割と最も高く、次いで「母、父どちらも同じくらいやっている」(それぞれ約2割)となっています。なお、「自分」が小学生・女性で9.4%、小学生・男性で11.5%、中学生・女性で8.9%、中学生・男性で6.0%となっています。



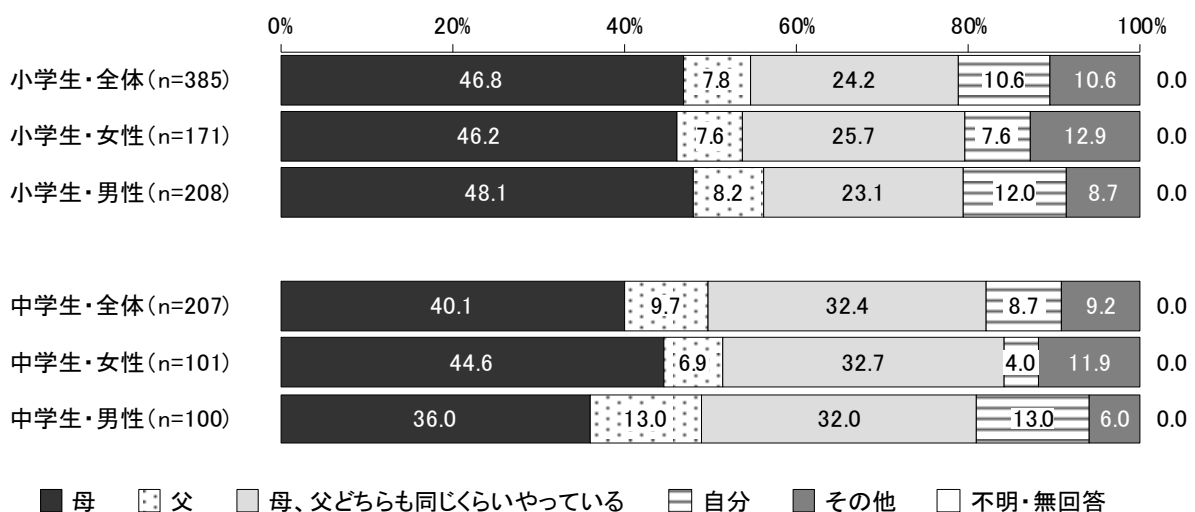
■D せんたく

せんたくを主にする家族は、小学生・中学生の全体はともに「母」がそれぞれ約6割と最も高く、次いで「母、父どちらも同じくらいやっている」（それぞれ約2割）となっています。なお、「自分」が小学生・女性で5.8%、小学生・男性で7.2%、中学生・女性で11.9%、中学生・男性で6.0%となっています。



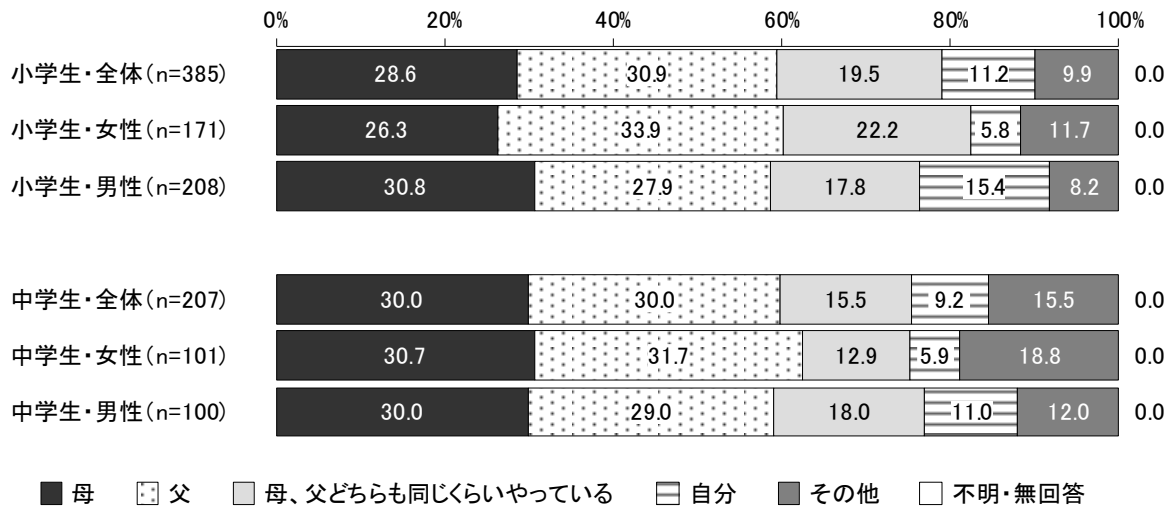
■E 子どもの宿題をみる、習いごとの送迎をする

子どもの宿題をみたり、習いごとの送迎をする主な家族は、小学生・中学生の全体はともに「母」がそれぞれ約4～5割と最も高く、次いで「母、父どちらも同じくらいやっている」（小学生は24.2%、中学生は32.4%）となっています。なお、「自分」が小学生・女性で7.6%、小学生・男性で12.0%、中学生・女性で4.0%、中学生・男性で13.0%となっています。



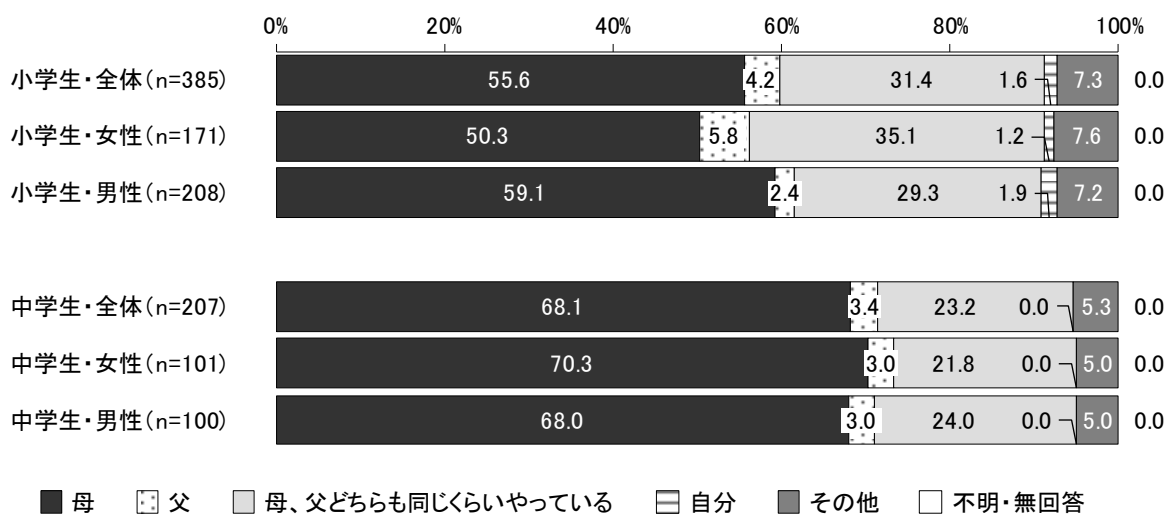
■F ごみを出す

ごみを出す主な家族は、小学生全体は「父」が30.9%と最も高く、次いで「母」が28.6%となっています。中学生全体は「父」「母」がそれぞれ30.0%となっています。なお、「自分」が小学生・女性で5.8%、小学生・男性で15.4%、中学生・女性で5.9%、中学生・男性で11.0%となっています。



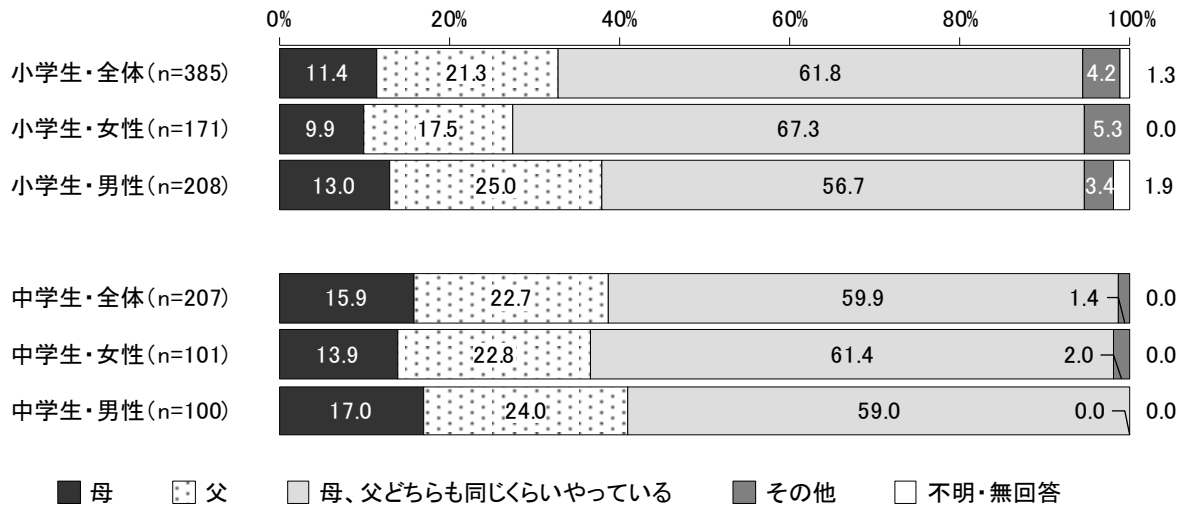
■G 買い物

買い物をする主な家族は、小学生・中学生の全体はともに「母」（小学生は55.6%、中学生は68.1%）が最も高く、次いで「母、父どちらも同じくらいやっている」（小学生は31.4%、中学生は23.2%）となっています。なお、「自分」が小学生・女性で1.2%、小学生・男性で1.9%、中学生では男女ともに0.0%となっています。



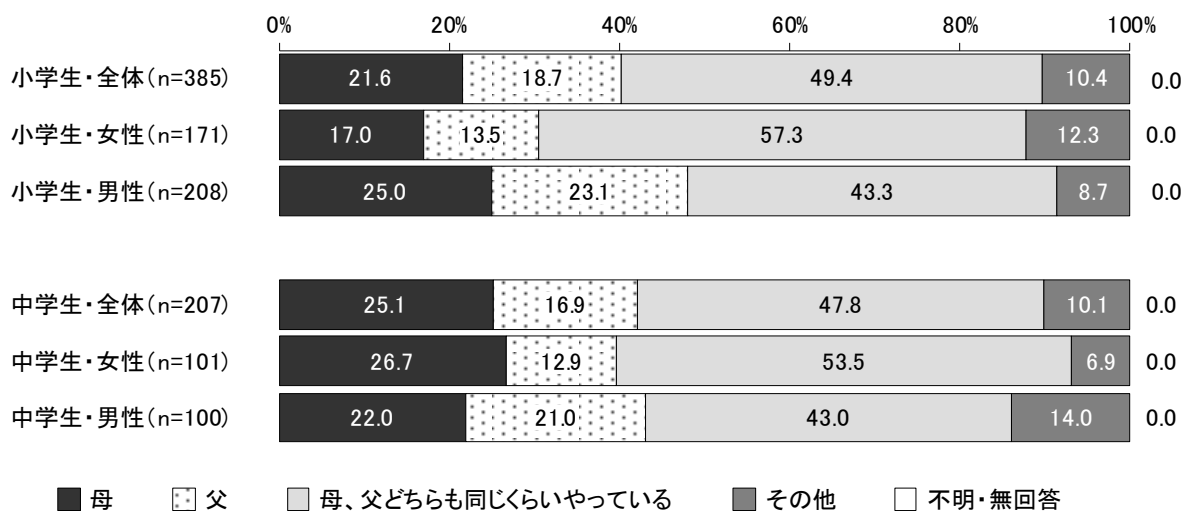
■H 給料をもらう仕事をしている

給料をもらう仕事をしている主な家族は、小学生・中学生の全体はともに「母、父どちらも同じくらいやっている」（それぞれ約6割）が最も高くなっています。



■I いっしょにでかけたり、遊びに連れて行ったりしてくれる

いっしょにでかけたり、遊びに連れて行ったりしてくれる主な家族は、小学生・中学生の全体はともに「母、父どちらも同じくらいやっている」（それぞれ約5割）が最も高くなっています。



3 経験や考え方について

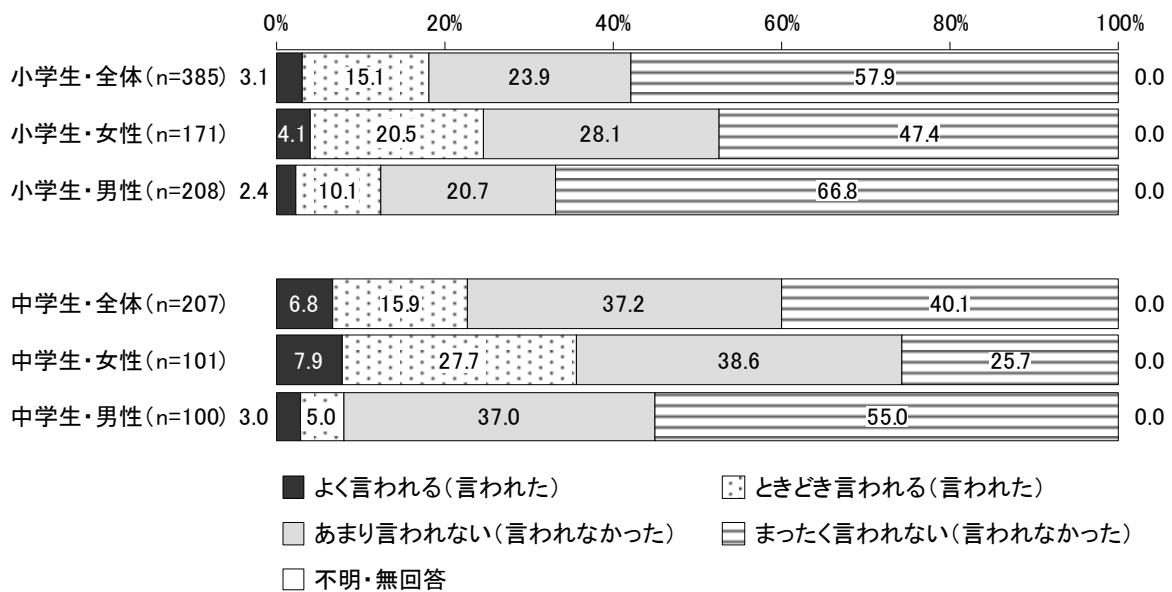
問5 あなたは「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」ということを言われたことがありますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『言われる(言われた)』 … 「よく言われる(言われた)」と「ときどき言われる(言われた)」を合算
 『言われない(言われなかった)』 … 「まったく言われない(言われなかった)」と「あまり言われない(言われなかった)」を合算

「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」ということを言われた経験は、『言われる(言われた)』が小学生・全体で18.2%、中学生・全体で22.7%、『言われない(言われなかった)』が小学生・全体で81.8%、中学生・全体で77.3%となっています。

性別では、『言われる(言われた)』が小学生・女性で24.6%、中学生・女性で35.6%と、男性と比べて小学生は12.1ポイント、中学生は27.6ポイント、それぞれ高くなっています。なお、中学生・女性では「よく言われる(言われた)」が7.9%と、小学生男女や中学生・男性と比べても高くなっています。

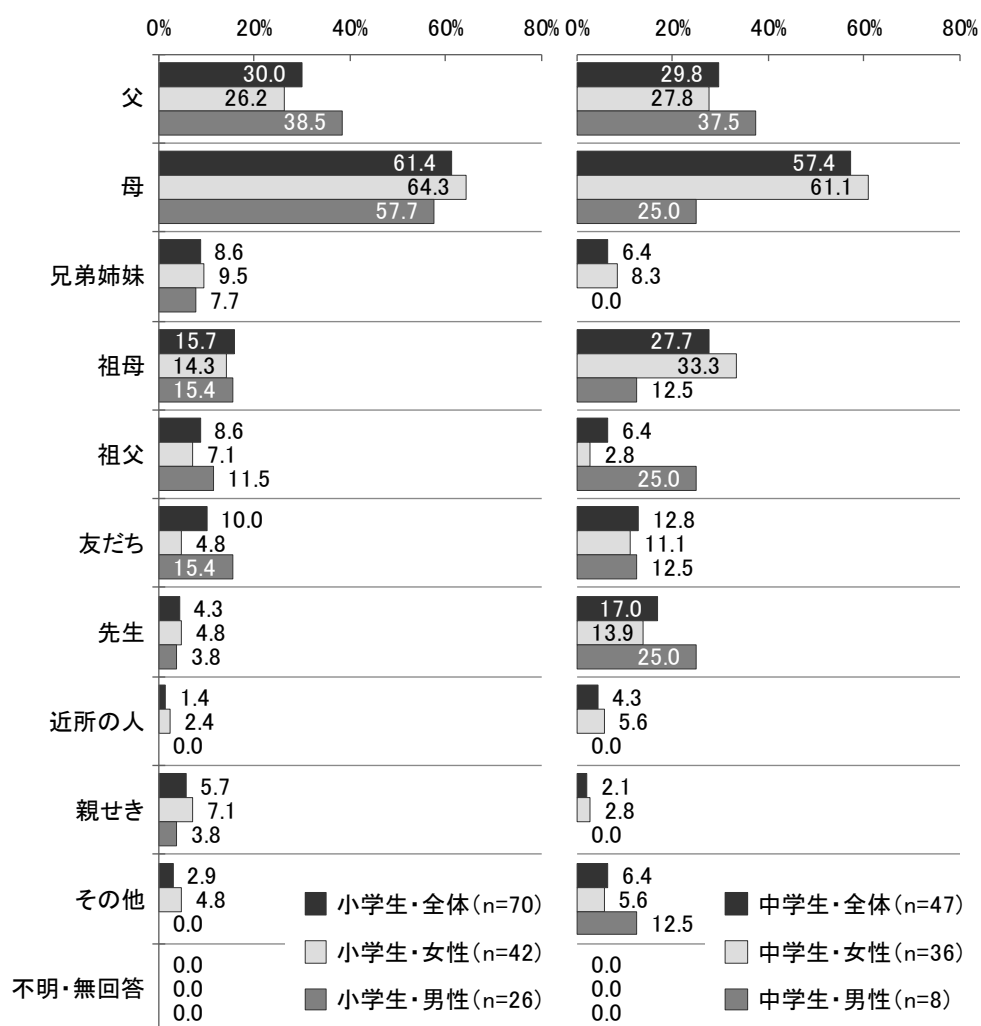


問5で「1 よく言われる (言われた)」「2 ときどき言われる (言われた)」と回答した方のみ

問6 それはだれに言われましたか。(複数回答)

「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」の発言者は、小学生・中学生の全体はともに「母」(それぞれ約6割)と最も高く、次いで「父」(それぞれ約3割)となっています。

性別では、中学生・女性で「母」「祖母」からが中学生・男性と比べてそれぞれ36.1ポイント、20.8ポイント高くなっています。一方、小学生・男性で「父」「友だち」からが小学生・女性と比べてそれぞれ12.3ポイント、10.6ポイント高くなっています。中学生・男性では「祖父」「先生」からが中学生・女性と比べてそれぞれ22.2ポイント、11.1ポイント高くなっています。中学生において男女差が大きくなっています。

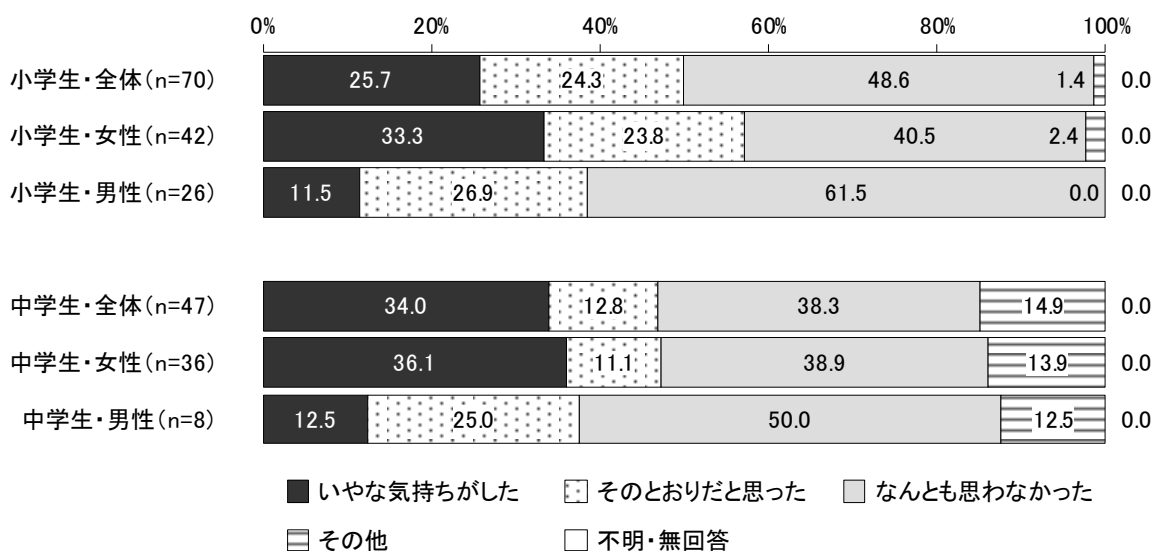


問5で「1 よく言われる (言われた)」「2 ときどき言われる (言われた)」と回答した方のみ

問7 あなたは言われたとき、どのような気持ちになりましたか。(単数回答)

「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」と言われた時の気持ちは、小学生・中学生の全体はともに「なんとも思わなかった」(小学生で 48.6%、中学生で 38.3%) が最も高くなっている一方で、「いやな気持ちでした」が小学生・全体で 25.7%、中学生・全体で 34.0%となっています。

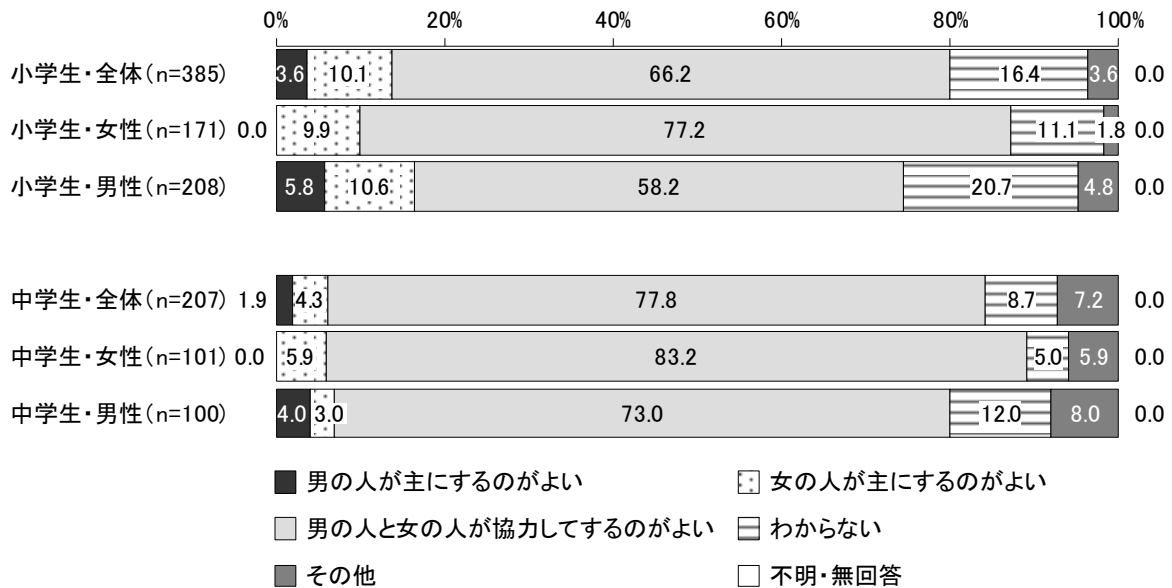
性別では、「いやな気持ちでした」が小学生・女性で 33.3%と、男性と比べて 21.8 ポイント高くなっています。また、中学生・女性で「いやな気持ちでした」が 36.1%と高くなっています。一方、「なんとも思わなかった」が小学生・男性で 61.5%と、女性と比べて 21.0 ポイント高くなっています。



問8 あなたは、食事のしたく・そうじ・せんたくなどの家事は、だれがするのが一番よいと思いますか。(単数回答)

家事は、だれがするのが一番よいと思うかは、小学生・中学生の全体はともに「男の人と女の人が協力してするのがよい」(小学生で66.2%、中学生で77.8%)が最も高くなっています。

性別では、「男の人と女の人が協力してするのがよい」が小学生・女性で77.2%、中学生・女性で83.2%と、男性と比べてそれぞれ19.0ポイント、10.2ポイント高くなっています。なお、「女の人が主にするのがよい」が、小学生の男女でそれぞれ1割程度みられるものの、中学生の男女では低くなっています。

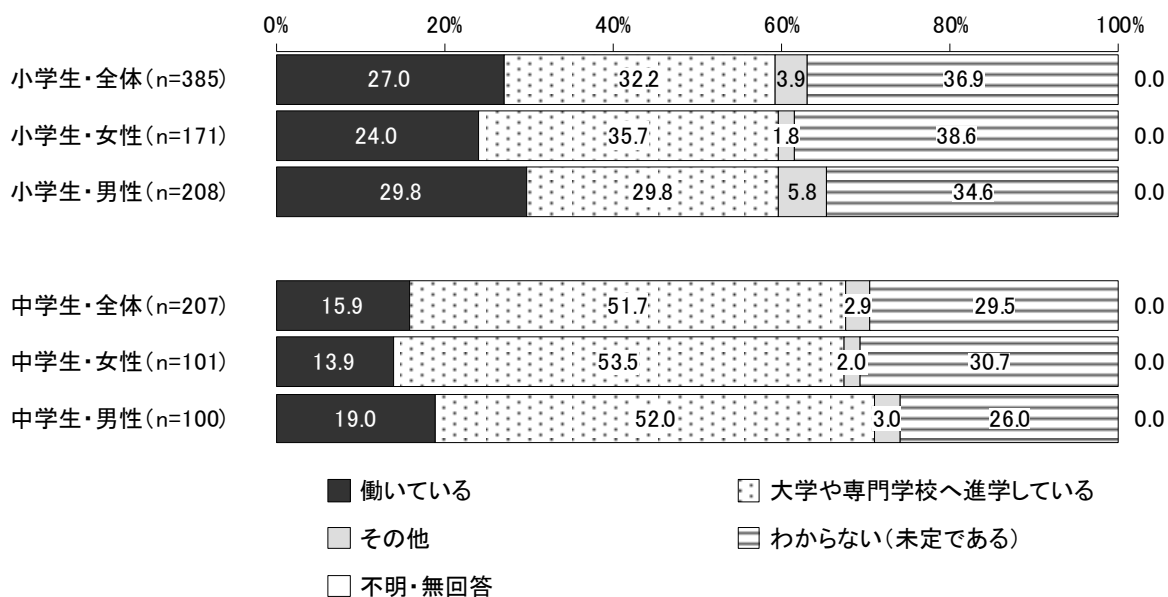


4 将来のことなどについて

問9 あなたは、20歳の時点で、どのような進路をとっていることを望みますか。(単数回答)

20歳の時点での希望する進路は、小学生・中学生の全体はともに「大学や専門学校へ進学している」(小学生で32.2%、中学生で51.7%)が最も高くなっています。

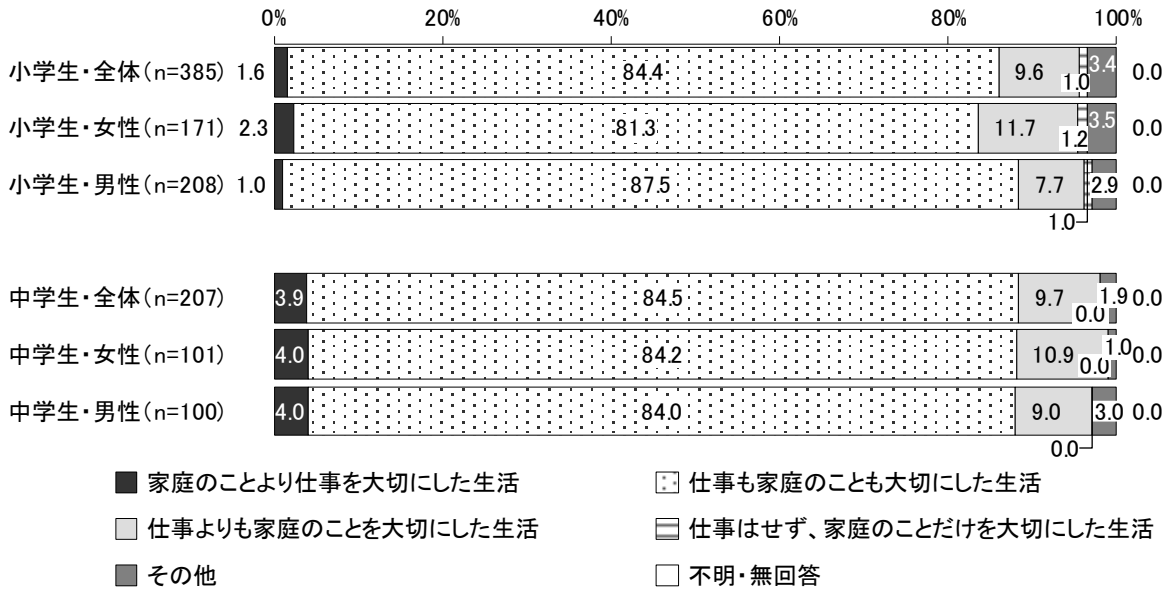
性別では、「大学や専門学校へ進学している」が小学生・女性で35.7%と、男性と比べて5.9ポイント高くなっているものの、大差はみられません。



問10 あなたは将来、仕事と家庭の生活について、どのようにしたいですか。(単数回答)

将来、仕事と家庭の生活についての希望は、小学生・中学生の全体はともに「仕事も家庭のことも大切に
した生活」(小学生で84.4%、中学生で84.5%)が最も高くなっています。

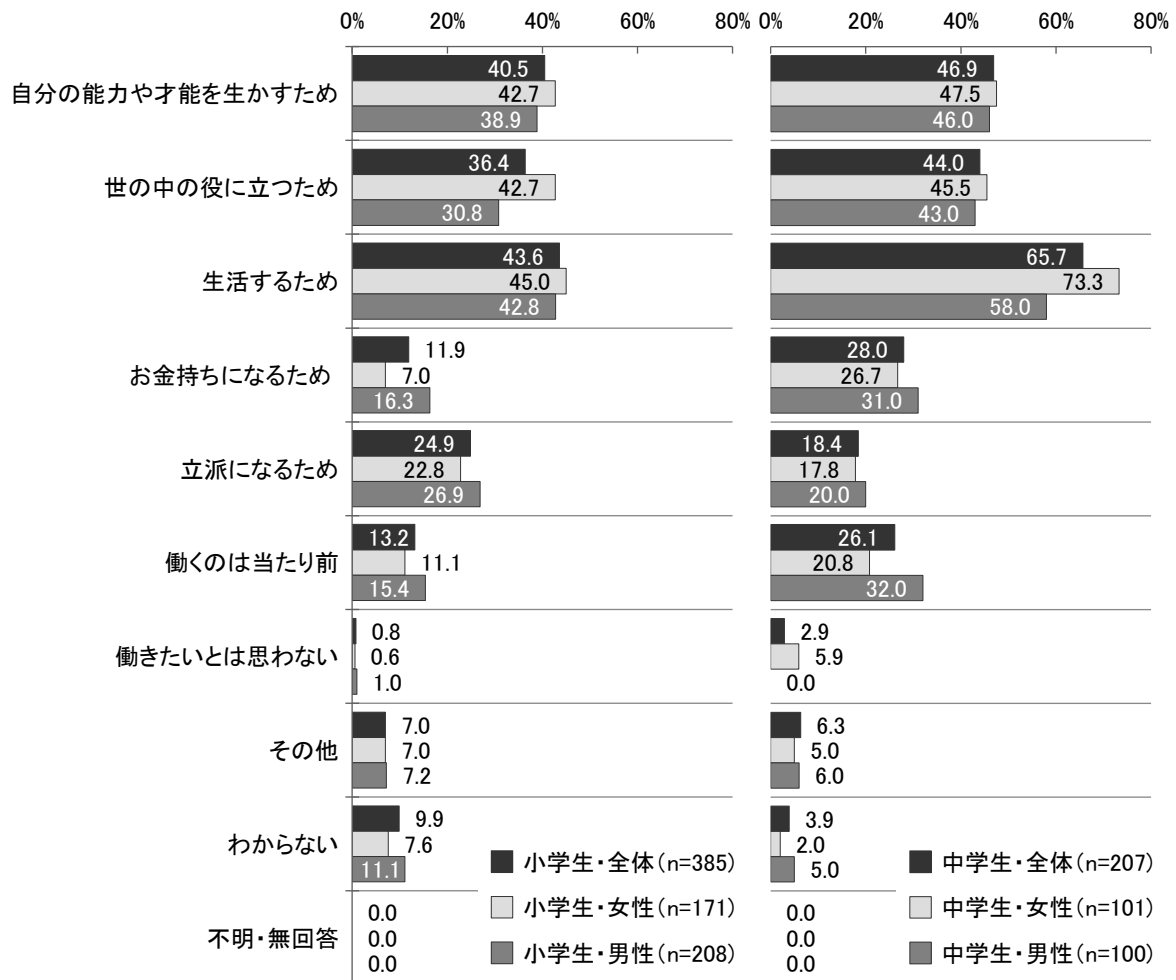
性別では明確な差はみられないものの、小学生の男女ともに数パーセントあった「仕事はせず、家庭のこ
とだけを大切にしたい生活」が、中学生の男女では0.0%となっています。



問11 あなたは将来、何のために働きたいと思いますか。(複数回答)

将来、何のために働きたいかは、小学生・中学生の全体はともに「生活するため」(小学生で43.6%、中学生で65.7%)が最も高くなっています。

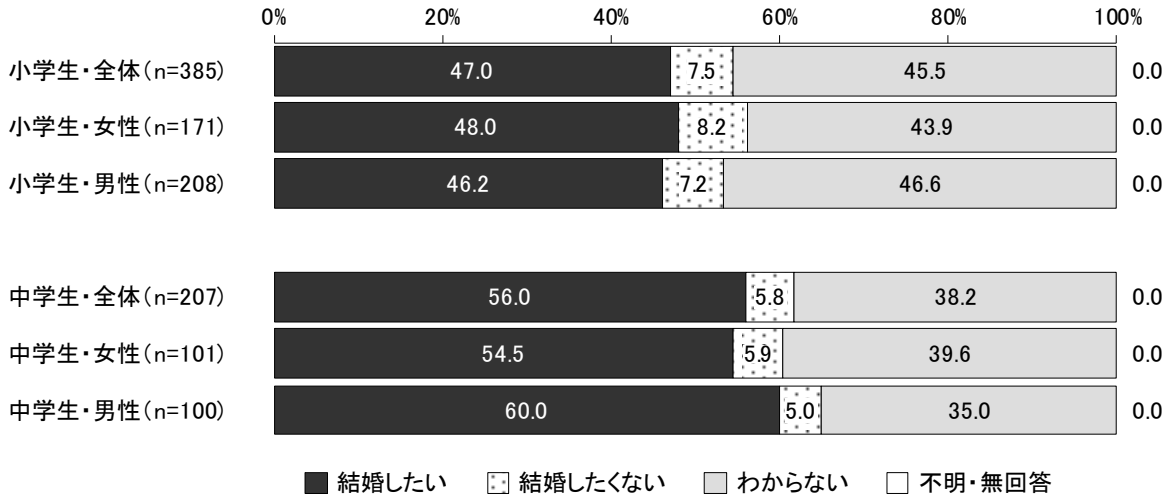
性別では、小学生・女性で「世の中の役に立つため」が42.7%と、男性と比べて11.9ポイント高くなっています。また、中学生・女性で「生活するため」が73.3%と男性と比べて15.3ポイント、中学生・男性で「働くのは当たり前」が32.0%と女性と比べて11.2ポイント、それぞれ高くなっています。



問12 あなたは将来、結婚したいですか。(単数回答)

将来、結婚したいかは、小学生・中学生の全体はともに「結婚したい」(小学生で47.0%、中学生で56.0%)が最も高くなっています。

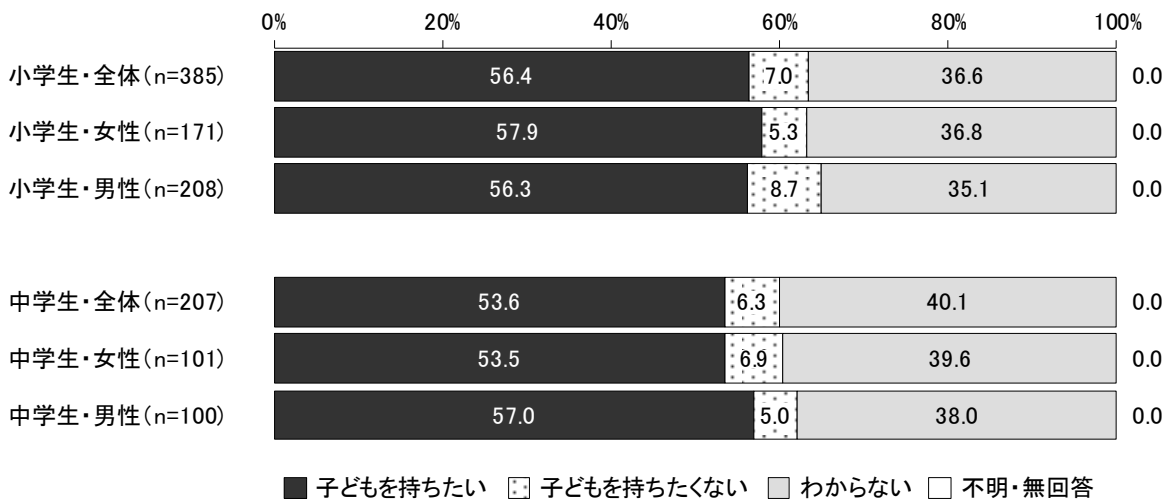
性別では大差はみられないものの、中学生・男性で「結婚したい」が女性と比べてやや高くなっています。



問13 あなたは将来、子どもを持ちたいと思いますか。(単数回答)

将来、子どもを持ちたいかは、小学生・中学生の全体はともに「子どもを持ちたい」(小学生で56.4%、中学生で53.6%)が最も高くなっています。

性別では大差はみられないものの、中学生・男性で「子どもを持ちたい」が女性と比べてやや高くなっています。



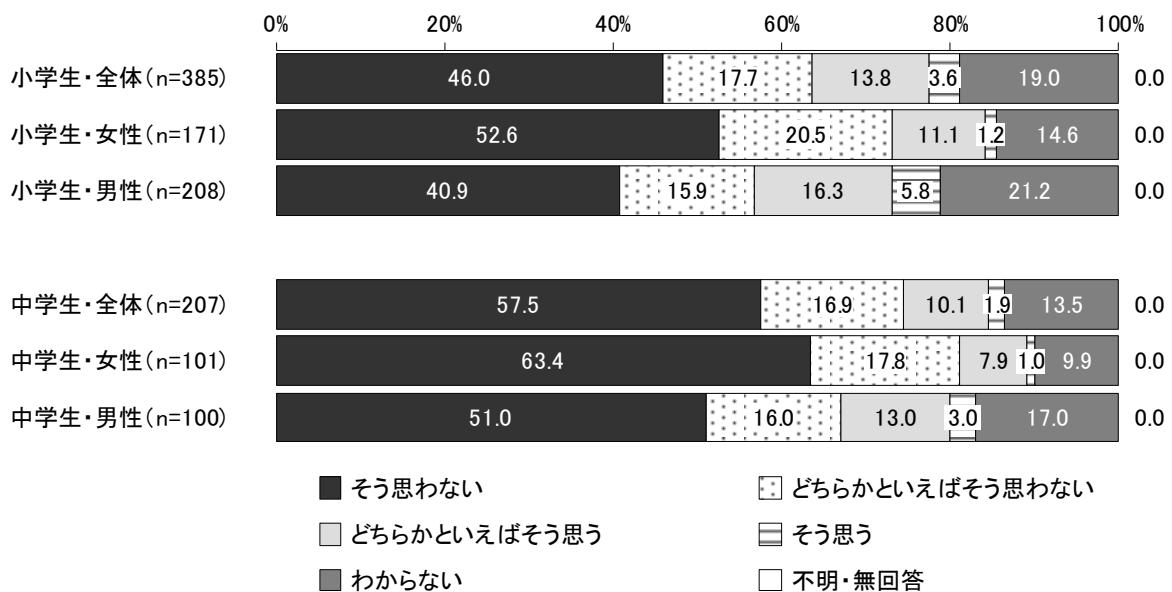
問 14 「男は仕事をし、女は外で働かず家事や子育てをする」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『そう思わない』 … 「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合算
 『そう思う』 … 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合算

「男は仕事をし、女は外で働かず家事や子育てをする」という考え方をどう思うかは、『そう思わない』が小学生・全体で63.7%、中学生・全体で74.4%、『そう思う』が小学生・全体で17.4%、中学生・全体で12.0%となっています。

性別では、『そう思わない』が小学生・女性で73.1%、中学生・女性で81.2%と、男性と比べて小学生は16.3ポイント、中学生は14.2ポイント、それぞれ高くなっています。



5 男女共同参画全般について

問 15 あなたは、次にあげるような場面で、男女がどの程度平等になっていると思いますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

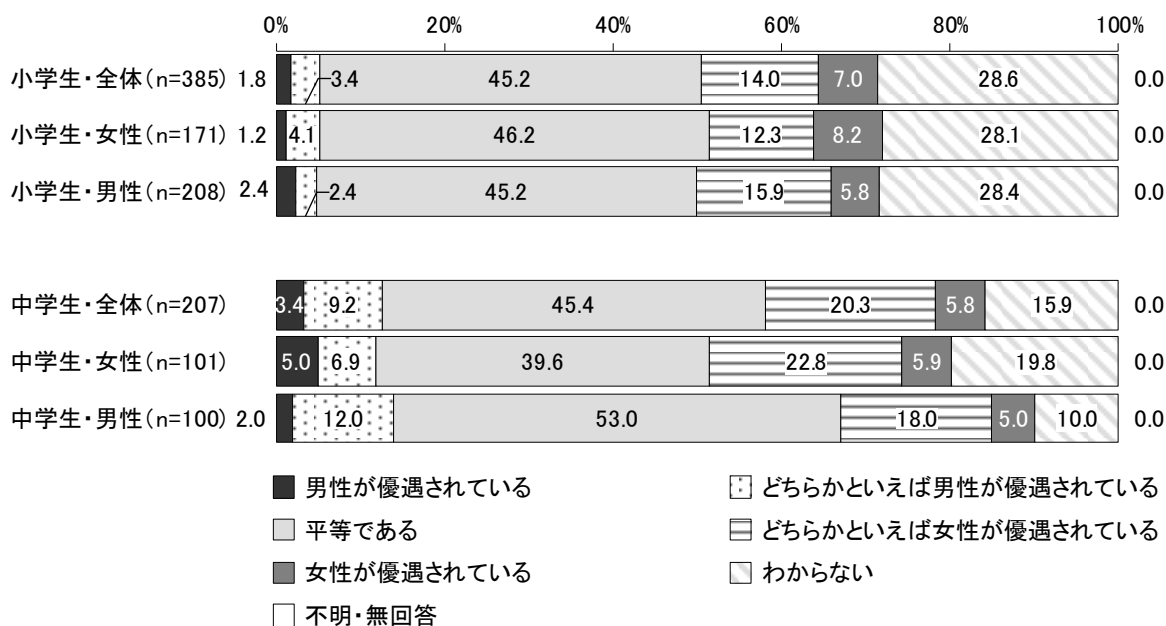
『男性優遇』 … 「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合算

『女性優遇』 … 「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合算

■A 家庭

家庭における男女平等感は、「平等である」が小学生・全体で45.2%、中学生・全体で45.4%となっています。

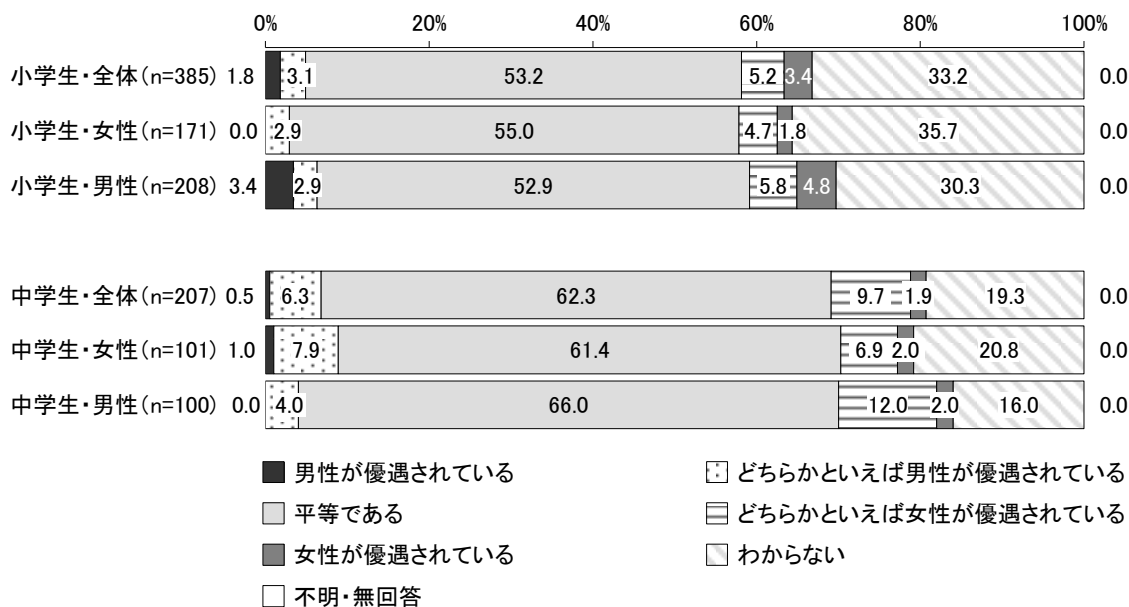
性別では、中学生・女性で「平等である」が39.6%と、男性と比べて13.4ポイント低くなっています。



■B 学校

学校における男女平等感は、「平等である」が小学生・全体で53.2%、中学生・全体で62.3%となっています。

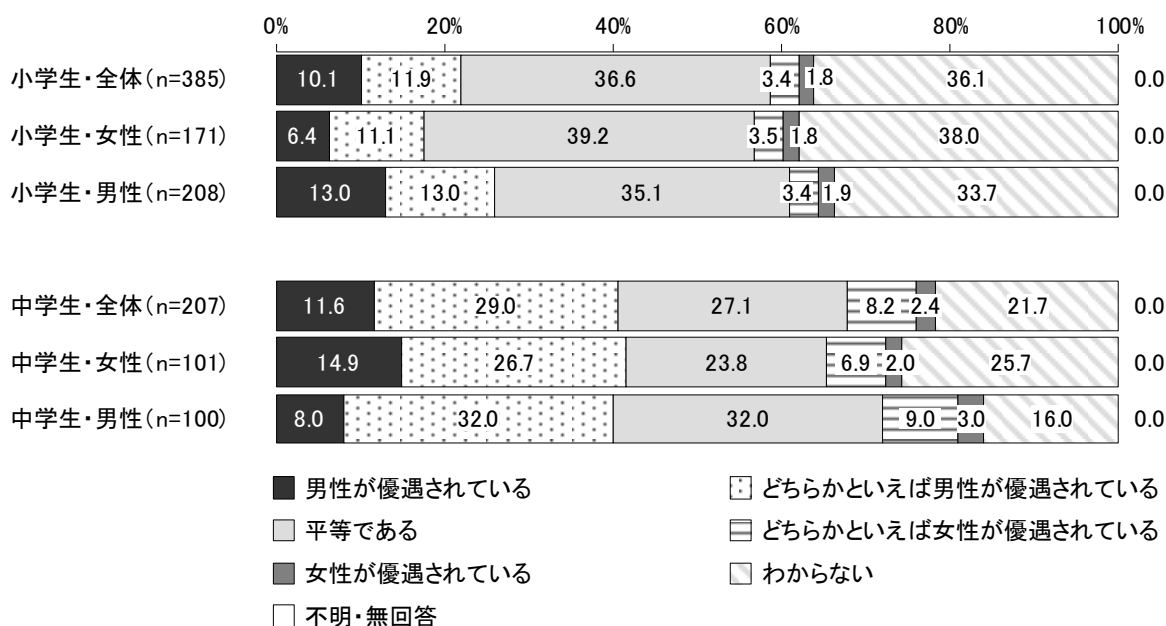
性別では、中学生・女性で「平等である」が61.4%と、男性と比べてやや低くなっています。



■C 社会全体

社会全体における男女平等感は、「平等である」が小学生・全体で36.6%、『男性優遇』が中学生・全体で40.6%となっています。

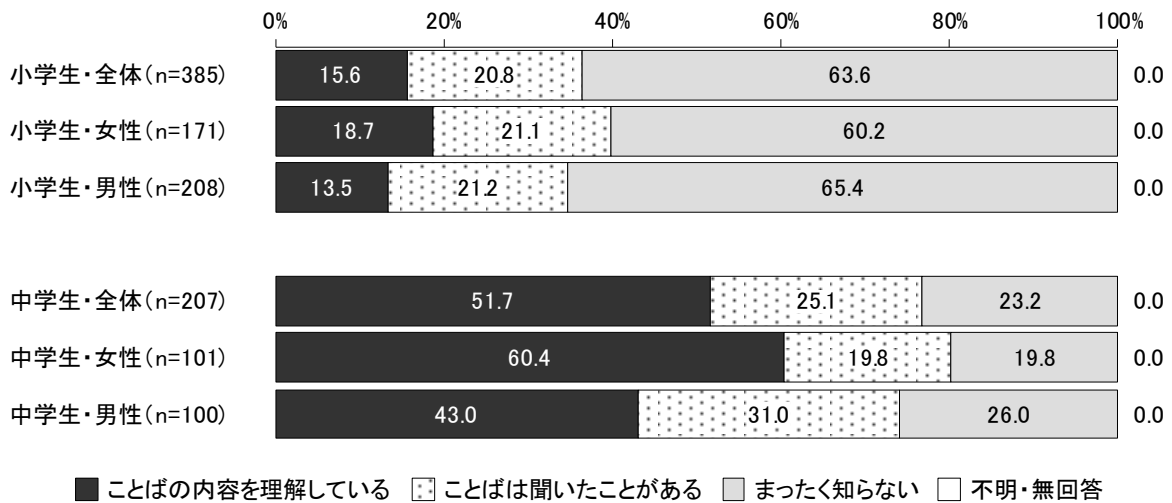
性別では、小学生・男性で『男性優遇』が26.0%と、女性と比べて8.5ポイント高くなっています。



問 16 あなたは、LGBT（性的マイノリティ）ということばを知っていますか。（単数回答）

LGBT（性的マイノリティ）という言葉の認知度は、小学生・全体で「まったく知らない」が63.6%、中学生・全体で「ことばの内容を理解している」が51.7%と、それぞれ最も高くなっています。

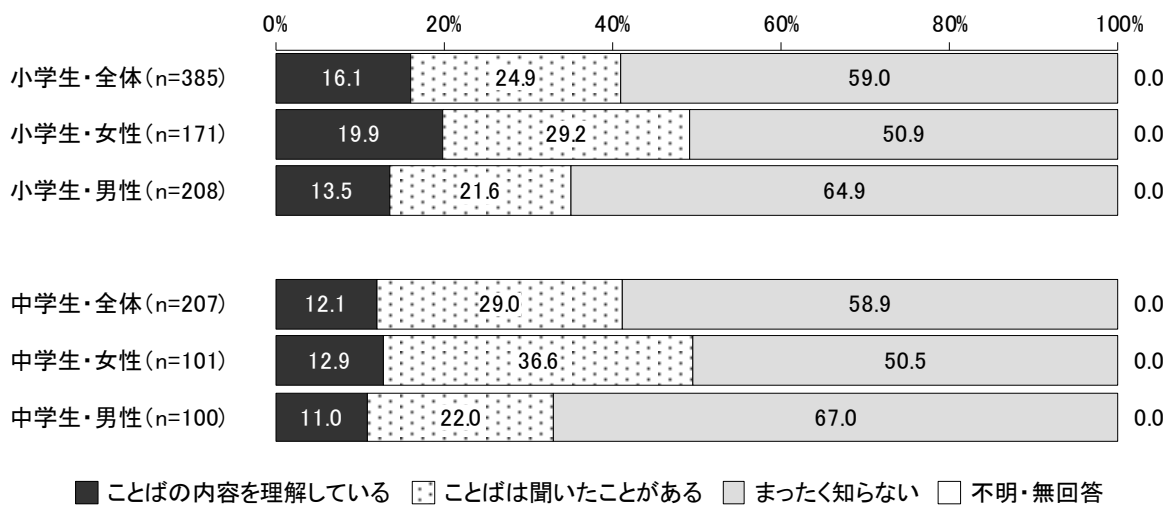
性別では、中学生・女性で「ことばの内容を理解している」が60.4%と、男性と比べて17.4ポイント高くなっています。なお、小学生において「ことばの内容を理解している」は女性が18.7%、男性が13.5%となっています。



問 17 あなたは、男女共同参画ということばを知っていましたか。（単数回答）

男女共同参画という言葉の認知度は、「まったく知らない」が小学生・全体で59.0%、中学生・全体で58.9%と、それぞれ最も高くなっています。

性別では、中学生・女性で「ことばは聞いたことがある」が36.6%と、男性と比べて14.6ポイント高くなっています。なお、小学生・女性で「ことばの内容を理解している」が19.9%と高くなっています。



令和4年度
土岐市男女共同参画に関するアンケート調査
【調査結果報告書】

令和5年3月発行

発行 土岐市 地域振興部 まちづくり推進課

〒509-5192
土岐市土岐津町土岐口 2101
TEL : 0572(54)1111 (内線 311)
FAX : 0572(55)7763